

2022

Annual Report

Center for Infectious Disease Education and Research 2022

大阪大学感染症総合教育研究拠点

CiDER



〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-8
TEL:06-6877-5111
MAIL:info@cider.osaka-u.ac.jp



**CENTER FOR INFECTIOUS DISEASE
EDUCATION AND RESEARCH
OSAKA UNIVERSITY**

CONTENTS

1	拠点長挨拶
2	CiDER の概要 <ul style="list-style-type: none">・Vision と Mission・日本財団・大阪大学感染症対策プロジェクト・アクションプランと2022年度活動実績・組織図
7	構成員
	部門の活動報告
10	■ 科学情報・公共政策部門 <ul style="list-style-type: none">行動経済学ユニット人間科学ユニット数理分析ユニット社会技術ユニット
20	■ 感染症・生体防御研究部門 <ul style="list-style-type: none">ヒト生体防御学チーム生体応答学チームウイルス制御学チーム臨床生命工学チーム部局横断型「感染症」研究促進プログラム— オール阪大研究 —
32	■ 人材育成部門 <ul style="list-style-type: none">検体解析人材チーム感染制御人材チーム医療情報人材チーム
40	アウトリーチ活動
43	CiDER のデータ <ul style="list-style-type: none">・原著論文・プレプリント・受賞・メディア掲載状況・社会貢献・外部資金・収入・支出

拠点長挨拶



大阪大学は、感染症の脅威から人々の「いのち」と「暮らし」を守ることを目指し、2021年4月に、感染症総合教育研究拠点（Center for Infectious Disease Education and Research, CiDER）を設置しました。本拠点は、文系理系の枠を超えて大阪大学の叡智を集結し、国内外の研究機関や産業界と連携しながら、科学情報・公共政策部門、感染症・生体防御研究部門、人材育成部門の3部門が連携し、新興・再興感染症の克服を目指しています。

また、日本財団の理解とご支援を賜り、「日本財団・大阪大学感染症対策プロジェクト」が、人類の脅威である感染症の基礎研究・基盤研究の重要性のもとに、10年間のプロジェクトとしてスタートしました。

CiDERは、このプロジェクトの推進役（母体）となる組織で、西尾総長のリーダーシップのもと、国内外の感染症研究と人材育成をリードする拠点として、このプロジェクトに取り組んでいます。

2022年度は、その基盤構築を着実に推進すべく、アクションプランに基づきさまざまな取り組みを実施いたしました。そして、新たに本拠点の Vision『感染症の脅威から「いのちと暮らし」を守るための総合知を形成する』と、Mission『感染症総合知のハブとなる』を定め、人文科学分野と自然科学分野の研究者が一体となってプロジェクトを推進しています。

2023年度以降も、これまでの活動経験や成果などを活かしつつ展開し、世界的な研究拠点の形成に向けて邁進いたします。

大阪大学感染症総合教育研究拠点

拠点長 松浦 善治



Vision

感染症の脅威から
「いのちと暮らし」を守るための
総合知を形成する

Mission

感染症総合知のハブとなる

大阪大学は、個々人が社会で活躍できる寿命（社会寿命）を延伸させ、個々人の多様性を活かすことによって、豊かで幸福な人生をすべての人が享受できる社会の実現を目指しています。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、テレビやインターネットにおける真偽不明の情報の氾濫、それまで軽視されてきた感染症の基礎研究、感染症の流行に弱い医療体制など、日本が抱える課題が浮き彫りになりました。これらを教訓に、今回の国難を乗り越え、次なる感染症の流行に備えるため、大阪大学は、大学の知や人材が結集する「感染症総合教育研究拠点（Center for Infectious Disease Education and Research (CiDER)）」を2021年4月に設置しました。

本拠点では、学内外、国内外の機関や産業界と連携し、感染症の脅威から人々の「いのち」と「暮らし」を守ることを目指し、①科学的エビデンスに基づく総合的な情報発信、②予防、診断、治療法等の総合的な研究、③医療従事者への感染症対策に関する最新技術・知識の教育訓練、感染症対策リーダーの育成に取り組んでいます。

本拠点では、研究型総合大学だからこそその利点を十二分に活かし、人類共通の課題である感染症の克服に貢献してまいります。

日本財団・大阪大学感染症対策プロジェクト

大阪大学と公益財団法人日本財団は、「日本財団・大阪大学感染症対策プロジェクト」を10年間実施します。本プロジェクト実施にあたり、日本財団から本学に対し、総合研究開発拠点の整備費を含め、230億円の助成が行われる予定です。

本プロジェクトは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行で明らかになった社会課題に対して、長期的視野に立ち、今後も起こり得る感染症危機において、人々の「いのち」を守り、社会・経済活動を維持するための感染症研究基盤を整備するものです。

大阪大学は、2021年4月に設置した感染症総合教育研究拠点を中心に、研究型総合大学としての多様性を活かし、国内外の研究機関、産業界とのオープンイノベーションを推進し、これらの社会課題解決に向けて、科学的エビデンスに基づく情報の発信、感染症研究基盤の強化及び感染症医療人材の育成等を行います。



目的

感染症による将来の脅威に備え、人々のいのちを守り、社会・経済活動の維持に貢献することを旨として、感染症に関する研究、人材の育成、社会への情報発信及び研究成果の社会実装を推進する。

課題1 社会・経済活動の維持

課題2 感染症の予防と治療

課題3 医療崩壊の阻止

アクションプラン1

情報発信・リテラシー向上

科学的エビデンスに基づいた信頼性の高い情報発信

- ◎政策分析と提言、情報発信(日英)
- ◎オンライン情報配信(年12回)
- ◎公開市民講座(毎年)

アクションプラン2

感染症研究基盤構築

予防、診断、治療等の迅速な開発と普及のための基礎研究成果の創出

- ◎ヒト生体防御システムの基本原理の解明
- ◎病原微生物に対する免疫応答機構の解明
- ◎病原微生物の基礎研究とその制御法の開発
- ◎感染症克服に向けた分野横断型研究(知のプラットフォーム: オール阪大研究)

アクションプラン3

医療人材育成

医療従事者等の教育訓練や感染症対策リーダー育成

- ◎医療従事者等1万人への教育訓練等
- ◎若手医師育成海外実習等(毎年)
- ◎感染・免疫国際フォーラム(毎年)
- ◎最先端免疫学国際シンポジウム(毎年)

CiDERのアクションプランと2022年度活動実績

アクションプラン	計画	実績(2023年3月末現在)
アクションプラン1 科学的エビデンスに基づいた信頼性の高い情報発信	情報発信の基盤となる拠点ホームページを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ◆拠点ホームページを構築し、情報を日々更新した(NEWS掲載97件)。 ◆情報発信サイト「+CiDER(プラスサイダー)」を開設し、感染症等に関するわかりやすい動画や記事等を掲載し、情報を発信した(動画30件、記事188件)。
	中学生から社会人まで幅広い層を対象とした感染症リテラシー向上に資するセミナーを開催する	<ul style="list-style-type: none"> ◆CiDER研究者が講師となり、SpringXセミナー「正しく学ぶ!感染症から『いのち』と『暮らし』を守る講座 season2」を毎月実施した。合計11,889名が受講し、受講者満足度は99%であった。
	感染症・免疫研究、行動経済学、社会心理学、数理分析、社会技術分野からの研究成果を、政策評価・提言として、市民に分かりやすく伝える(情報発信)	<ul style="list-style-type: none"> ◆CiDERシンポジウムを2回開催した。「わかりやすく学ぶ 感染症研究の最前線」(9/4)参加者:410名(現地112名、オンライン298名)／受講者満足度:95.1%「私たちのくらしとワクチン」(1/7)参加者:598名(現地194名、オンライン404名)／受講者満足度:94.6%。 ◆「大規模イベントの楽しみはどのように取り戻されてきたか~2025年大阪・関西万博を見据えて~」を開催した。(2/20)参加者:109名／受講者満足度:95%
アクションプラン2 予防、診断、治療等の迅速な開発と普及のための基礎研究成果の創出	感染症および免疫学にかかる研究成果の創出	<ul style="list-style-type: none"> ◆学術論文の発表を41本、学会発表を国内25本、海外7本行った。
	研究成果を国内外へ発信するため、感染症学・免疫学に関する国際シンポジウムを開催し、国内外問わず、著名な研究者や才能ある若手研究者を招聘する	<ul style="list-style-type: none"> ◆CiDER Seminar on Microbiology and Immunologyを5回開催した(4/5、6/9、10/24、12/19、2/24、のべ344名参加)。 ◆最先端の感染症・免疫研究をテーマとするInternational Symposium on Microbiology and Immunologyを共催した(2/3、135名参加)。 ◆「あわじ感染と免疫国際フォーラム」を共催した(9/7~9、のべ184名参加)。
	分野横断型研究促進プロジェクトなどの新規事業を実施し、開かれた研究拠点となるための基盤を確立させる	<ul style="list-style-type: none"> ◆「部局横断型「感染症」研究促進プログラム」を実施した(37課題採択)。
アクションプラン3 医療従事者等の教育訓練や感染症対策リーダー育成	感染症教育、感染制御教育、検体検査教育のコンテンツを充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ◆感染症対応医療に関する教育のためのコンテンツを作成した(57本)。 ◆受講管理システム「CiDER-EDU」の運用を5月から開始した。登録者数:3,291名/全ページビュー141,568回
	学外医療従事者に向けた初期研修医教育プログラムを実施する	<ul style="list-style-type: none"> ◆CORE-ID 2022(初期臨床研修医向け感染症研修プログラム)を開始した。受講者数:累計727名/大阪府下臨床研修病院のうち37施設から参加
	医療従事者、学生、市民らに向けたセミナー等の実施(感染症に関する知見の発信)	<ul style="list-style-type: none"> ◆他機関や自治体等とも連携し、講習会・研究会・セミナーを144回開催した(のべ27,000名が受講)。
アクションプラン4 異分野の専門家が集う研究棟を整備	世界的建築家の参画による建物の基本設計を策定する	<ul style="list-style-type: none"> ◆基本計画を策定(4月)。デザインビルド(DB)業者を公募入札により選定(8月)し、基本設計を策定(2月)した。

TOPICS

シンポジウム

第2回 CiDER SYMPOSIUM ハイブリッド

「わかりやすく学ぶ 感染症研究の最前線」

会場:千里ライフサイエンスセンター

第1部 講演会

「臨床現場における感染症対策」「感染症研究の最前線」

「感染症克服に向けた免疫研究」「社会心理学からみた感染症」

第2部 パネルディスカッション

「感染症対策と研究のこれまでを知り、これからを考える」

2022年
9月4日

最先端研究の解説だけでなく、高校生からの質問に答えるなど、双方向型のシンポジウムを実施しました。

詳細はこちら



第3回 CiDER SYMPOSIUM ハイブリッド

(大阪大学シンポジウム)

「私たちのくらしとワクチン」

会場:大阪府立国際会議場

第1部 講演会

「これまでの新型コロナウイルス感染症対策について」

「感染症ワクチンの効用と改善点」「ワクチンの効果評価~何人の人が病気にならず済んだのか?~」

第2部 パネルディスカッション「どうするワクチン接種??」

2023年
1月7日

市民の関心が高いワクチンをテーマとして、各分野の専門家が熱く議論を交わしました。

詳細はこちら



2023年
2月20日

「大規模イベントの楽しみは オンライン

どのように取り戻されてきたか

~2025年大阪・関西万博を見据えて~」

これまでの大規模集会以での感染症対策に関する実践例を共有するとともに、大阪・関西万博の準備に向けて議論を展開しました。

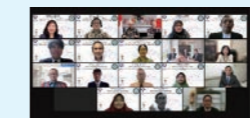


国際連携

2022年
4月

インドネシア・アイルランガ大学 熱帯感染症研究所との 包括連携協定を締結

2022年4月、アイルランガ大学 Institute of Tropical Disease (ITD) との間で、新興・再興感染症に関する研究上の連携についての包括連携協定を締結しました。



New

CiDER- DP



CiDER- PDP



迅速に公表することで活発な議論の喚起、学術論文への政策評価や政策提言などにつなげることを目指し、CiDER Discussion Paper (CiDER-DP)、CiDER Policy Discussion Paper (CiDER-PDP)を制度化し、公開しています。

2022年
10月14日

2022 UBC&OU Virtual Symposium on Infectious Diseases and Drug Development オンライン

大阪大学のグローバル・ナレッジ・パートナーでもあるUniversity of British Columbia (UBC・カナダ) 医学部と感染症研究を推進するための連携を進めています。



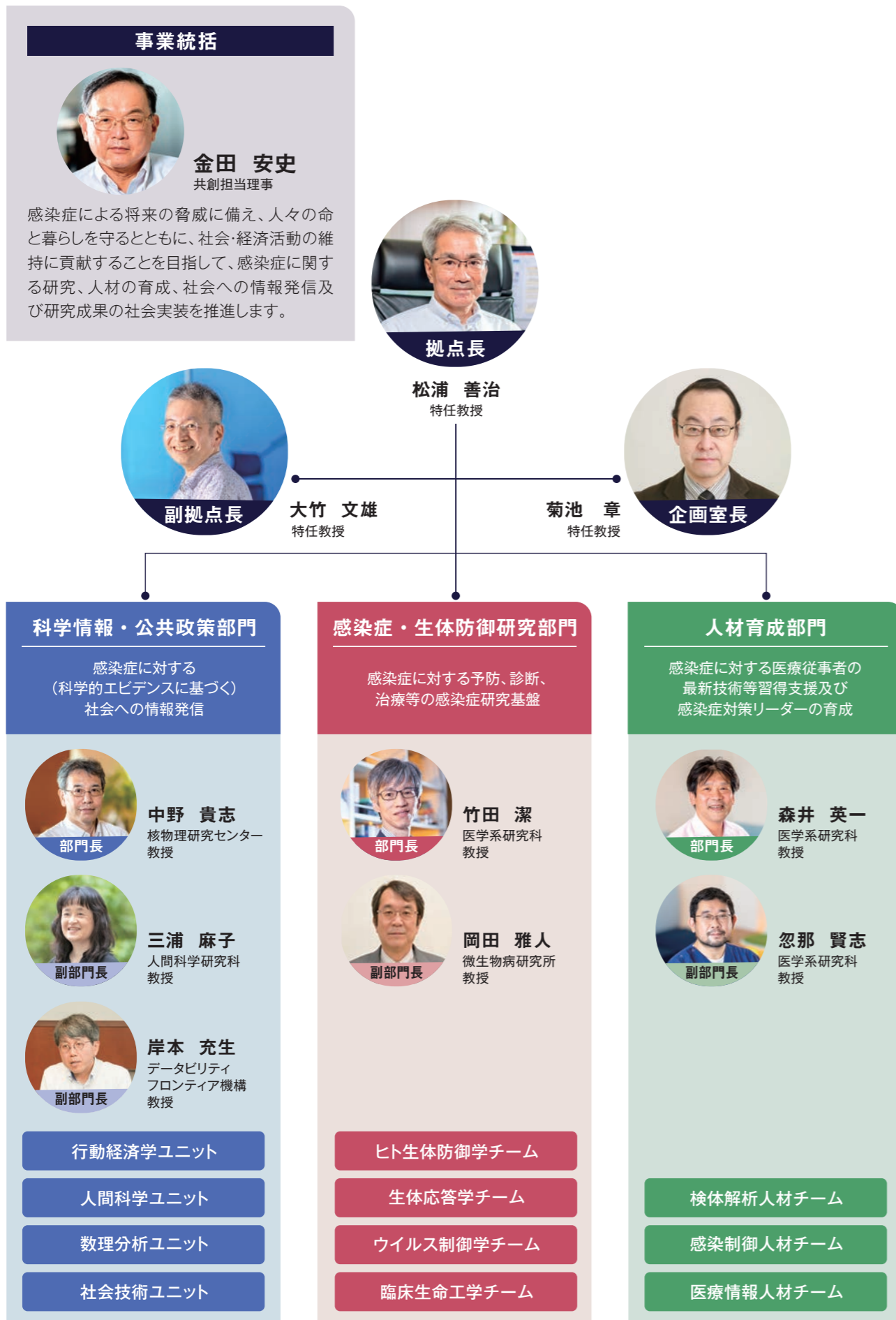
Now

世界的建築家・安藤忠雄氏による感染症研究棟の整備を進めています。2023年度から着工し、2025年2月竣工の予定です。



感染症総合教育研究棟(仮称)イメージグラフィックス
 □ 基本デザイン・デザイン監修: 安藤忠雄建築研究所
 □ 基本計画: 大阪大学、明豊ファシリティアークス株式会社
 □ 設計・施工: 大成建設・日建設計特定建設工事共同企業体(デザインビルド)

組織図



構成員

拠点長 松浦 善治 / 副拠点長 大竹 文雄 / 拠点長補佐 木下 タロウ

科学情報・公共政策部門 部門長 中野 貴志		氏名	職名
行動公共政策チーム	行動経済学ユニット	大竹 文雄 北村 周平 佐々木 周作	ユニット長/特任教授(常勤) 特任准教授(常勤) 特任准教授(常勤)
		久保田 荘 小林 慶一郎 筒井 義郎 仲田 泰祐 服部 直樹 藤井 大輔 山村 英司	連携研究員/早稲田大学 准教授 連携研究員/慶應義塾大学 教授 連携研究員/京都文教大学 教授 連携研究員/東京大学 准教授 連携研究員/みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 上席主任エコノミスト 連携研究員/東京大学 特任講師 連携研究員/西南学院大学 教授
		三浦 麻子 杉田 映理 村上 靖彦 平井 啓	ユニット長/大学院人間科学研究科 教授 大学院人間科学研究科 教授 大学院人間科学研究科 教授 大学院人間科学研究科 准教授
		八木橋 真央 大滝 涼子	特任助教(常勤) 特任研究員
		小林 潤 小林 哲郎 小林 智之 小森 政嗣 佐久間 篤 友川 幸 鳥海 不二夫 森井 大一	連携研究員/琉球大学 教授 連携研究員/香港城市大学 准教授 連携研究員/福島県立医科大学 助教 連携研究員/大阪電気通信大学 教授 連携研究員/東北大学 東北大学病院 助教 連携研究員/連携研究員/信州大学 准教授 連携研究員/東京大学 教授 連携研究員/日本医師会総合政策研究機構 主任研究員
	人間科学ユニット	池田 陽一 佐々木 健志	ユニット長/教授 特任准教授(常勤)
		中野 貴志 山本 仁	核物理研究センター 教授 安全衛生管理部 教授
		村上 道夫 井出 和希	ユニット長/特任教授(常勤) 特任准教授(常勤)
		岸本 充生 岡根谷 実里 北島 正章 後藤 あや 山脇 功次	データビリティフロンティア機構 教授 連携研究員/立命館大学 客員協力研究員 連携研究員/北海道大学 准教授 連携研究員/福島県立医科大学 教授 連携研究員/神戸教育短期大学 講師
		杉山 清寛	特任教授
情報分析チーム	兼任	宮田 俊男	共創機構 特任教授
	兼任	志水 美佳 中井 美恵	特任事務職員 特任事務職員
広報・渉外チーム			
科学情報・公共政策部門			

感染症・生体防御研究部門 部門長 竹田 潔		氏名	職名
ヒト生体防御学チーム	ヒト生体防御学チーム	Wing James Badger Søndergaard Jonas Nørskov Tulyeu Janyerkye 石井 利佳 小田 綾子	チーム長/准教授 特任助教(常勤) 特任研究員(常勤) 特任技術職員 特任事務職員
		岡田 随象 熊ノ郷 淳 竹田 潔 Standley Daron 藤本 学 保仙 直毅 坂口 志文 奥崎 大介 中村 昇太 松本 寿健	大学院医学系研究科 教授 大学院医学系研究科 教授 大学院医学系研究科 教授 微生物病研究所 教授 大学院医学系研究科 教授 大学院医学系研究科 教授 免疫学フロンティア研究センター 特任教授(常勤) 免疫学フロンティア研究センター 特任准教授(常勤) 微生物病研究所 特任准教授(常勤) 医学部附属病院 特任助教(常勤)
		伊勢 涉 香山 雅子 森 大輝 小池 拓矢	チーム長/教授 准教授 特任助教(常勤) 日本学術振興会 特別研究員
		兼任	
		兼任	
	生体応答学チーム	兼任	
		兼任	
		兼任	
		兼任	
		兼任	

		氏名	職名
生体応答学チーム	兼任	川合 智愛	特任技術職員
		岩谷 綱一	特任技術職員
		源 貴子	特任事務職員
		荒瀬 尚	免疫学フロンティア研究センター 教授
		伊川 正人	微生物病研究所 教授
		石井 優	大学院生命機能研究科 教授
		石谷 太	微生物病研究所 教授
		菊地 和也	大学院工学研究科 教授
		鈴木 一博	免疫学フロンティア研究センター 教授
		高倉 伸幸	微生物病研究所 教授
		谷口 正輝	産業科学研究所 教授
		永井 健治	産業科学研究所 教授
		長澤 丘司	大学院生命機能研究科 教授
		中谷 和彦	産業科学研究所 教授
		西野 邦彦	産業科学研究所 教授
		原 英二	微生物病研究所 教授
		深瀬 浩一	大学院理学研究科 教授
		藤尾 慈	大学院薬学研究科 教授
		山崎 晶	微生物病研究所 教授
		山本 雅裕	微生物病研究所 教授
		吉森 保	大学院生命機能研究科 教授
		審良 静男	免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）
		黒崎 知博	免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）
坂野上 淳	免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）		
高木 昭彦	免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）		
長田 重一	免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）		
岸本 忠三	免疫学フロンティア研究センター特任教授		
柳田 敏雄	大学院生命機能研究科 特任教授		
岡田 欣晃	大学院薬学研究科 准教授		
Nicholas Isaac Smith	先導的学際研究機構 准教授		
Kang Sujin	免疫学フロンティア研究センター 寄附研究部門准教授		
岡部 泰賢	免疫学フロンティア研究センター 特任准教授（常勤）		
ウイルス制御学チーム	兼任	松浦 善治	チーム長／特任教授（常勤）
		小野 慎子	特任准教授（常勤）
		田畝 修平	特任准教授（常勤）
		上村 健太郎	特任助教（常勤）
		飯田 哲也	微生物病研究所 教授
		岩永 史朗	微生物病研究所 教授
		岡田 雅人	微生物病研究所 教授
		岡本 徹	高等共創研究院 教授
		織田 順	大学院医学系研究科 教授
		小林 剛	微生物病研究所 教授
		塩田 達雄	微生物病研究所 教授
		下村 伊一郎	大学院医学系研究科 教授
		高尾 敏文	蛋白質研究所 教授
		堀口 安彦	微生物病研究所 教授
		渡辺 登喜子	微生物病研究所 教授
		中神 啓徳	大学院医学系研究科 寄附講座教授
		吉岡 靖雄	先導的学際研究機構 特任教授（常勤）
		笹井 美和	微生物病研究所 准教授
		岩崎 正治	微生物病研究所 特任准教授（常勤）
		蝦名 博貴	先導的学際研究機構 特任准教授（常勤）
		中込 咲綾	微生物病研究所 特任准教授（常勤）
		安齋 樹	微生物病研究所 助教
		平野 順紀	微生物病研究所 特任助教（常勤）
臨床生命工学チーム		位高 啓史	チーム長／教授
		申 育實	特任研究員（常勤）
感染症・生体防御研究部門	兼任	井上 豪	大学院薬学研究科 教授
		今田 勝巳	大学院理学研究科 教授
		大久保 忠恭	大学院薬学研究科 教授
		大政 健史	大学院工学研究科 教授
		小比賀 聡	大学院薬学研究科 教授
		小布施 力史	大学院理学研究科 教授
		加藤 貴之	蛋白質研究所 教授
		川端 重忠	大学院歯学研究科 教授
		河原 行郎	大学院医学系研究科 教授
		栗栖 源嗣	蛋白質研究所 教授
		兒玉 了祐	レーザー科学研究所 教授
		近藤 昌夫	大学院薬学研究科 教授
		齊藤 達哉	大学院薬学研究科 教授
		阪井 丘芳	大学院歯学研究科 教授
		鈴木 孝禎	産業科学研究所 教授
		高木 淳一	蛋白質研究所 教授
		辻川 和文	大学院薬学研究科 教授
		中川 敦史	蛋白質研究所 教授
		野田 健司	大学院歯学研究科 教授
		深川 竜郎	生命機能研究科 教授

		氏名	職名
感染症・生体防御研究部門	兼任	藤山 和仁	生物工学国際交流センター 教授
		水口 賢司	蛋白質研究所 教授
		水口 裕之	大学院薬学研究科 教授
		難波 啓一	大学院生命機能研究科 特任教授
		王 青波	大学院医学系研究科 准教授
		岡島 俊英	産業科学研究所 准教授
		岡橋 伸幸	大学院情報科学研究科 准教授
		小倉 裕司	大学院医学系研究科 准教授
		尾花 理徳	大学院薬学研究科 准教授
		瀬尾 茂人	大学院情報科学研究科 准教授
		武田 吉人	大学院医学系研究科 准教授
		松岡 悠美	免疫学フロンティア研究センター 准教授
		和田 洋	産業科学研究所 准教授
		宇佐美 悠	大学院歯学研究科 講師
		山岸 義晃	医学部附属病院 特任准教授（常勤）
		西川 智之	大学院医学系研究科 特任講師（常勤）
		大崎 恵理子	大学院医学系研究科 助教
		河原 一樹	大学院薬学研究科 助教
		清水 健太郎	医学部附属病院 助教
		杉原 文徳	微生物病研究所 助教
		廣瀬 勝俊	大学院歯学研究科 助教
		蛸原 健	医学部附属病院 特任助教（常勤）
		石川 昌和	免疫学フロンティア研究センター 特任研究員（常勤）

人材育成部門 部門長 森井 英一

		氏名	職名
検体解析人材チーム	兼任	濱口 重人	チーム長／寄附講座准教授
		本山 雄一	寄附講座助教
		片山 由美	特任研究員（常勤）
		田中 有理子	特任研究員
感染制御人材チーム	兼任	井上 智子	大学院医学系研究科 教授
		森井 英一	大学院医学系研究科 教授
		渡部 健二	大学院医学系研究科 教授
		中谷 大作	大学院医学系研究科 准教授
		井上 典子	大学院薬学研究科 特任准教授（常勤）
医療情報人材チーム	兼任	佐田 竜一	チーム長／寄附講座准教授
		山本 舜悟	寄附講座准教授
		山本 剛	寄附講座講師
		黒田 英介	寄附講座助教
人材育成部門	兼任	大倉 亜貴子	特任研究員
		忽那 賢志	大学院医学系研究科 教授
		松尾 裕央	医学部附属病院 講師
人材育成部門	兼任	武田 理宏	チーム長／大学院医学系研究科 教授
		真鍋 史朗	寄附講座准教授
人材育成部門	兼任	和田 聖哉	寄附講座助教
		岡田 佳築	医学部附属病院 准教授
人材育成部門	兼任	水引 恭子	特任事務職員
		梶田 千晶	事務補佐員

計算機室

	氏名	職名
兼任	堀田 智明	計算機室長／核物理研究センター 准教授

企画室

	氏名	職名
企画室	菊池 章	企画室長／特任教授（常勤）
	細川 吉弥	特任准教授（常勤）
	水野 祥子	特任学術政策研究員
	西田 彩	特任事務職員

事務室

	氏名	職名
事務室	増田 敏裕	事務室長／特任専門職員
	中谷 伸二	室長補佐
総務担当	安田 秀	専門職員
	沖西 香苗	特任事務職員
会計担当	富 玲奈	専門職員
	勝田 広美	特任事務職員
研究推進担当	塩谷 崇	専門職員
	畑中 英理子	特任事務職員

Division of Scientific Information and Public Policy

科学情報・公共政策部門

行動公共政策チーム

行動経済学ユニット
人間科学ユニット

情報分析チーム

数理分析ユニット
社会技術ユニット

当部門は、行動公共政策チーム（行動経済学ユニット・人間科学ユニット）と情報分析チーム（数理分析ユニット・社会技術ユニット）から構成され、組織や分野の壁を超えて、リスク評価、政策評価に必要な情報を収集・分析し、エビデンスに基づいた政策立案 Evidence Based Policy Making (EBPM) や情報発信を行います。感染症に代表されるような、事前に予測することが困難な一方で心身の健康を大きく損なう可能性のある諸問題 Unexpected Health Issues (UHI) に文理融合で取り組み、UHI に対する社会のレジリエンスを高めます。

部門長のコメント

パンデミックを引き起こすような新興感染症に対しては、疾患の予防、治療法を開発することと同時に、感染症状況下でも社会・経済活動を衰退させず、維持・発展させるための政策提言が必要です。そのためには、医学、経済学、人間科学、倫理学、工学、数理科学、リスク学などの専門家が集結し、自らの領域のみにとどまらず、それぞれの分野での知見やデータを共有したうえで、総合的な判断を下すための議論を行い、その判断に基づいて国民の生活、活動に対する提言を取りまとめて発信できる機能が求められます。科学情報・公共政策部門では、EBPM（証拠に基づく政策立案）を具現化し、感染症の脅威から人々の「いのち」と「くらし」を守るという共通の目標を達成するため4つのユニットが、それぞれの専門性を活かした多様なアプローチで活動してきました。

まず、行動経済学ユニットは、感染予防行動促進メッセージおよび新型コロナワクチン接種促進メッセージの効果を検証する研究を行い学術論文として公開しました。また、まん延防止等重点措置が感染者数に与えた影響について研究しました。さらに、風しん抗体検査の受検促進メッセージの効果検証をしました。

人間科学ユニットでは、政策提言の基盤となる知見を提供すべく、感染禍の社会心理を経時的に捉えるパ

ネル調査、ともすれば差別・偏見の対象となる「ケア」の現場の方々の声を精密に聴き取るエスノグラフィー、子どもへのワクチン接種に際するコミュニケーションの分析などを行いました。

数理分析ユニットでは、感染流行に関するリアルタイムの感染動向の分析と予測を行いました。また、ヒトからヒトへの感染メカニズムを考慮した「リンク切れモデル」を構築し、2022年度の国内外の分析についての論文を出版しました。さらに、リンク切れモデルの数理側面に注目し、理論基盤を構築しました。

最後に社会技術ユニットでは、大規模集会におけるリスク分析と社会実装を推進するとともに、CiDER主催のシンポジウムを開催し、大規模集会の今後のあり方を議論した他、新型コロナウイルス感染症や他の災害によって生じる二次的な健康影響について解析しました。また、プレプリントをはじめとした学術出版やプレスリリースに注目したプロジェクトを推進し、学術集会や非専門家コミュニティ向けの場で成果発表や意見交換を行いました。

以上の研究活動で得られた成果を、学術論文として発表するとともに、毎月のSpringX 超学校講座で広く一般向けに発信しました。

部門長
中野 貴志 教授
Nakano Takashi



行動経済学ユニット

ユニットの概要

行動経済学ユニットでは、私たちの心理的特性を経済学に組み入れた学問分野である行動経済学とデータから因果関係を明らかにする因果推論の手法を用いて、感染対策の効果検証を行っています。具体的には、感染予防行動やワクチン接種行動を促すような行動経済学を応用したメッセージの開発とその効果検証、まん延防止等重点措置の効果検証、緊急事態宣言や全国一斉臨時休校などの感染対策が教育や社会経済活動に与えた影響について分析をしています。



ユニット長

Ohtake Fumio

大竹 文雄 特任教授（常勤）

1985年大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了。大阪大学社会経済研究所教授、同大学院経済学研究科教授などを経て、2021年4月より現職。博士（経済学）。専門は行動経済学、労働経済学。日経・経済図書文化賞、サントリー学芸賞、エコノミスト賞、日本経済学会・石川賞、日本学士院賞受賞。Journal of Health Economics, Social Science & Medicine, Journal of Neuroscience など論文掲載。日本経済学会、行動経済学会元会長。

スタッフ

北村 周平 特任准教授（常勤）
佐々木周作 特任准教授（常勤）

2022年度の主な研究成果

風しんの抗体検査受検を促すナッジメッセージの開発

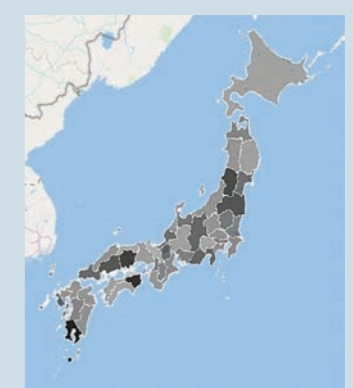
日本では風しんの集団免疫が達成されていません。1962年度から1978年度に生まれた男性は、定期接種の対象ではなかったこと、自然感染が多かったことが理由で、風しんの抗体保有率が低いのです。このため、2019年度からこの世代の男性を対象に抗体検査・ワクチン接種の無料クーポンが自治体から送付されています。抗体検査の受検率を上げるために、行動経済学を応用したメッセージを開発し、その効果検証を行いました。その結果、「あなたがきっかけで、妊婦さんが風しんに感染すると赤ちゃんが心疾患・白内障・難聴をもって生まれる可能性があります」というメッセージが効果的でした。また、対象年代の男性の55%は子どもの頃に、風しんのワクチン接種を受けたと誤解していることも判明しました。その研究結果をもとに、啓発のためのリーフレットとYouTube動画を制作しました。YouTube動画は好評で、2023年3月31日時点で合計230万回視聴されています。

Kato, Sasaki, Ohtake, "Adding Nudge-based Reminders to Monetary Incentives for Promoting Rubella Antibody Testing and Vaccination," Center for Infectious Disease Education and Research, Discussion Paper, DP003, 2022

学校における衛生教育と COVID-19下における手指衛生行動

COVID-19のような危機に対するコミュニティの回復力を高め、市民の脆弱性を最小化するために、社会的絆、他者への配慮に関する選好、および文化的特性が果たす役割が重要です。しかし、そのような個人的嗜好や社会的行動に関する文化的規範がどのような経路で形成されるのかについては、ほとんど知られていません。そこで、日本におけるパンデミック前、緊急事態発生時、緊急事態解除後の手指衛生の自己管理について、小学校での手洗い教育、幼少期における神社での手洗い経験、個人の互恵性に着目した研究を行いました。その結果、これらの教育、経験、個人属性が、COVID-19下における手指衛生行動と関連していることを明らかにしました。

Lee, Sasaki, Kurokawa, and Ohtake "The school education, ritual customs, and reciprocity associated with self-regulating hand hygiene practices during COVID-19 in Japan," BMC Public Health, 2022



小学校での手洗い教育の都道府県別経験者比率

多様な視点から「人間」を捉え、 感染症対策に活かす

人間科学ユニット

ユニットの概要

事前に予測することが困難な一方で心身の健康を大きく損なう可能性のある諸問題（UHI）について、政策提言の基盤となる知見を提供すべく、特に社会の構成員たる「人間」に注目して、量と質、全体と個という対照的な観点を相互補完的に組み合わせてアプローチしています。現在のプロジェクトは、UHIの社会的影響に関するソーシャルセンシング、社会的な困難に直面した当事者や対人援助職を対象とするエスノグラフィー、未知のリスクに関するヘルスコミュニケーションの理論と技法の開発、UHIへのレジリエンスを高めるヘルスプロモーションです。



ユニット長

Miura Asako

三浦 麻子 教授
(大学院人間科学研究科)

1995年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程退学。2002年大阪大学で博士(人間科学)を取得。関西学院大学教授・大阪大学大学院基礎工学研究科特任教授(常勤)などを経て、2019年から大阪大学大学院人間科学研究科教授。専門は社会心理学。研究関心は、社会心理学を学び始めた当初から一貫して、コミュニケーションやインタラクションが新しい「何か」を生み出すメカニズムを解明すること。

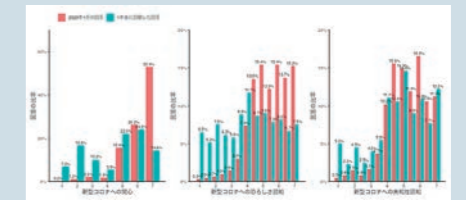
スタッフ

杉田 映理 教授(大学院人間科学研究科)
村上 靖彦 教授(大学院人間科学研究科)
平井 啓 准教授(大学院人間科学研究科)
八木橋真央 特任助教(常勤)

2022年度の主な研究成果

社会心理の経時的センシング

感染禍の社会心理を捉えるため、2020年1月末以来、日本国内の経時変化を検討するための一般市民を対象とするパネル調査(2ヶ月に1回)と国際的な見地から日本の特徴を知るための5ヶ国調査(1年に1回)を継続して実施しています。2022年度はパネル調査データを「回顧バイアス」という観点から分析し、感染禍に接した直後(2020年1月)の心理を1年後に回顧させると、新型コロナウイルス流行に対する関心度も、感染に関する恐怖しさや未知性の認知も、いずれも大きく過小評価していること、また、そのバイアスはその間の心理の揺れが小さい回答者の方が大きいことが分かりました。人は回顧バイアスから免れません。だからこそ、本プロジェクトで感染禍当初からデータを取り続けたことは意義深いと考えています。



「ケア」のエスノグラフィー

2020年から実施した感染禍で大きな困難を強いられた社会的困窮層の聴き取り調査のうち7名のデータを現象学的な質的研究の方法で分析して、単著『「ヤングケアラー」とは誰か』にまとめました。本人たちにとってはケア労働の負担ではなく家族への心配が先にたつこと、さらに貧困や家族の逮捕など大きな逆境イベントではなく孤立こそが子どもの負担となるがゆえに、中産階級の核家族の子どもがむしろ困難を抱えていること、そして、相談窓口ではなく親子双方への伴走型の支援の必要性を示しました。



また、社会的養護で育つ子どもたちのためのライフストーリーワーク(親元で育つことができなかった子どもたちに、親との交流の歴史を再構成して親子の関係を確認することで心理的な安定をはかる技法)の教材として、絵本『しりたいたいなしりたいたいな』を作成しました。今後大阪府下を中心として児童養護施設等で子どもや職員との研修に活用します。

ヘルスプロモーション

COVID-19の影響を鑑みると学校保健の場でも手洗い教育などの感染症対策にとどまらず、差別や包括的セクシュアリティ教育(月経教育を含む)の課題に取り組む必要性が認識され、2022年度も広く学校保健に関連する課題の現状把握と実践を行いました。国内では、日本全国のユネスコスクールに対してオンライン・アンケートを実施して連携を図り、大分県・福岡県・長野県の学校訪問調査や授業実践を行いました。COVID-19が言語的マイノリティ住民の学校生活に与えた影響、日本の保健医療の多文化社会への対応に関する調査が継続中です。また、海外の学校におけるCOVID-19への対応と学校保健政策の調査は、EduPortニッポンとして、フィリピン、インドネシア、グアム、バラオ、フィジー、トンガの専門家と、定期的にオンラインミーティングを持ちながら共同研究を実施。また、ラオス、ネパールの専門家とともに小中学生向けの保健教材の開発を行い、日本を含む3か国において現場での実践をしました。



数理分析ユニット

ユニットの概要

数理分析ユニットは、自然科学におけるミクロ（還元）とマクロ（創発）の両側面からのアプローチにより、感染症のデータ分析、数理的理解およびモデルの構築を目指して研究を推進しています。また、科学的・数学的根拠に基づく情報の分析および経済をはじめとした社会科学との統合を行い、施策の立案の根拠となるような正確な情報の発信を行います。



ユニット長

Ikeda Yoichi

池田 陽一 教授

博士（理学）。2022年度より大阪大学感染症総合教育研究拠点教授を務める。専門は理論核物理で、素粒子クォークの複合体に関する量子物性に興味を持つ。量子物理のアイデアがヒトからヒトへの感染メカニズムに適用できることを見出し、感染症数理モデル「リンク切れモデル」を発案した。量子物理を始めとする数理の考え方や技術を基軸とし、自然科学と社会科学の融合を目指す。

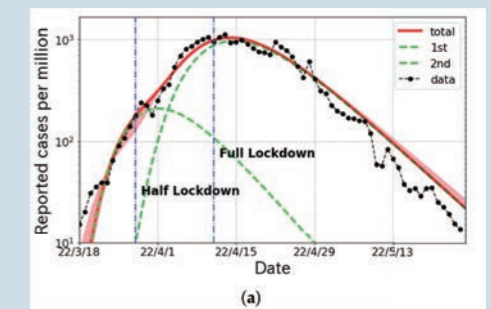
スタッフ

中野 貴志 教授（核物理研究センター）
佐々木健志 特任准教授（常勤）

2022年度の主な研究成果

国内外における COVID-19の 感染抑制施策の評価と情報発信

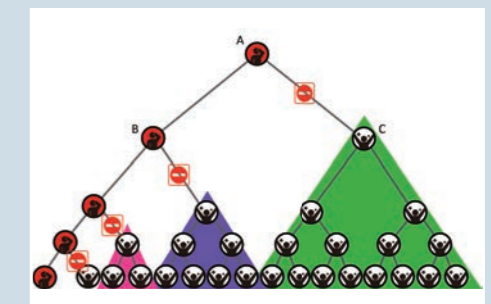
世界の COVID-19 の感染者数の推移について、「リンク切れモデル」と「K 値」を用いて系統的な分析を行い、感染拡大の初期段階から収束に至る推移をリンク切れ確率を使って表現できることがわかりました。この手法を用いて台湾における感染者数推移を分析することで、台湾における感染者の隔離（監視）措置が有効に機能し、施策が行われていた期間中の感染者数を効率良く抑え込んでいたことを明らかにしました。また、感染者の厳しい監視に加えて都市封鎖も行われた上海についても分析を行い、都市封鎖の前後でリンク切れ確率の変化が無く、厳しい監視下の台湾の値と同等であったことから、感染者の厳しい監視体制の下での都市封鎖は過剰な施策であったことを明らかにしました。これらの分析結果について、論文にまとめました。国内・国外での感染動向についても同様の手法で分析し、メルマガでの日々の配信を行っています。また、SpringX 超学校「正しく学ぶ！感染症から「いのち」と「くらし」を守る講座」Season2 第6回にて、「COVID-19 感染流行で見えてきた日本の感染対策の効果」のタイトルで講演しました。



感染症数理モデル（リンク切れモデル）の 理論的基盤に関する研究

COVID-19 の感染者数推移について、ミクロな感染メカニズムを捉え、感染経路（リンク）が途切れた場合の波及効果を考慮したリンク切れモデルを構築し、論文を出版しました（Y. Ikeda, K. Sasaki, T. Nakano, "A new compartment model of COVID-19 transmission: The broken-link model", Int. J. Environ. Res. Public Health 2022, 19 (11), 6864.）。

さらに、リンク切れモデルの理論的基盤を数学・物理学の側面から構築しました。感染のリンク切れは、量子多体系に発現する電荷に関するデバイ遮蔽と酷似したメカニズムと捉えることが可能であると理解されました。また、人々が異なるコミュニティに属する効果まで含めて、リンク切れモデルで感染拡大を記述できることが数学的に示されました。新しい感染症数理モデルであるリンク切れモデルを用いると、従来の集団免疫理論のしきい値が変更される必要性が生じます。集団免疫しきい値の解明を新たな課題として取り組んでいます。



社会技術ユニット

ユニットの概要

社会技術ユニットは、大規模集会の感染リスク分析、パンデミックや災害において間接的に生じる健康リスク評価を課題解決志向的に行うとともに、ステークホルダーとの協働に向けたリスクコミュニケーション方法の理論化を介して、研究成果の社会実装に取り組めます。また、ニュース等の根拠となる研究成果について、学術出版の動向や人々の認知・認識に目を向けます。これらの活動を通して、社会と関わりあう研究を展開するとともに、その成果を発信します。



ユニット長 *Murakami Michio*
村上 道夫 特任教授（常勤）

博士（工学）。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了後、科学技術振興機構研究員（東京農工大学）、東京大学大学院工学系研究科リサーチフェロー、東京大学総括プロジェクト機構「水の知」（サントリー）総括寄付講座特任助教、同講座特任講師、東京大学生産技術研究所特任講師、福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション講座准教授を経て、2021年8月より大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授（常勤）。2022年4月よりユニット長。

スタッフ

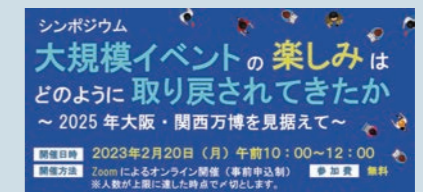
岸本 充生 教授
 （データビリティフロンティア機構）
井出 和希 特任准教授（常勤）

2022年度の主な研究成果

大規模集会における感染リスク、二次的健康影響の分析と社会実装を推進

オミクロン株流行下における抗原定性検査の感度を明らかにし、スポーツ選手やスタッフらを対象にした検査体制における感染リスクの低減効果と費用を分析しました。これらの知見をスポーツ関係者らにフィードバックし、社会実装の事例を蓄積しました。加えて、東京2020オリンピック・パラリンピック選手村や下水処理場における下水疫学の実践事例に基づいて、集水域の感染者の早期検知と感染者数推定の数理モデルを開発しました。さらに、福島災害や新型コロナウイルス感染症流行後における糖尿病や精神疾患といった心身の二次的健康影響の評価を実施しました。

シンポジウム「大規模イベントの楽しみはどのように取り戻されてきたか～2025年大阪・関西万博を見据えて～」の企画立案と講演（2023年2月20日実施）、SpringX 超学校 CiDER ×ナレッジキャピタルでの講演、研究成果のプレスリリースなど、広く情報発信に努めました。



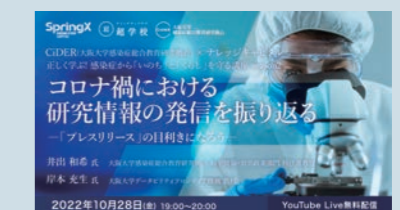
大規模集会に関するシンポジウム

学術出版の動向と社会への影響の探索、情報共有

プレプリントをはじめとした学術出版の動向については、第45回日本分子生物学会年会（招待講演）等の複数の機会において情報共有を図りました。その際、新型コロナウイルス感染症にまつわる事例を取り入れました。加えて、学会と連携した質問紙調査を進めることで、研究者の認識を明らかにすることを試んでいます。

それだけでなく、SpringX 超学校 CiDER（大阪大学感染症総合教育研究拠点）×ナレッジキャピタルの枠組みを活用し、研究成果と社会の接点のひとつであるプレスリリースについて話題提供を行いました。非専門家（市民）も対象として情報を精査する際の基本を押さえる機会として、根拠のみつけ方や科学の曖昧さにも触れながらオンライン講座を展開しました。

併せて、「薬局」という書誌媒体を活用し、私たちのいのちや暮らしに関わる社会の動きをテーマとして専門職向けの解説記事の執筆も進めました。



専門家、非専門家を対象とした情報共有と対話の場の形成

Division of Microbiology and Immunology

感染症・生体防御研究部門

ヒト生体防御学チーム | 生体応答学チーム

ウイルス制御学チーム | 臨床生命工学チーム

感染症の予防・診断・治療法を開発するためには、病原微生物の特性を解明することと、病原微生物に対する生体防御システムを解明することが必要です。当部門は、感染症の根本的な克服に向けた基礎研究を推進します。特に、病原微生物の特性の解明のみならず、ヒト生体防御システム、病原微生物に対する免疫応答メカニズムの解明を目指します。そのため、微生物学研究者、生体防御学研究者、臨床医学研究者などが結集し、分野横断型の総合的な基礎研究開発を推進します。

部門長のコメント

当部門では、ヒト生体防御学チーム（James Badger Wing 准教授）、生体応答学チーム（伊勢渉教授）、ウイルス制御学チーム（松浦善治特任教授）に加えて、ウイルス感染の防御を実践する mRNA ワクチンの基盤研究を行う臨床生命工学チームを2022年度に設置し、位高啓史先生を迎え入れました。そして、COVID-19のパンデミック化に際し、感染症の根本的な克服に向けた基礎研究を個人研究の枠を超えチーム研究として推進するため2020年に有志で立ち上げた「チーム阪大研究」のメンバー（兼任教員）と連携し、研究を進めています。

さらに「感染症」をキーワードに部局横断型の学際

的な共同研究を展開しました。「チーム阪大研究」は、部局横断型の学際的な共同研究チームとともに月1回のミーティングを実施し、最新の感染症研究の成果を共有し、議論を重ねてきました。また、CiDER Seminar on Microbiology and Immunology と命名した研究セミナーを伊勢渉教授がオーガナイズし、主にオンライン開催を行ってきました。これらの活動により、感染症の根本的な克服に向け、4つの研究チームを中心に、有志で開始した「チーム阪大研究」を阪大あがでの「オール阪大研究」へと発展させていっています。そしてこの中から、COVID-19に関する意義ある基礎研究成果をいくつも発信することができました。

部門長

竹田 潔 教授

Takeda Kiyoshi

チームの概要

ヒト生体防御学チームは、複雑な免疫機構を解明するためにマスマイトメトリーのような1細胞解析技術にフォーカスして研究を行っています。この手法を用いて特に感染症や自己免疫疾患等における抗体反応を制御することに取り組んでいます。



チーム長

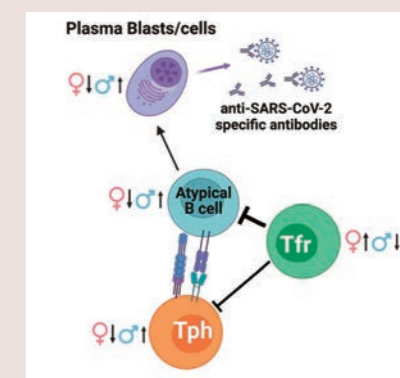
James Badger Wing 准教授

イギリス出身。キャリアのはじめの頃に感染症研究のトレーニングを受け、いかに免疫系が抗体反応を制御しているかに興味を持ちました。抗体は感染症と闘う上ではとても重要ですが、一方で自己免疫疾患も引き起こします。自己免疫をコントロールする上で重要な役割を担う制御性T細胞を発見した坂口志文教授（現大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任教授）の研究室に10年前に移り、坂口教授の指導のもと、新しい制御性T細胞である濾胞性制御性T細胞に着目し研究を行ってきました。この濾胞性制御性T細胞は抗体の働きを制御し、ワクチンの反応やウイルス感染に重要な働きを担っていると考えられます。最近、幸いにも新たに研究室を立ち上げることができ、マスマイトメトリーという何百万という免疫細胞を詳細に解析できる手法を用いて研究を行っています。研究室メンバー全員で一丸となってこの新しい手法を用いて感染症との闘いに取り組んでいます。

2022年度の主な研究成果

COVID-19感染に対する免疫反応の性差

COVID-19に対する抗体反応は、感染に対する防御の重要な部分です。また、感染の結果に対する性差も報告されており、男性が病気の危険因子であるとされています。しかし、このような感染症の発症は、希少な細胞種が複雑に関与しているため、一般的な手法では解明が困難であり、その理解は不完全なものでした。本研究では、新しい単一細胞解析法を用いて、免疫系の希少細胞の状態を詳細に調べました。その結果、COVID-19では、T濾胞制御細胞（Tfr）と呼ばれる抗体産生を適切に制御する鍵となる細胞が、すべての患者で減少していることを確認することができました。この傾向は女性患者に比べ、抗体産生T細胞やB細胞の数が増加していることが確認された男性患者でより強いことも確認されました。COVID-19における抗体産生を制御する細胞間相互作用の理解が深まれば、この疾患を制御するための新しい治療法の開発が可能になるかもしれません。さらに、男性患者には強い抗体産生が見られるものの、制御不能であるという知見は、COVID-19患者を男性と女性で異なる方法で治療しなければならないということを教えてくれるかもしれません。



COVID-19 感染時の抗体産生を抑制または促進する細胞の性差による不均衡。T濾胞制御細胞（Tfr）は抗体産生を抑制。T末梢性ヘルパー細胞（Tph）は非定型B細胞を刺激し、抗体産生形質細胞を形成する。

Proc Natl Acad Sci U S A. 2023; 120 (4), e2217902120.
"A sex-biased imbalance between Tfr, Tph, and atypical B cells determines antibody responses in COVID-19 patients"
Jonas Nørskov Søndergaard, Janyerkye Tulyeu, Ryuya Edahiro, Yuya Shirai, Yuta Yamaguchi, Teruaki Murakami, Takayoshi Morita, Yasuhiro Kato, Haruhiko Hirata, Yoshito Takeda, Daisuke Okuzaki, Shimon Sakaguchi, Atsushi Kumanogoh, Yukinori Okada, and James Badger Wing.
DOI : <https://doi.org/10.1073/pnas.2217902120>

スタッフ

- Jonas Nørskov SØNDERGAARD 特任助教（常勤）
- Janyerkye Tulyeu 特任研究員（常勤）
- 石井 利佳 特任技術職員
- Laura Barbieri 招へい研究員

ウイルス感染に対する生体応答を理解し、感染防御に役立てる

感染症・生体防御研究部門

生体応答学チーム

チームの概要

新型コロナウイルスパンデミックで再認識されたように、ウイルス感染に対する生体防御においては、ウイルス特異的な記憶免疫応答の誘導が不可欠です。特に変異ウイルスにも対応可能な記憶T細胞、B細胞の誘導、そして中和抗体産生の持続化が鍵となります。私達は、インフルエンザウイルスやSARS-CoV-2感染に対する記憶免疫応答誘導の分子メカニズムを解析し、ワクチン開発に役立てることを目指しています。またウイルス感染で誘導される組織損傷の免疫細胞による修復メカニズムを理解することで、感染治療薬の開発も目指しています。

2022年度の主な研究成果

長期生存プラズマ細胞の同定

ワクチンで誘導される中和抗体は、ウイルス感染からの防御に必須の働きをします。抗体の半減期は数日から数週間ですが、感染・ワクチン接種後に抗体応答は数か月から数年、時に数十年に渡って持続します。これはリンパ組織で誕生したプラズマ細胞の一部が骨髄に移動し、長期に渡って生存するからだと考えられています。しかし、これまでプラズマ細胞の生存を追跡可能な実験系が存在しなかったために、プラズマ細胞の生存制御に関する研究は進展していませんでした。私達の研究グループでは、マウスのプラズマ細胞を誘導的に蛍光色素でラベルできる実験系を開発し、プラズマ細胞の生存を1年に渡って追跡しました。誕生してすぐのプラズマ細胞は $B220^{hi}MHC-II^{hi}$ という表現型を示し、大部分は死滅してしまうのに対し、その一部は $B220^{lo}MHC-II^{lo}$ という表現型に変化し、長寿命を獲得することが明らかになりました(図1)。さらにこの $B220^{lo}MHC-II^{lo}$ という長寿命プラズマ細胞は、骨髄内で静止した状態で生存していることも明らかになりました(図2)。本研究により長寿命プラズマ細胞を分離して、その誘導メカニズムを詳細に解き明かすことが可能となりました。

【発表論文】

Koike T, Fujii K, Kometani K, Butler NS, Funakoshi K, Yari S, Kikuta J, Ishii M, Kurosaki T, Ise W. Progressive differentiation toward the long-lived plasma cell compartment in the bone marrow. J Exp Med. 2023 Feb 6;220(2):e20221717. doi: 10.1084/jem.20221717.



図1 プラズマ細胞の表現型の変化
骨髄に流入直後のプラズマ細胞は $B220^{hi}MHC-II^{hi}$ だが、生存時間が長くなると $B220^{lo}MHC-II^{lo}$ へと表現型が変化する

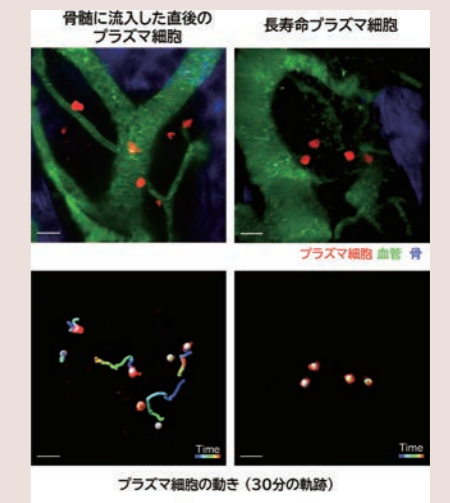


図2 骨髄プラズマ細胞の挙動の変化
骨髄に流入直後のプラズマ細胞は動いているが、長寿命プラズマ細胞は静止している



チーム長

Ise Wataru

伊勢 渉 教授

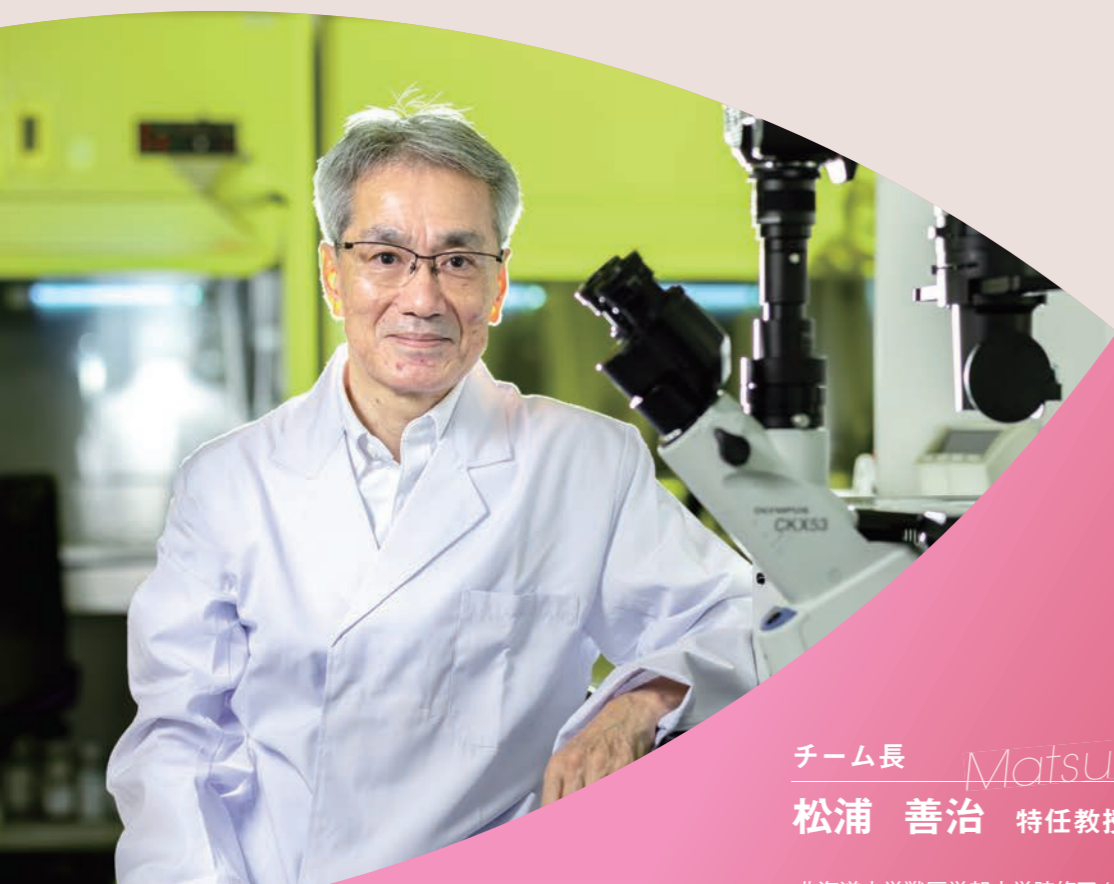
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了(農学博士)。2000年東京大学大学院農学生命科学研究科助手、2004年 Howard Hughes Medical Institute, Department of Pathology and Immunology, Washington University in St. Louis, Research Associate。2011年大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任准教授、2021年大阪大学感染症総合教育研究拠点教授。

スタッフ

- 香山 雅子 准教授
- 森 大輝 特任助教(常勤)
- 小池 拓矢 日本学術振興会特別研究員
- 川合 智愛 特任技術職員
- 岩谷 綱一 特任技術職員

チームの概要

ヒトの活動範囲が急拡大する現代社会では、新興・再興感染症が幾度となく発生し、社会や経済に大きなダメージを与えています。しかし新型コロナウイルスのパンデミックでも明らかな様に、新興・再興感染症の出現予測は難しく、制御法の開発は後手に回らざるを得ません。ウイルス制御学グループでは、ウイルス感染症の病原性発現に関与する生体メカニズムの全貌解明を目指し研究をすすめています。得られた研究成果をもとに、ウイルス感染症の治療薬や予防法を開発し、ヒトに病原性を示すウイルス感染症の制圧を目指します。



チーム長 *Matsuura Yoshiharu*
松浦 善治 特任教授（常勤）

北海道大学獣医学部大学院修了（獣医学博士）。第一製薬中央研究所研究員、オックスフォード大学 NERC ウイルス研究所ポスドク、国立感染症研究所ウイルス第二部肝炎ウイルス室長を経て、2000年より大阪大学微生物病研究所教授、2015年-2019年同所長。2021年大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER）拠点長（微生物病研究所特任教授兼任）。

スタッフ

- 小野 慎子 特任准教授（常勤）
- 田鍬 修平 特任准教授（常勤）
- 中込 咲綾 特任准教授（常勤）
（微生物病研究所）
- 上村健太郎 特任助教（常勤）

2022年度の主な研究成果

フラビウイルスの非構造蛋白質 NS1はウイルスゲノム複製と粒子産生に関与する

ウイルス制御学グループでは、微生物病研究所発癌制御研究分野の岡田雅人教授、北海道大学大学院医学研究院の福原崇介教授らとの共同研究により、フラビウイルスの非構造タンパク質 NS1がウイルスの粒子産生に関与することを世界で初めて明らかにしました。本研究グループは、NS1の粒子産生に関与する機能ドメインをバイオインフォマティクス的手法で予測し、生化学およびウイルス学的手法によって、NS1の異なる多量体がゲノム複製と粒子産生に関与することを明らかにしました。

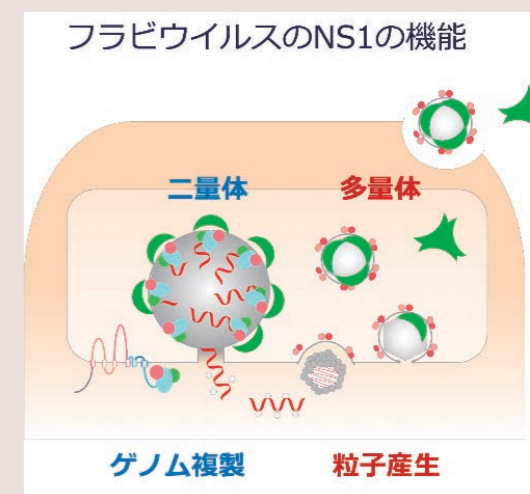
【研究成果のポイント】

- これまで全く不明であったフラビウイルスの粒子産生機構を、ウイルス学、生化学、バイオインフォマティクス等の手法で解析しました。
- フラビウイルスのゲノム複製と粒子産生に、非構造タンパク質 NS1の異なる多量体が関与することを初めて明らかにしました。
- フラビウイルスは50種以上あり、節足動物によって媒介されます。そのため、フラビウイルス感染症は媒介動物の生息地域で流行を繰り返しており、日本でもデング熱やダニ媒介性脳炎の発生が報告されています。
- フラビウイルス感染症の中には、ワクチンや抗ウイルス薬もない重要な疾病（ジカ熱など）が含まれます。
- 本研究によってフラビウイルスの感染環における NS1の役割の一端が解明され、フラビウイルス感染症に対する新規薬剤の開発に繋がるのが期待されます。

ジカ熱、デング熱、ダニ媒介性脳炎等のフラビウイルス感染症の征圧には、有効なワクチンや抗ウイルス薬の開発が必要です。本研究によってフラビウイルスの感染性粒子の産生機構における NS の機能の一端が明らかとなり、これを標的とした新規抗ウイルス薬の開発が期待されます。

本研究成果は、米国科学誌「PLOS Pathogens」オンライン版に6月3日（日本時間）に公開されました（doi: 10.1371/journal.ppat.1010593）。

タイトル：“Secretory glycoprotein NS1 plays a crucial role in the particle formation of flaviviruses”
 著者名：Tomokazu Tamura, Shiho Torii, Kentaro Kajiwara, Itsuki Anzai, Yoichiro Fujioka, Kisho Noda, Shuhei Taguwa, Yuhei Morioka, Rigel Suzuki, Yuzy Fauzyah, Chikako Ono, Yusuke Ohba, Masato Okada, Takasuke Fukuhara, Yoshiharu Matsuura



チームの概要

mRNAは新型コロナウイルスワクチンとして初めて実用化された新しい創薬モダリティです。標的細胞を選ばず、どのようなタンパク質でも産生させることが可能で、新興感染症に対する迅速なワクチン開発、がん免疫療法へ応用する個別化ワクチン、生体内の細胞を直接機能制御することによる疾患予防・治療など、多くの展開が期待されています。本研究室では、機能化mRNA設計、DDS開発、薬効メカニズム解析まで幅広くテーマ設定し、人々のQOL向上に貢献するmRNA創薬を進めていきます。

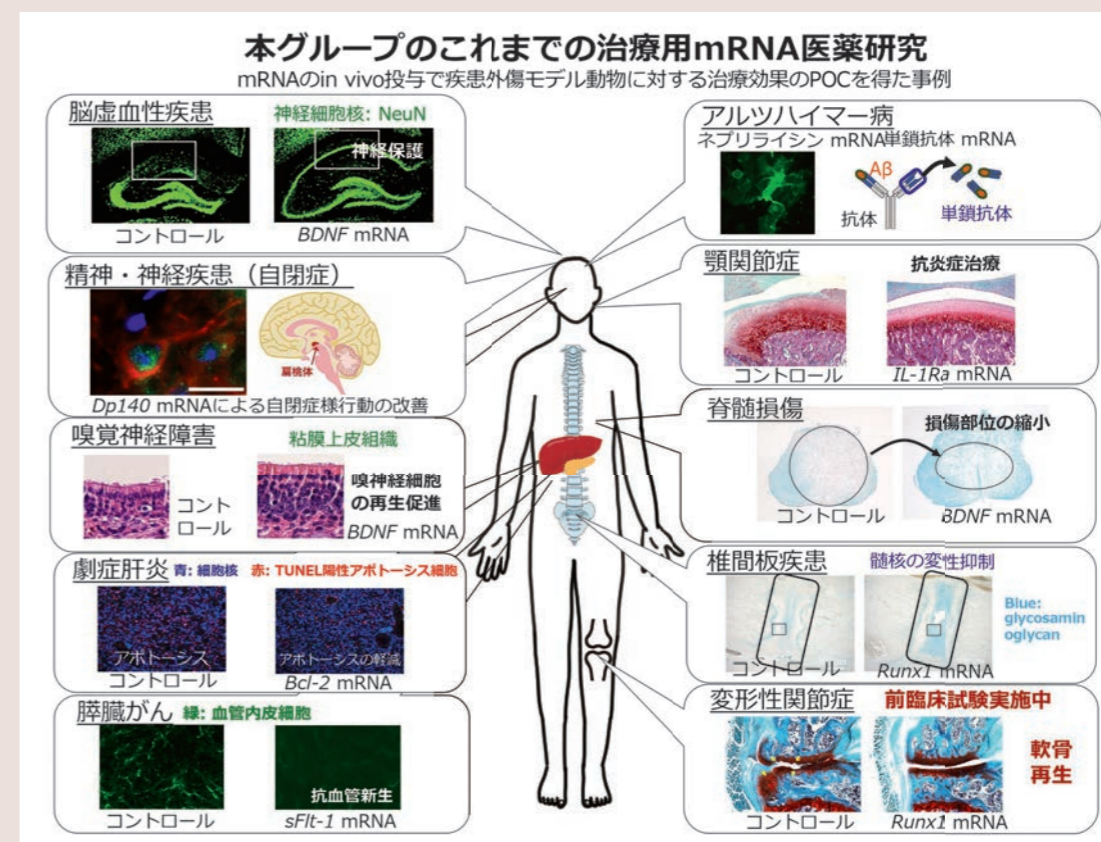
いよいよ本格化する mRNA 創薬

2022年度の主な研究成果

新たなパンデミックにも対応可能な
ワクチン開発・感染症研究の推進を目指す

これまで脳神経系の難治疾患治療、骨軟骨の再生医療分野を中心に、多くの疾患治療に対する mRNA 医薬の可能性を追求してきました。特に軟骨変性疾患に対する mRNA 医薬は、本邦初の治療用 mRNA 医薬品実用化に向けて、臨床試験実施の準備が進められています。

今後は、これら mRNA 創薬の経験・知見を元に、免疫学・感染症学専門の先生方と協力して、新たなパンデミックにも対応可能なワクチン開発・感染症研究を推進します。



チーム長 *Itaka Keiji*
位高 啓史 教授

東京大学医学部卒業後、整形外科医師として三井記念病院などで勤務。1997年東京大学医学部附属病院助手など勤めたのち、1999年東京大学大学院医学系研究科進学、東京大学工学部との共同でDDSの研究を開始。2003年博士学位取得後、東京大学大学院医学系研究科特任講師、准教授として、DDS、遺伝子治療、核酸医薬(mRNA医薬)の研究に従事。2006年米国ハーバード大学マサチューセッツ総合病院客員研究員(兼任)として光工学技術の研究。2017年4月より東京医科歯科大学生体材料工学研究所教授。2022年8月より大阪大学感染症総合教育研究拠点(CIDER)教授(兼任)。

スタッフ

申 育實 特任研究員(常勤)

部局横断型「感染症」研究促進プログラム — オール阪大研究 —

プロジェクトの概要

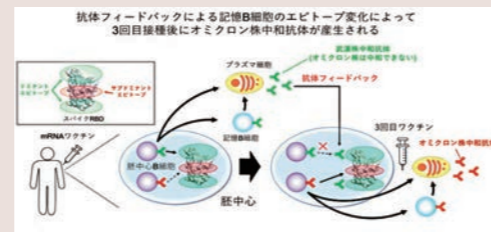
2020年7月、新型コロナウイルス感染症に対する研究開発を、大阪大学の分野・組織を超えて推進する「チーム阪大 Project」が立ち上がりました。2022年度からは、部局の枠を超えて新しい基礎研究領域の創成が期待される異分野融合研究（「オール阪大研究」）を推進するために、『CiDER 部局横断型「感染症」研究促進プログラム』として学内に広く公募し、37課題を採択しました。2023年度には、人文社会科学分野の研究も広く募集し、自然科学分野との融合研究をより一層促進することで、CiDERのVisionである『感染症の脅威から「いのちと暮らし」を守るための総合知を形成する』ことを目指します。

2022年度の主な研究成果

01 | 3回目のワクチン接種によりオミクロン株中和抗体が産生される仕組み

これまで、COVID-19 mRNA ワクチン 2回の接種で誘導される抗体は、オミクロン変異株に対してほとんど中和活性をもたない一方で、3回目接種で誘導される抗体は強い中和活性を示すことが知られていましたが、その原因は不明でした。本研究では、ワクチン接種者のB細胞を解析した結果、3回目接種前の記憶B細胞はウイルス抗原への親和性が向上しているだけでなく、抗原を認識している場所（エピトープ）も変化しており、3回目接種時にこの記憶B細胞がオミクロン変異株も中和できる抗体を産生していることを突き止めました。これにより、今後のワクチンデザインのための基盤となることが期待されます。

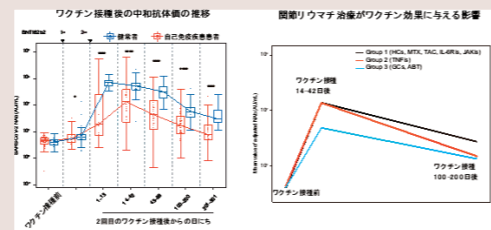
（研究代表者 黒崎博（免疫学フロンティア研究センター）、Inoue T, et al. *Journal of Experimental Medicine*. 2022.）



02 | 免疫疾患における新型コロナワクチン効果の持続性

自己免疫疾患の患者は COVID-19 の高いリスクにさらされますが、ワクチンの有効性に対する免疫抑制の中期的な影響は不明でした。本研究では、自己免疫疾患患者における COVID-19 のワクチン接種後の抗体価を解析し、いくつかの免疫抑制治療がウイルスに対する中和抗体を弱めることを明らかにしました。これにより、患者さんごとの特徴に応じてワクチン投与方針を検討できることが期待されます。

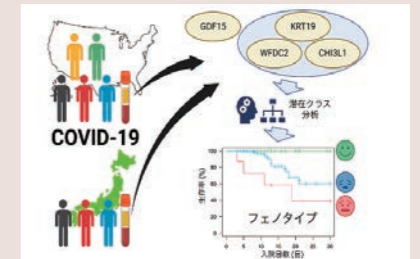
（研究代表者 熊ノ郷淳（医学系研究科）、Yamaguchi Y, et al. *The Lancet Regional Health - Western Pacific*. 2022.）



03 | COVID-19の重症化を予測する3つの血中蛋白質

COVID-19は症状が様々であり、一部の人は重症化し人工呼吸器やECMOの治療が必要となります。この重症化する人を早期に見つけ出し、適切な医療機関で治療を行うことが肝要と考えられますが、どのような人が重症化するかは明らかにされていません。本研究では、米国と本邦の COVID-19患者の血液中の様々な蛋白質を解析し、WFDC2、CHI3L1、KRT19、GDF15の4種類の蛋白質が重症例で有意に上昇していることを明らかにしました。さらにWFDC2、CHI3L1、KRT19の3種類の蛋白質の測定値を用いて、死亡率の高い集団を同定することができました。これにより、COVID-19の重症化を早期に予測する診断キットの開発応用が期待されます。

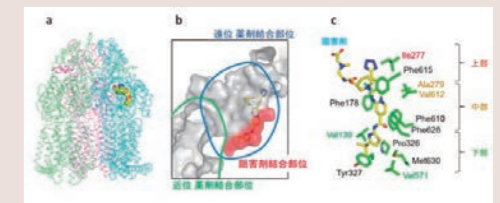
（研究代表者 小倉裕司（医学系研究科）、Ebihara T, et al. *Journal of Clinical Immunology*. 2022.）



04 | 一薬剤耐性菌パンデミックの回避に向けた新薬開発へー細菌の薬剤排出ポンプにおける阻害剤結合部位の特性を解明

これまでに本研究者らは、細菌に存在する薬剤排出ポンプが、細菌の薬剤耐性化に大きく寄与していることを解明してきましたが、薬剤排出ポンプ阻害剤は未だ実用化されておらず、阻害剤結合部位の特性も不明でした。本研究では、人工的にアミノ酸を変異させた多数の変異型ポンプの解析により、阻害剤が結合するためには、阻害剤結合部位の上部・中部・下部それぞれの空間的スペースが重要であることを明らかにしました。実際に本研究者らは、本研究成果をもとに新規阻害剤の開発を進めており、早期実用化が期待されます。これにより、将来予測される多剤耐性菌感染症増加に対しても、有効な新薬の開発が期待されます。

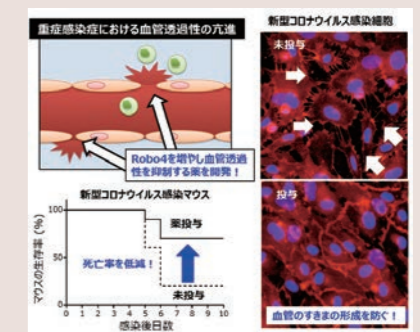
（研究代表者 西野邦彦（産業科学研究所）、Yamasaki S, et al. *Antimicrobial Agents and Chemotherapy*. 2022.）



05 | 血管透過性を抑制することで病原体を選ばない重症感染症治療薬の開発へ

これまで、病原体、免疫細胞、炎症性サイトカインを標的とする優れた重症感染症の治療薬が開発されてきましたが、これらを用いてもなお死亡率の低減が難しいことが問題となっていました。本研究では、既存薬が標的としてこなかった、重症感染症における「血管透過性の亢進」のプロセスに着目し、血管透過性を抑制する機能を持つRobo4遺伝子の発現量を増やすことで重症感染症の治療ができる可能性を見出しました。本研究で提案する血管を標的とする治療薬は、理論上、病原体を選ばない作用機序のため、今後出現する新しい重症感染症の予防・治療薬の開発と、死亡率低減に貢献することが期待されます。

（研究代表者 岡田欣晃（薬学研究科）、Morita M, et al. *Proceedings of the National Academy of Sciences*. 2023.）



Division of Fostering Required Medical Human Resources

人材育成部門

検体解析人材チーム | 感染制御人材チーム | 医療情報人材チーム

当部門は、感染症に関して、医療従事者やこれから医療従事者になる人々に対して、感染症対策や検査に関する最新の技術、知識を教育し、将来の感染症対策リーダーや新たな検査技術を開発する人材を育成する部門です。感染症対策の現場や検査の現場に即した内容、これからの現場に求められる技術など様々な教育コンテンツを準備して多様な人材育成を行います。また、今後必要とされる医療ニーズに迅速かつ柔軟に対応し、その時々求められる医療人材育成教育を行います。

部門長のコメント

当部門の目的は、医療従事者やこれから医療従事者になる人々に対して、感染症の基礎知識、感染対策や検査に関する技術や知識を教育し、将来の感染症対策リーダーや新たな検査技術を開発する人材を育成することです。この目的を達成するためには、教育コンテンツの充実とともに、受講記録をとることで受講者自身の受講管理や利便性に役立つシステムを開発することが重要です。そのため、2021年度にテストランを行った受講管理システムの実装に2022年度は力を注ぎました。教育コンテンツを新たに57個作成し、受講管理システムの登録者数は3,220名に達しています。臨床研修医向け感染症研修プログラムも開始し、2022年5月より毎月配信しています。12月公開した第8回コンテンツまでを視聴完了したユーザーは76名です。この他、部門担当教員が医療従事者以外の一般向けに感染症制御啓発動画を配信しており、合計の視聴回数は475,656回となっています。

医療従事者をめざす学生教育も感染症人材育成の大

きなミッションです。2021年度に保健学科で臨床検査技師を目指す学生に対して行った講義を引き続き実施するとともに、2022年度にはより幅広く、医学生、歯学生、薬学生や看護師、診療放射線技師を目指す学生に対する教育も開始し、合計53コマの講義を行いました。

臨床情報が紐付けされる検体を管理するシステムを導入することも当部門の事業として計画しています。2021年度は計画立案を行い、まずはスモールスタートとして病理検体の一部を管理することを2022年度に実施しました。その結果、臨床情報と紐付けされた凍結検体と組織ブロックを115件管理することができており、2023年度にはさらに管理数を増やすことで生じる問題点を抽出、解決する予定です。2021年度の感染症拡大時に行った地域医療機関や療養機関へ感染制御応援も当部門で引き続き2022年度も行いました。これらの活動を通して、感染症に強い社会の構築に貢献したいと考えています。

部門長

森井 英一 教授

Morii Eiichi



チームの概要

感染症対策のうち、検体採取、検査などの技術は日進月歩で、現場に新たな医療機器、医療技術が日々投入されています。このような中、最新の検体採取法や検査法、解析法の開発、普及を通し、新たな検体採取法、検査法、検体解析システムを構築できる人材を育成し、国内、国外を問わず医療教育のハブとなることを目指します。



チーム長 Hamaguchi Shigeto
濱口 重人 寄附講座准教授
(大学院医学系研究科)

自治医科大学医学部卒業。へき地医療に従事したのちに大阪大学医学部附属病院感染制御部にて感染症・感染制御の臨床と研究を行っている。主な研究テーマは肺炎球菌や薬剤耐性菌による肺炎及び伝播様式の機序解明、病原体新規検出系の確立。

スタッフ

本山 雄一 寄附講座助教
(大学院医学系研究科)

片山 由美 特任研究員 (常勤)
(大学院医学系研究科)

田中有理子 特任研究員
(大学院医学系研究科)

検査、育成、革新

2022年度の主な研究成果

感染症にかかる検体管理システムの構築

当部門は大阪大学医学部附属病院病理部と共同して、感染症にかかる臨床検体の収集、検体管理システムの構築を行っています。現在までに大腸腫瘍や子宮腫瘍、病原体を含む肺組織などの計113臨床検体を収集しています。これらを用いて、検体管理プログラムの実運用での検証を行っています。

医療者を対象としたイベント実施

2023年2月19日に「臨床検査技師のための感染症・微生物学セミナー」を実施し、76名の臨床検査技師への講演、演習を通して臨床微生物学に対する教育を行っています。

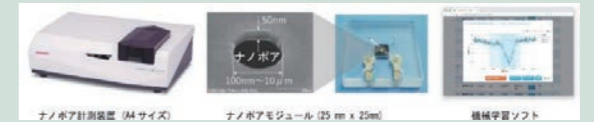


教育コンテンツの作成

人材育成部門として総力を挙げて教育コンテンツの作成に取り組んでいます。検体解析人材チームは、CORE-IDの各動画作成、編集を行っています。また、検体解析人材チーム構成員によるコンテンツも4本行っており、コンテンツ収録から編集、アップロード、視聴状況の解析まで全てを当部門で完結できるシステムを構築しています。

新規病原体検出法の開発

当部門は産業科学研究所の谷口教授と共同し、病原体粒子一つ一つを電気的に検出して識別する革新的技術を開発することにより、新型コロナウイルス患者の唾液検体を用いて高精度検査法を確立しました。この技術により、臨床現場での即時診断やスクリーニング検査の簡便化が期待されます。本研究成果は、英国科学誌「Nature Communications」に掲載されています。



ウイルス粒子一つ一つを電流で計測できるナノポアと、その電流波形を学習するAIを融合させ、高速・高精度に識別するAIナノポア技術を開発しました。AIナノポアにより、培養された新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスA型で感度90%、特異度96%と高精度な識別にも成功しました。本検出法を用いて、本年度はグラム陽性菌、陰性菌それぞれの細菌の識別にも挑戦しており、臨床検体での検出まで視野において開発中です。AIナノポアは異なる病原体をAI学習することで新規の病原体検出法も迅速に構築することが可能であり、今後起こりうる新興感染症に素早く対応できるものと考えています。

チームの概要

感染症対策、感染制御を専門とする人材は不足しており、将来の感染症対策のリーダーの育成に繋げることが急務となっています。また医療従事者のみならず市民の皆様にも感染症対策を知っていただくことは重要です。当チームは、感染症対策に貢献する医師、薬剤師、コメディカルの育成と、市民の皆様への感染症の啓発を目指します。



チーム長 Sada Ryuichi
佐田 竜一 寄附講座准教授
(大学院医学系研究科)

スタッフ

山本 舜悟 寄附講座准教授
(大学院医学系研究科)

山本 剛 寄附講座講師
(大学院医学系研究科)

黒田 英介 寄附講座助教
(大学院医学系研究科)

大倉 亜貴子 特任研究員 (大学院医学系研究科)

近年、薬剤耐性菌の増加により抗菌薬適正使用の重要性が増しており、感染症専門医の需要は高まっています。また、COVID-19の流行下では、病院内の診療のリーダーとなるべき感染症専門医が不在であった医療機関も多く、感染症専門医の育成は喫緊の課題であり、感染管理看護師、細菌検査技師、薬剤師など感染症診療・感染対策に従事する医療従事者がこれまでになく求められている時代となっています。当チームは次世代の感染症診療・感染対策のリーダーとなる人材の育成を行い、地域、日本、そして世界の感染症対策に貢献してまいります。

地域に根ざし、世界に貢献する人材を

2022年度の主な研究成果

感染症の教育の実践

online/onsiteに関わらず、様々な学習者を対象に感染症関連の教育を提供しました。

【1】CiDER主催イベント：感染症診療の基盤構築、感染症医を目指す臨床医の育成などを目標に、下記のセミナー等を開催し、それぞれ多数の参加者に教育を提供しました。

CiDER主催イベントの詳細		
日付	名称	目的
2022.7.31	大阪感染症サマーセミナー2022	関西の感染症医を志望する臨床医の育成と人的交流
2022.9.17	IDATEN インタラクティブケースカンファレンス	実践に基づく感染症診療に関わる教育提供
2022.12.10	IDATEN オンラインセミナー	感染症診療の基礎的教育的提供
2023.1.28	IDATEN クリニカルカンファレンス	感染症診療の実践に基づく教育提供
2023.2.25	感染症医のためのキャリアプランセミナー	感染症医を目指す医師への将来のキャリアプラン提示

【2】医療者のための感染症関連教育コンテンツ作成

- CiDER-EDU：感染症診療に関する正しい知識を学ぶ、教育コンテンツ配信プラットフォームとしてCiDER-EDUを構築しました。我々チームは6コマの動画を提供しました。
- くつ塾：感染症関連の症例報告のための知識を提供するレクチャーを2つ提供しました。
- 単発動画：CiDER-EDUに未登録でも参加可能なレクチャーを9コマ提供しました。

【3】一般の方のための教育コンテンツ作成：主に Youtube や CareNet などのプラットフォームを用いて、感染症関連情報を一般の方に提供できるコンテンツを作成しました。

- くつ王サイダー：https://www.youtube.com/@kutsuoh_cider
- FNN プライムオンライン
「名医のいる相談室」敗血症の早期診断・早期治療
https://www.youtube.com/watch?v=q3480wuNEsA&t=297s
- CareNetTV「ディジーズ・バー2」
https://carenetv.caret.net/series.php/series_id=474

【4】学生対象学内講義：大阪大学の学生を対象に、感染症関連講義を計49コマ行いました。

【5】院内外講義：研修医を対象とした感染症セミナーを開催しました。

- 大阪大学医学部附属病院の初期研修医を対象に「抗菌薬セミナー」と題して講義を9コマ行いました。
- 公益財団法人天理よろづ相談所病院の初期研修医を対象に Tenri Infectious diseases Seminar (TENIS) と題して講義を20コマ行いました。

【6】タイ・ミャンマー国境における現地で学ぶ熱帯感染症医師研修の実施再開に向けた現地視察を行いました。



チームの概要

感染症対策のためには、検体を迅速に解析することが必要であるが、その検体と医療情報を結びつけることも非常に重要です。そこで、次々と起こることが予想される新興感染症にも対応できる新たな高度医療情報システムを構築できる人材を育成し、国内、国外を問わず医療情報教育のハブとなることを目指します。また、感染症に関する正しい医療情報を幅広く提供する教育コンテンツ配信プラットフォームを整備し、感染症に関する正しい知識を、いつでも、どこでも、どなたでも学ぶことができる場を提供することを目指します。



チーム長

Takeda Toshihiro

武田 理宏 教授 (大学院医学系研究科)

大阪大学医学部を卒業後、循環器内科医として臨床業務に従事し、大学院で循環器内科の基礎研究に従事。大学院修了後、大阪大学医学部附属病院医療情報部にてペーパーレス電子カルテ導入プロジェクトに参画。以降、医療情報学領域での臨床、研究、教育に幅広く従事し、医療情報学会理事をはじめ、各種学会活動を通じ後進の指導にあたり、厚生労働省による「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」の改訂作業班員、「リアルワールドデータ研究活用基盤整備にかかる検討会」委員として、行政における医療情報関連施策にも携わっている。

スタッフ

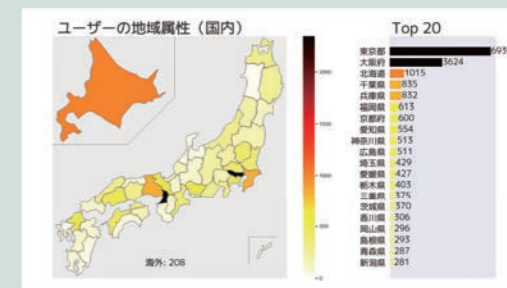
真鍋 史朗 寄附講座准教授 (大学院医学系研究科)

和田 聖哉 寄附講座助教 (大学院医学系研究科)

2022年度の主な研究成果

感染症教育コンテンツ配信プラットフォームの整備

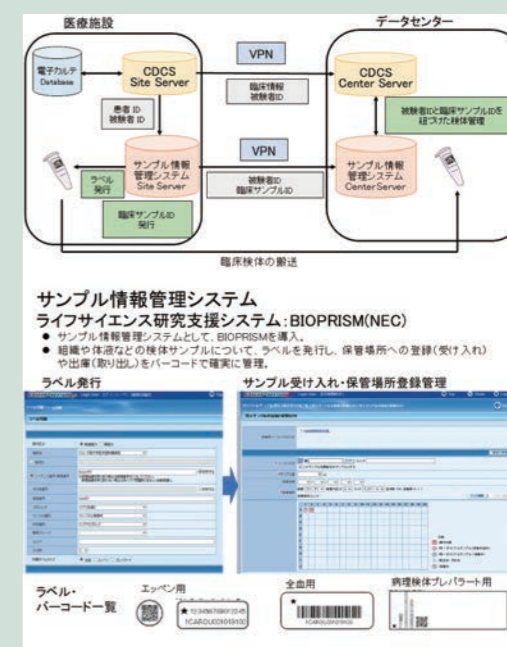
2022年4月から配信プラットフォーム「CiDER-EDU」の運用を開始し、2023年2月までに登録アカウント数は3,200を超えました。医療人材育成のための教育コンテンツを57件公開し、延べ2万7千ユーザーのアクセスがありました。CiDER-EDUには医師だけでなく、薬剤師、臨床検査技師、看護師など多職種が登録しており、医療従事者全体での感染症知識の向上と、将来の感染症対策を担う人材の育成に貢献しています。



検体管理プログラムの検証

病理検体を用いて、検体管理プログラムの医療情報紐づけに関する実証実験を行いました。医療情報との紐づけは、質の高い治験及び臨床研究の推進を図ることを目的とした、関西圏を中心としたネットワークである、OCR ネット (大阪臨床研究ネットワーク) において導入されている、臨床データ収集システム (CDCS: Clinical Data Collecting System) と連携した検体管理プログラム (サンプル情報管理システム) を構築し、検証しました。本システムでは、同一の被験者 ID が、データセンターに集約された CDCS 内の医療情報と、収集された検体の ID (臨床サンプル ID) に紐づく形になるため、医療情報とサンプル情報の一元管理が可能になることが期待できます。

検証では病理検体 (感染症含む) でそれらの採取部位や組織診断名を電子カルテ端末から個別に登録して検体と臨床情報の紐づけを行い、検体管理プログラムから一覧表示出来ることを確認しました。2022年度で計113検体を登録しました。今回の実証実験を通じて登録作業の課題を明確にし、来年度に登録検体種類の拡大を目指します。



阪大発 感染症情報発信ウェブサイトを開閉!

「+CiDER」プラスサイダー

<https://www.cider.osaka-u.ac.jp/plus-cider/>



感染症に関する多角的な情報を発信するウェブサイトを2022年4月1日に公開しました。ワクチン・治療薬等に関する医療情報に加えて、社会経済や社会心理への影響、感染リスク分析、数理モデルによるシミュレーションなど、幅広い世代にわかりやすく伝えていきます!

行動経済学と感染症のニュース

【行動経済学】
大竹 文雄

世界のワクチンと免疫のニュース

【免疫学】
伊勢 涉

感染症専門医の感染症ニュース

【感染症専門医】
忽那 賢志



感染症と向き合う研究者にインタビューする「Infection(感染症)×○○」シリーズ!として動画コンテンツを掲載

Infection× Behavioral Economics

【行動経済学】
佐々木周作 × 加藤 大貴
(日本学術振興会特別研究員)

Infection× Clinical Psychology

【臨床心理学】
八木橋真央 × 村上 靖彦
【哲学】

Infection× Immunology

【行動経済学】
小池 拓矢
(日本学術振興会特別研究員)

Infection× Doctor

【病理医】
本山 雄一

2022年度 配信コンテンツ

オリジナル記事
コンテンツ

K値とは何か?

【自然科学】
中野 貴志

感染症数理モデル リンク切れとは?

【自然科学】
池田 陽一

変異株と感染者数の推移

【自然科学】
佐々木健志

大規模集合イベントの楽しみを取り戻す
感染リスクとの向き合い方について考える

【リスク学】
村上 道夫

風しんの抗体検査・ワクチンの広報動画をつくろう!
ワークショップを開催

【行動経済学】
大竹 文雄
佐々木周作

オリジナル動画
コンテンツ

日本人は感染を「自業自得」と思う?

【社会心理学】
三浦 麻子

SNSは(お気持ち)共有メディア?

【社会心理学】
三浦 麻子

世界の感染状況は? コロナの収束はくる!

【感染症専門医】
忽那 賢志

マスク外しても大丈夫?

【感染症専門医】
忽那 賢志

海外旅行本格再開へ! 感染対策、どうする?

【感染症専門医】
忽那 賢志



CiDER、感染症教育コンテンツ配信サイト「CiDER-EDU」、感染症情報発信サイト「+CiDER」を動画で紹介

CiDER PR動画

CiDER-EDU PR動画

プラスサイダー PR動画

感染症の脅威からいのちを守るための総合知を形成する
感染症総合教育研究拠点

大規模集合イベントの楽しみを取り戻す
感染リスクとの向き合い方について考える

大規模の感染症情報発信サイト
+CiDER

毎月 CiDER メールマガジンにて最新情報を配信!

CiDERでは、毎月1回、最新の情報をメールマガジンとして配信しています。イベント情報や、毎月配信しているWEBコンテンツの最終情報など、こちらからご覧いただけます。

配信ご希望の方はこちら▶



CiDER公式 Twitterを公開!

公式Twitterを2022年4月に開設しました。CiDERウェブサイトの情報を公式Twitterでも配信しています!
https://twitter.com/cider_pr



CiDER公式 YouTubeチャンネルを公開!

CiDERの動画コンテンツを掲載しました公式YouTubeチャンネルを2022年4月に開設しました。ウェブサイトに掲載している動画がこちらにチャンネルで配信しています!
https://www.youtube.com/@cider_pr



SpringX 超学校 CiDER × ナレッジキャピタル 正しく学ぶ!感染症から「いのち」と「暮らし」を守る講座 season2

新型コロナウイルスをはじめとする感染症の脅威から人々の「いのち」と「暮らし」を守るために、科学的根拠に基づいた感染症対策やリスク、ワクチンの開発状況に加えて、感染禍が人々の行動に与えた影響の分析などの幅広い話題について、大阪大学の研究者が、中学生から大人までを対象にわかりやすく解説するプログラムです。



第1回 下水疫学
～下水から見える新型コロナウイルス感染症の流行動向～
下水中のウイルスを検出することで集団レベルの感染流行状況を把握する「下水疫学」。下水処理場や東京オリンピック・パラリンピックでの演者らの調査事例など国内外での最新動向を紹介しながら、社会における活用について考える。

大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授(常勤) **村上 道夫**
北海道大学大学院工学研究院 准教授
(兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点 連携研究員 **北島 正章**

第2回 風しんの抗体をもっていると思い込んでいませんか?
厚生労働省が対象者に配布している風しんの抗体検査とワクチン接種を受けられる無料クーポン。どのように呼びかけると、検査を受けてもらえる?行動経済学的な研究の結果を紹介する。

大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授(常勤) **大竹 文雄**
大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任准教授(常勤) **佐々木周作**

第3回 院内感染症の原因細菌「黄色ブドウ球菌」の最近の話題
院内感染症の原因菌として有名な「黄色ブドウ球菌」の進化の解析手法の現状と、抗生剤耐性獲得メカニズムを紹介するとともに、抗生物質が必要な病態について解説する。

大阪大学免疫学フロンティア研究センター 准教授 **松岡 悠美**

第4回 世界のコロナ禍を通して見た日本の学校保健
世界のコロナ禍を通して見た日本の学校保健の特徴等について解説するとともに、いかにしてポストコロナの強い社会を作ることができるかについて考える。

大阪大学大学院 人間科学研究科 教授
(兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点 **杉田 映理**
信州大学教育学部 准教授
(兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点 連携研究員 **友川 幸**
琉球大学大学院保健学研究科 教授
(兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点 連携研究員 **小林 潤**

第5回 コロナ研究で活躍する「遺伝子発現解析法」とは?
コロナ禍を経験し、日常でも耳なじみになった「PCR法」。実際の研究や医療現場ではPCR法を応用した「遺伝子発現解析法」という解析法が日常的に用いられている。測定技術の革新と本学の「遺伝子発現解析法」への取り組みについて解説する。

大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任准教授
(兼)大阪大学微生物病研究所 **奥崎 大介**
(兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点

第6回 COVID-19感染流行で見えてきた日本の感染対策の効果
ウイルスが変異により、いくつかの流行の波を数えたCOVID-19。これまでの対策の中で効果があったもの、なかったものは何?何も対策しなかった場合の可能性を踏まえ、これまでの施策の評価を行う。

大阪大学感染症総合教育研究拠点 教授
(兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任准教授(常勤) **井出 和希**
大阪大学核物理研究センター 教授
(兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点 **佐々木健志**
中野 貴志

第7回 コロナ禍における研究情報の発信を振り返る
「プレスリリース」の目利きになろう
コロナ禍においてプレスリリースがどのくらい、どのように世の中に出ているかに注目しながら、情報を客観的に読み解くための基本的な手順を解説する。

大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任准教授(常勤) **井出 和希**
大阪大学データリテラシーフロンティア機構 教授
(兼)大阪大学社会技術共創研究センター(ELSIセンター)
(兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点 **岸本 充生**

第8回 病原体を排除するからだのしくみ
病原体を排除するからだのしくみである「免疫応答」。近年、1つ1つの細胞レベルで解析して理解することが可能となってきた。病原体に対するT細胞応答の実態を、新型コロナウイルス感染者の解析結果とともに紹介し、今後の応用の可能性について考える。

大阪大学微生物病研究所 教授
(兼)大阪大学免疫学フロンティア研究センター
(兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点 **山崎 晶**

第9回 コロナ関連政策にはどれぐらいの効果があったのか?
コロナ禍で行われたさまざまな政策にどれぐらいの効果があったのか。データから因果関係を統計的に推定していく「因果推論」の手法を使って、コロナ関連政策の影響を分析した内容を解説。

大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任准教授(常勤) **北村 周平**

第10回 WithコロナとこれからのWithメンタルヘルス
感染症パンデミック等、生死を揺るがすような出来事の後には、精神症状の残存やその慢性化が話題になる。そこで、精神医療に携わる4人の専門家が、これからのメンタルヘルスを考える。

大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任准助教(常勤) **八木橋真央**
大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任研究員 **大滝 涼子**
東北大学病院精神科 助教
(兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点 連携研究員 **佐久間 篤**
(株)EMANON 代表取締役 / VOICY パーソナリティ **Kagshun**

第11回 病原性寄生虫「トキソプラズマ」が起す感染症のサイエンス
寄生虫の一種であり、免疫不全者等や初感染の妊婦に重篤な症状を引き起こす病原体である一方で、健康な人には日和見感染しかせず、世界人口の約3分の1に感染している「トキソプラズマ」。トキソプラズマと宿主である人間の体内で起こす感染症の科学を解説する。

大阪大学微生物病研究所 教授
(兼)大阪大学免疫学フロンティア研究センター **山本 雅裕**
大阪大学 名誉教授

第12回 データで読み解く新型コロナ感染症のいま
これまでの感染症のデータ分析によって明らかとなった流行メカニズムについて紹介し、第7波や第8波の特徴も踏まえ、新型コロナ感染症の今後について考える。

大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任准教授(常勤) **佐々木健志**

原著論文

[科学情報・公共政策部門]

1 北野翔大, 大竹文雄, オンライン・フィールド調査による早期避難促進メッセージの効果検証—行動経済学から学ぶ, 日本労働研究雑誌, 749, 26, 37, 2022

2 Sun Youn Lee, Shusaku Sasaki, Hirofumi Kurokawa, Fumio Ohtake, The school education, ritual customs, and reciprocity associated with self-regulating hand hygiene practices during COVID-19 in Japan, BMC Public Health, 22, 1, 2022

3 Yumi Shimizu, Kei Hirai, Yutaka Ueda, Asami Yagi, Fumio Ohtake, Impact of the Threat of COVID-19 Infections on the Perceived Risk to HPV Vaccination., Vaccines, 10, 5, 2022

4 Tomoharu Mori, Hirofumi Kurokawa, Fumio Ohtake, Labor Supply Reaction to Wage Cuts and Tax Increases: A Real-Effort Experiment, FinanzArchiv, Online First, 1, 1, 2022

5 Yukari Yamada, Tomoe Uchida, Shusaku Sasaki, Masataka Taguri, Takayuki Shiore, Tatsuyoshi Ikenoue, Shingo Fukuma, Nudge-Based Interventions on Health Promotion Activity Among Very Old People: A Pragmatic, 2-Arm, Participant-Blinded Randomized Controlled Trial, Journal of the American Medical Directors Association, Forthcoming, 2022

6 Takanori Ida, Takunori Ishihara, Koichiro Ito, Daido Kido, Toru Kitagawa, Shosei Sakaguchi, Shusaku Sasaki, Choosing Who Chooses: Selection-Driven Targeting in Energy Rebate Programs, National Bureau of Economic Research Working Paper, 30469, 1, 49, 2022

7 Sun Youn Lee, Shusaku Sasaki, Hirofumi Kurokawa, Fumio Ohtake, The school education, ritual customs, and reciprocity associated with self-regulating hand hygiene practices during COVID-19 in Japan, BMC Public Health, 22, 1663, 2022

8 Mei Yamagata & Asako Miura, Retrospective bias during the COVID-19 pandemic, THE JAPANESE JOURNAL OF EXPERIMENTAL SOCIAL PSYCHOLOGY, Early view, 2023, https://doi.org/10.2130/jjesp.si5-2

9 Michio Murakami, Kai Hiraishi, Mei Yamagata, Daisuke Nakanishi, & Asako Miura, Belief in just deserts regarding individuals infected with COVID-19 in Japan and its associations with demographic factors and infection-related and socio-psychological characteristics: a cross-sectional study, PeerJ, 10, e14545, 2022, https://doi.org/10.7717/peerj.14545

10 三浦 麻子, 清水 裕士, 北村 英哉, 山縣 芽生, 松尾 朗子, 寺口 司, 新型コロナウイルス感染症は感染回避傾向に影響したか — 傾向スコアを用いた Web 調査の House Effects の調整 —, 心理学研究, 93, 4, 348, 358, 2022, https://doi.org/10.4992/jjpsy.93.21222

11 Daiichi Morii, Asako Miura, & Masashi Komori, The impact of television on-air time on hand hygiene compliance behaviors during COVID-19 outbreak, American Journal of Infection Control, In Press, Journal Pre-proof, 2023, https://doi.org/10.1016/j.ajic.2023.03.001

12 Flavio Azevedo et al., Social and moral psychology of COVID-19 across 69 countries, Nature Scientific Data, Accepted, 2023, https://psyarxiv.com/a3562/

13 村上 靖彦, ネグレクトではなくヤングケアラーである, 現代思想, 50, 9, 154, 163, 2022, http://www.seidoshia.co.jp/book/index.php?id=3701

14 村上 靖彦, 親への支援から見たネグレクト, 小児内科, 54, 22, 1781, 1786, 2022, https://www.fujisan.co.jp/product/1281683462/b/2250052/

15 Shimizu, Y., Hirai, K., Yagi, A., & Ohtake, F, Impact of the Threat of COVID-19 Infections on the Perceived Risk to HPV Vaccination., Vaccines, 10, 5, 829, 2022, https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC9147999/

16 Y. Lyu, T. Doi, T. Hatsuda, Y. Ikeda, J. Meng, K. Sasaki, T. Sugiura, Attractive N-pi interaction and two-pion tail from lattice QCD near physical point, Physical Review D, 106, 7, 2022

17 Yoichi Ikeda, Kenji Sasaki, Takashi Nakano, A New Compartment Model of COVID-19 Transmission: The Broken-Link Model., International journal of environmental research and public health, 19, 11, 2022

18 Kenji Sasaki, Yoichi Ikeda, Takashi Nakano, The Effects of Behavioral Restrictions on the Spread of COVID-19, Reports, 5, 4, 37, 2022

19 Michio Murakami, Hitoshi Sato, Tomoko Irie, Masashi Kamo, Wataru Naito, Tetsuo Yasutaka, Seiya Imoto, Sensitivity of rapid antigen tests for COVID-19 during the Omicron variant outbreak among players and staff members of the Japan Professional Football League and clubs: a retrospective observational study, BMJ Open, 13, e067591, 2023

20 Hiroki Ando, Michio Murakami, Warish Ahmed, Ryo Iwamoto, Satoshi Okabe, Masaaki Kitajima, Wastewater-based prediction of COVID-19 cases using a highly sensitive SARS-CoV-2 RNA detection method combined with mathematical modeling, Environment International, 107743, 2023

21 村上 道夫, 大沼 進, 柴田 侑秀, 高田 モモ, 小林 智之, 後藤 あや, 保高 徹生, 対象者の協力を必要とする調査に関する注意事項と対応方法について, リスク学研究, 32(3), 243-249, 2023

22 Toyoaki Sawano, Yuki Senoo, Saori Nonaka, Akihiko Ozaki, Yoshitaka Nishikawa, Arinobu Hori, Yasuhiro Kotera, Michio Murakami, Tianchen Zhao, Masaharu Tsubokura, Mortality risk associated with nuclear disasters depends on the time during and following evacuation of hospitals near nuclear power plants: An observational and qualitative study, International Journal of Disaster Risk Reduction, 85, 103514, 2023

23 Michio Murakami, Shuhei Nomura, Annual prevalence of non-communicable diseases and identification of vulnerable populations following the Fukushima disaster and COVID-19 pandemic, International Journal of Disaster Risk Reduction, 84, 103471, 2023

24 Manaе Uchibori, Cyrus Ghaznavi, Michio Murakami, Akifumi Eguchi, Hiroyuki Kunishima, Satoshi Kaneko, Keiko Maruyama-Sakurai, Hiroaki Miyata, Shuhei Nomura, Preventive Behaviors and Information Sources during COVID-19 Pandemic: A Cross-Sectional Study in Japan, International journal of environmental research and public health, 19, 2, 14511, 2022

25 Takashi Azuma, Michio Murakami, Yuki Sonoda, Akihiko Ozaki, Tetsuya Hayashi, Occurrence and Quantitative Microbial Risk Assessment of Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus (MRSA) in a Sub-Catchment of the Yodo River Basin, Japan, Antibiotics, 11, 10, 1355, 2022

26 Masaaki Kitajima, Michio Murakami, Syun-suke Kadoya, Hiroki Ando, Tomohiro Kuroita, Hiroyuki Katayama, Seiya Imoto, Association of SARS-CoV-2 Load in Wastewater With Reported COVID-19 Cases in the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Village From July to September 2021, JAMA Network Open, 5, 8, e2226822, 2022

27 Michio Murakami, Tsukasa Fujita, Pinqi Li, Seiya Imoto, Tetsuo Yasutaka, Development of a COVID-19 risk assessment model for participants at outdoor music festivals: evaluation of the validity and control measure effectiveness based on two actual events in Japan and Spain, PeerJ, 10, e13846, 2022

28 Ryo Iwamoto, Kiyoshi Yamaguchi, Chisato Arakawa, Hiroki Ando, Eiji Haramoto, Ken-ichi Setsukinai, Kotoe Katayama, Takuya Yamagishi, Sumire Sorano, Michio Murakami, Shigeru Kyuwa, Hiroyuki Kobayashi, Satoshi Okabe, Seiya Imoto, Masaaki Kitajima, The detectability and removal efficiency of SARS-CoV-2 in a large-scale septic tank of a COVID-19 quarantine facility in Japan, *Science of The Total Environment*, 849, 157869, 2022

29 Mizuki Wada, Yoshitake Takebayashi, Michio Murakami, Role of Values and Resilience in Well-Being among Individuals Affected by the Fukushima Disaster, *Applied Research in Quality of Life*, 17, 3503-3515, 2022

30 村上 道夫, 五十嵐 泰正, 福島第一原子力発電所の処理水と風評被害に関する取り組みへの展望, 32(1), 25-29, 2022

31 Shuhei Nomura, Akifumi Eguchi, Daisuke Yoneoka, Michio Murakami, Cyrus Ghaznavi, Stuart Gilmour, Satoshi Kaneko, Takayuki Kawashima, Hiroyuki Kunishima, Wataru Naito, Haruka Sakamoto, Keiko Maruyama-Sakurai, Arata Takahashi, Yoshihiro Takayama, Yuta Tanoue, Yoshiko Yamamoto, Tetsuo Yasutaka, Hiroaki Miyata, Factors associated with reversals of COVID-19 vaccination hesitancy among Japanese people: One-year follow-up survey, *The Lancet Regional Health - Western Pacific*, 100541, 2022

32 Cyrus Ghaznavi, Daisuke Yoneoka, Takayuki Kawashima, Akifumi Eguchi, Michio Murakami, Stuart Gilmour, Satoshi Kaneko, Hiroyuki Kunishima, Wataru Naito, Haruka Sakamoto, Keiko Maruyama-Sakurai, Arata Takahashi, Yoshihiro Takayama, Yuta Tanoue, Yoshiko Yamamoto, Tetsuo Yasutaka, Hiroaki Miyata, Shuhei Nomura, Factors associated with reversals of COVID-19 vaccination willingness: Results from two longitudinal, national surveys in Japan 2021-2022, *The Lancet Regional Health - Western Pacific*, 100540, 2022

33 Michio Murakami, Re-examining the importance of mask-wearing at mass gathering events, *The Lancet Regional Health - Europe*, 18, 100423, 2022

34 Motohiro Tsuboi, Toyoaki Sawano, Saori Nonaka, Arinobu Hori, Akihiko Ozaki, Yoshitaka Nishikawa, Tianchen Zhao, Michio Murakami, Masaharu Tsubokura, Disaster-related deaths after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident - Definition of the term and lessons learned, *Environmental Advances*, 8, 100248, 2022

35 Momo Takada[#], Kosuke Shirai[#], Michio Murakami^{*}, Susumu Ohnuma^{*}, Jun Nakatani, Kazuo Yamada, Masahiro Osako, Tetsuo Yasutaka[#], ^{*}These authors contributed equally to this work, Important factors for public acceptance of the final disposal of contaminated soil and wastes resulting from the Fukushima Daiichi nuclear power station accident, *PLOS ONE*, 17, 6, e0269702, 2022

36 Megumi Adachi, Michio Murakami, Daisuke Yoneoka, Takayuki Kawashima, Masahiro Hashizume, Haruka Sakamoto, Akifumi Eguchi, Cyrus Ghaznavi, Stuart Gilmour, Satoshi Kaneko, Hiroyuki Kunishima, Keiko Maruyama-Sakurai, Yuta Tanoue, Yoshiko Yamamoto, Hiroaki Miyata, Shuhei Nomura, Factors associated with the risk perception of COVID-19 infection and severe illness: A cross-sectional study in Japan, *SSM - Population Health*, 18, 101105, 2022

37 Munehito Machida, Michio Murakami, Aya Goto, Differences in Data Trustworthiness and Risk Perception between Bar Graphs and Pictograms, *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 19, 8, 4690, 2022

38 Michio Murakami, Masaaki Kitajima, Noriko Endo, Warish Ahmed, Bernd Gawlik: The growing need to establish a global wastewater surveillance consortium for future pandemic preparedness, *Journal of Travel Medicine*, taad035, 2023

39 Tetsuo Yasutaka, Masaki Onishi, Wataru Naito, Yoshiaki Bando, Tomoaki Okuda, Michio Murakami: Maximum proportion of masks worn: Collaborative efforts in Japanese professional football, *Journal of Infection and Public Health*, 2023

40 Luna Kinoshita, Aya Goto, Satoko Okabe, Kenichi Satoh, Kaori Honda, Kimiko Ueda, Michio Murakami, Kenneth E. Nolle: Daily meals in context: A quantitative analysis of elementary school students' drawings, *Frontiers in Communication*, 8, 1008108, 2023.

41 Akira Yoneshiro, Yoshitake Takebayashi, Michio Murakami: The association between music preferences and well-being after the Fukushima disaster: A cross sectional study, *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*, 2023

42 Fujita M, Hatta T, Ide K, Current status of cell-based interventions in Japan., *Cell Stem Cell.*, 29, 9, 1294, 1297, 2022

43 Honjo Y, Ide K, Takechi H, Day service use and improved serial 7 and verbal fluency scores in patients with Alzheimer's disease., *Psychogeriatrics.*, 22, 5, 659, 665, 2022

44 井出 和希, 林 和弘, オープンアクセス型学術誌の進展により顕在化する「Predatory Journal」問題—実態、動向、判断の観点—, *STI Horizon.*, 8, 2, 38, 43, 2022

45 Hatta T, Ide K, Misao F, Ikka T, Financial risks posed by unproven stem cell interventions: Estimation of refunds from medical expense deductions in Japan., *Stem Cell Rep.*, 17, 5, 1016, 1018, 2022

46 Honjo Y, Ide K, Takechi H, Most families tend to realize progress of Alzheimer's disease when behavioral and psychological symptoms are obvious., *Psychogeriatrics.*, 22, 3, 317, 323, 2022

47 Ide K, Hawke P, Nakayama T, Can ChatGPT be considered an author of a medical article? *J Epidemiol.* 2023, in press.

5 Kensuke Shibata, Chihiro Motozono, Masamichi Nagae, Takashi Shimizu, Eri Ishikawa, Daisuke Motooka, Daisuke Okuzaki, Yoshihiro Izumi, Masatomo Takahashi, Nao Fujimori, James B Wing, Takahide Hayano, Yoshiyuki Asai, Takeshi Bamba, Yoshihiro Ogawa, Makoto Furutani-Seiki, Mutsunori Shirai, Sho Yamasaki, Symbiotic bacteria-dependent expansion of MR1-reactive T cells causes autoimmunity in the absence of Bcl11b., *Nature communications*, 13, 1, 6948, 2022

6 Namkoong, H., Edahiro, R., Takano, T., ... Wing, J.B., ... Kumanogoh, A., ... Okada, Y. DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19. *Nature* 609, 754-760 (2022). <https://doi.org/10.1038/s41586-022-05163-5>

7 Takuya Koike, Kentaro Fujii, Kohei Kometani, Noah S Butler, Kenji Funakoshi, Shinya Yari, Junichi Kikuta, Masaru Ishii, Tomohiro Kurosaki, Wataru Ise, Progressive differentiation toward the long-lived plasma cell compartment in the bone marrow., *The Journal of experimental medicine*, 220, 2, e20221717, 2023

8 Kota Itahashi, Takuma Irie, Junichiro Yuda, Shogo Kumagai, Tokiyoshi Tanegashima, Yi-Tzu Lin, Sho Watanabe, Yasushi Goto, Jun Suzuki, Keiju Aokage, Masahiro Tsuboi, Yosuke Minami, Genichiro Ishii, Yuichiro Ohe, Wataru Ise, Tomohiro Kurosaki, Yutaka Suzuki, Shohei Koyama, Hiroyoshi Nishikawa, BATF epigenetically and transcriptionally controls the activation program of regulatory T cells in human tumors., *Science immunology*, 7, 76, eabk0957, 2022

9 Shojiro Haji, Taiki Ito, Carla Guenther, Miyako Nakano, Takashi Shimizu, Daiki Mori, Yasunori Chiba, Masato Tanaka, Sushil K Mishra, Janet A Willment, Gordon D Brown, Masamichi Nagae, Sho Yamasaki, Human Dectin-1 is O-glycosylated and serves as a ligand for C-type lectin receptor CLEC-2., *eLife*, 11, 2022

10 He Zhang, Yumi Itoh, Tatsuya Suzuki, Kan-Ichiro Ihara, Tomohisa Tanaka, Saori Haga, Hajime Enatsu, Maho Yumiya, Mari Kimura, Akira Takada, Daiki Itoh, Yuri Shibazaki, Shuto Nakao, Sachiyo Yoshio, Kei Miyakawa, Yuki Miyamoto, Hanae Sasaki, Tadahi Kajiya, Masaya Sugiyama, Masashi Mizokami, Taro Tachibana, Akihito Ryo, Kohji Moriishi, Eiji Miyoshi, Tatsuya Kanto, Toru Okamoto, Yoshiharu Matsuura, Establishment of monoclonal antibodies broadly neutralize infection of hepatitis B virus., *Microbiology and immunology*, 66, 4, 179, 192, 2022. doi:10.1111/1348-0421.12964

11 Hiroki Hayashi, Jiao Sun, Yuka Yanagida, Takako Otera, Ritsuko Kubota-Koketsu, Tatsuo Shioda, Chikako Ono, Yoshiharu Matsuura, Hisashi Arase, Shota Yoshida, Ryo Nakamaru, Nan Ju, Ryoko Ide, Akiko Tenma, Sotaro Kawabata, Takako Ehara, Makoto Sakaguchi, Hideki Tomioka, Munehisa Shimamura, Sachiko Okamoto, Yasunori Amaishi, Hideto Chono, Junichi Mineno, Takao Komatsuno, Yoshimi Saito, Hiromi Rakugi, Ryuichi Morishita, Hironori Nakagami, Preclinical study of a DNA vaccine targeting SARS-CoV-2., *Current research in translational medicine*, 70, 4, 103348, 2022, doi:10.1016/j.retram.2022.103348

12 Ryotaro Nouda, Takahiro Kawagishi, Yuta Kanai, Masayuki Shimojima, Masayuki Saijo, Yoshiharu Matsuura, Takeshi Kobayashi, The nonstructural p17 protein of a fusogenic bat-borne reovirus regulates viral replication in virus species- and host-specific manners., *PLoS pathogens*, 18, 6, e1010553, 2022, doi:10.1371/journal.ppat.1010553

13 Tomokazu Tamura, Shiho Torii, Kentaro Kajiwara, Itsuki Anzai, Yoichiro Fujioka, Kisho Noda, Shuhei Tagawa, Yuhei Morioka, Rigel Suzuki, Yuzy Fauzyah, Chikako Ono, Yusuke Ohba, Masato Okada, Takasuke Fukuhara, Yoshiharu Matsuura, Secretory glycoprotein NS1 plays a crucial role in the particle formation of flaviviruses., *PLoS pathogens*, 18, 6, e1010593, 2022, doi:10.1371/journal.ppat.1010593

14 Hitoshi Kawasuji, Yoshitomo Morinaga, Hideki Tani, Yumiko Saga, Makito Kaneda, Yushi Murai, Akitoshi Ueno, Yuki Miyajima, Yasutaka Fukui, Kentaro Nagaoka, Chikako Ono, Yoshiharu Matsuura, Hideki Niimi, Yoshihiro Yamamoto, Effectiveness of the third dose of BNT162b2 vaccine on neutralizing Omicron variant in the Japanese population, *Journal of Infection and Chemotherapy*, 28, 9, 1273, 1278, 2022, doi:10.1016/j.jiac.2022.05.009

15 Ryota Maeda, Junso Fujita, Yoshinobu Konishi, Yasuhiro Kazuma, Hiroyuki Yamazaki, Itsuki Anzai, Tokiko Watanabe, Keishi Yamaguchi, Kazuki Kasai, Yakoko Nagata, Yutaro Yamaoka, Kei Miyakawa, Akihito Ryo, Kotaro Shirakawa, Kei Sato, Fumiaki Makino, Yoshiharu Matsuura, Tsuyoshi Inoue, Akihiro Imura, Keiichi Namba, Akifumi Takaori-Kondo, A panel of nanobodies recognizing conserved hidden clefts of all SARS-CoV-2 spike variants including Omicron., *Communications biology*, 5, 1, 669, 2022, doi:10.1038/s42003-022-03630-3

16 Chihiro Okada, Etsuko Ikeda-Ishizaka, Chikako Ono, Yoshiharu Matsuura, Hikaru Sonoda, Establishment of Neutralizing Monoclonal Antibodies Against Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 by the Screening with Exosomes Expressing the Viral Spike Protein., *Monoclonal antibodies in immunodiagnosis and immunotherapy*, 41, 4, 173, 180, 2022, doi:10.1089/mab.2021.0043

17 Tomoyuki Nishikawa, Chin Yang Chang, Jiayu A Tai, Hiroki Hayashi, Jiao Sun, Shiho Torii, Chikako Ono, Yoshiharu Matsuura, Ryoko Ide, Junichi Mineno, Miwa Sasai, Masahiro Yamamoto, Hironori Nakagami, Kunihiko Yamashita, Immune response induced in rodents by anti-CoVid19 plasmid DNA vaccine via pyro-drive jet injector inoculation., *Immunological medicine*, 45, 4, 1, 14, 2022, doi:10.1080/25785826.2022.2111905

18 Hitoshi Kawasuji, Yoshitomo Morinaga, Hideki Tani, Yumiko Saga, Makito Kaneda, Yushi Murai, Akitoshi Ueno, Yuki Miyajima, Yasutaka Fukui, Kentaro Nagaoka, Chikako Ono, Yoshiharu Matsuura, Hideki Niimi, Yoshihiro Yamamoto, Effectiveness of the third dose of BNT162b2 vaccine on neutralizing Omicron variant in the Japanese population., *Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy*, 28, 9, 1273, 1278, 2022, doi:10.1016/j.jiac.2022.05.009

19 Masako Kohyama, Tatsuya Suzuki, Wataru Nakai, Chikako Ono, Sumiko Matsuoka, Koichi Iwatani, Yafei Liu, Yusuke Sakai, Atsushi Nakagawa, Keisuke Tomii, Koichiro Ohmura, Masato Okada, Yoshiharu Matsuura, Shiro Ohshima, Yusuke Maeda, Toru Okamoto, Hisashi Arase, SARS-CoV-2 ORF8 is a viral cytokine regulating immune responses., *International immunology*, 35, 1, 43, 52, 2022, doi:10.1093/intimm/dxac044

20 Rina Hashimoto, Junya Takahashi, Keisuke Shirakura, Risa Funatsu, Kaori Kosugi, Sayaka Deguchi, Masaki Yamamoto, Yugo Tsunoda, Maaya Morita, Kosuke Muraoka, Masato Tanaka, Tomoaki Kanbara, Shota Tanaka, Shigeyuki Tamiya, Nagisa Tokunoh, Atsushi Kawai, Masahito Ikawa, Chikako Ono, Keisuke Tachibana, Masuo Kondoh, Masanori Obana, Yoshiharu Matsuura, Akihiro Ohsumi, Takeshi Noda, Takuya Yamamoto, Yasuo Yoshioka, Yu-Suke Torisawa, Hiroshi Date, Yasushi Fujio, Milki Nagao, Kazuo Takayama, Yoshiaki Okada, SARS-CoV-2 disrupts respiratory vascular barriers by suppressing Claudin-5 expression., *Science advances*, 8, 38, eabo6783, 2022, doi:10.1126/sciadv.abo6783

21 Atsushi Yamanaka, Pimpoy Rattanaamnuaychai, Mami Matsuda, Ryosuke Suzuki, Yoshiharu Matsuura, Masashi Tatsumi, Eiji Konishi, Engineered flavivirus vaccines control induction of crossreactive infection-enhancing and -neutralizing antibodies., *Vaccine*, 40, 42, 6004, 6011, 2022, doi:10.1016/j.vaccine.2022.09.012

22 Maya Shofa, Tomotaka Okamura, Emiko Urano, Yoshiharu Matsuura, Yasuhiro Yasutomi, Akatsuki Saito, Repeated Intravaginal Inoculation of Zika Virus Protects Cynomolgus Monkeys from Subcutaneous Superchallenge, *International Journal of Molecular Sciences*, 23, 22, 14002, 2022, doi:10.3390/ijms232214002

23 Yoshitaka Isaka, Taku Yoshiya, Chikako Ono, Akinori Uchiyama, Haruhiko Hirata, Shigeto Hamaguchi, Satoshi Kutsuna, Yoshitsugu Takabatake, Ryotaro Saita, Tomomi Yamada, Atsushi Takahashi, Masaya Yamato, Yukie Nohara, Shugo Tsuda, Itsuki Anzai, Tomonori Kimura, Yoshito Takeda, Kazunori Tomono, Yoshiharu Matsuura, Establishment and clinical application of SARS-CoV-2 catch column., *Clinical and experimental nephrology*, 1, 9, 2022, doi:10.1007/s10157-022-02296-9

[感染症・生体防御研究部門]

1 Jonas Nørskov Søndergaard, Janyerkye Tulyeu, Ryuya Edahiro, Yuya Shirai, Yuta Yamaguchi, Teruaki Murakami, Takayoshi Morita, Yasuhiro Kato, Haruhiko Hirata, Yoshito Takeda, Daisuke Okuzaki, Shimon Sakaguchi, Atsushi Kumanogoh, Yukinori Okada, James Badger Wing, A sex-biased imbalance between Tfr, Tph, and atypical B cells determines antibody responses in COVID-19 patients., *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 120, 4, e2217902120, 2023

2 Takehito Yokoi, Mari Murakami, Takako Kihara, Shigeto Seno, Mitsuru Arase, James Badger Wing, Jonas Nørskov Søndergaard, Ryuichi Kuwahara, Tomohiro Minagawa, Eri Oguro-Igashira, Daisuke Motooka, Daisuke Okuzaki, Ryota Mori, Atsuyo Ikeda, Yuki Sekido, Takahiro Amano, Hideki Iijima, Keiichi Ozono, Tsunekazu Mizushima, Seiichi Hirota, Hiroki Ikeuchi, Kiyoshi Takeda, Identification of a unique subset of tissue-resident memory CD4+ T cells in Crohn's disease., *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 120, 1, e2204269120, 2023

3 Kiyoshi Minohara, Masaki Imai, Takuma Matoba, James Badger Wing, Hiroaki Shime, Mizuyu Odanaka, Ryuta Uraki, Daisuke Kawakita, Tatsuya Toyama, Satoru Takahashi, Akimichi Morita, Shingo Murakami, Naganari Ohkura, Shimon Sakaguchi, Shinichi Iwasaki, Sayuri Yamazaki, Mature dendritic cells enriched in regulatory molecules may control regulatory T cells and the prognosis of head and neck cancer., *Cancer Science*, 2022

4 Yuta Yamaguchi, Yasuhiro Kato, Ryuya Edahiro, Jonas N Søndergaard, Teruaki Murakami, Saori Amiya, Shinichiro Nameki, Yuko Yoshimine, Takayoshi Morita, Yusuke Takeshima, Shuhei Sakakibara, Yoko Naito, Daisuke Motooka, Yu-Chen Liu, Yuya Shirai, Yasutaka Okita, Jun Fujimoto, Haruhiko Hirata, Yoshito Takeda, James B Wing, Daisuke Okuzaki, Yukinori Okada, Atsushi Kumanogoh, Consecutive BNT162b2 mRNA vaccination induces short-term epigenetic memory in innate immune cells., *JCI insight*, 7, 22, 2022

24 Yoshio Mori, Masafumi Sakata, Shota Sakai, Toru Okamoto, Yuichiro Nakatsu, Shuhei Tagawa, Noriyuki Tsuki, Yusuke Maeda, Kentaro Hanada, Yoshiharu Matsuura, Makoto Takeda, Membrane Sphingomyelin in Host Cells Is Essential for Nucleocapsid Penetration into the Cytoplasm after Hemifusion during Rubella Virus Entry., *mBio*, 13, 6, e0169822, 2022, doi:10.1128/mbio.01698-22

25 Akiho Yoshida, Shinya Okamura, Shiho Torii, Sayuri Komatsu, Paola Miyazato, Hitomi Sasaki, Shiori Ueno, Hidehiko Suzuki, Wataru Kamitani, Chikako Ono, Yoshiharu Matsuura, Shiro Takekawa, Koichi Yamanishi, Hirotaka Ebina, Versatile live-attenuated SARS-CoV-2 vaccine platform applicable to variants induces protective immunity., *iScience*, 25, 11, 105412, 2022, doi:10.1016/j.isci.2022.105412

26 Ryota Otsubo, Takeharu Minamitani, Kouji Kobiyama, Junso Fujita, Toshihiro Ito, Shiori Ueno, Itsuki Anzai, Hiroki Tanino, Hiroshi Aoyama, Yoshiharu Matsuura, Keiichi Namba, Ken-ichi Imadome, Ken J Ishii, Kouhei Tsumoto, Wataru Kamitani, Teruhito Yasui, Human antibody recognition and neutralization mode on the NTD and RBD domains of SARS-CoV-2 spike protein., *Scientific reports*, 12, 1, 20120, 2022, doi:10.1038/s41598-022-24730-4

27 Maaya Morita, Aki Yoneda, Nagisa Tokunoh, Tatsumi Masaki, Keisuke Shirakura, Mayumi Kinoshita, Rina Hashimoto, Naoya Shigesada, Junya Takahashi, Masashi Tachibana, Shota Tanaka, Masanori Obana, Nobumasa Hino, Masahito Ikawa, Kazutake Tsujikawa, Chikako Ono, Yoshiharu Matsuura, Hiroyasu Kidoya, Nobuyuki Takakura, Yoshiaki Kubota, Takefumi Doi, Kazuo Takayama, Yasuo Yoshioka, Yasushi Fujio, Yoshiaki Okada, Upregulation of Robo4 expression by SMAD signaling suppresses vascular permeability and mortality in endotoxemia and COVID-19 models. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 120, 3, e2213317120, 2023, doi:10.1073/pnas.2213317120

28 Takeshi Inoue, Ryo Shinnakasu, Chie Kawai, Hiromi Yamamoto, Shuhei Sakakibara, Chikako Ono, Yumi Itoh, Tommy Terootate, Kazuo Yamashita, Toru Okamoto, Noritaka Hashii, Akiko Ishii-Watabe, Noah S Butler, Yoshiharu Matsuura, Hisatake Matsumoto, Shinya Otsuka, Kei Hiraoka, Takanori Teshima, Masaaki Murakami, Tomohiro Kurosaki, Antibody feedback contributes to facilitating the development of Omicron-reactive memory B cells in SARS-CoV-2 mRNA vaccinees., *The Journal of experimental medicine*, 220, 2, e20221786, 2023, doi:10.1084/jem.20221786

29 Junso Fujita, Fumiaki Makino, Haruyasu Asahara, Maiko Moriguchi, Shota Kumano, Itsuki Anzai, Jun-ichi Kishikawa, Yoshiharu Matsuura, Takayuki Kato, Keiichi Namba, Tsuyoshi Inoue, Epoxidized graphene grid for highly efficient high-resolution cryoEM structural analysis., *Scientific reports*, 13, 1, 2279, 2023, doi:10.1038/s41598-023-29396-0

30 Rina Hashimoto, Junya Takahashi, Keisuke Shirakura, Risa Funatsu, Kaori Kosugi, Sayaka Deguchi, Masaki Yamamoto, Yugo Tsunoda, Maaya Morita, Kosuke Muraoka, Masato Tanaka, Tomoaki Kanbara, Shota Tanaka, Shigeyuki Tamiya, Nagisa Tokunoh, Atsushi Kawai, Masahito Ikawa, Chikako Ono, Keisuke Tachibana, Masuo Kondoh, Masanori Obana, Yoshiharu Matsuura, Akihiro Ohsumi, Takeshi Noda, Takuya Yamamoto, Yasuo Yoshioka, Yu-Suke Torisawa, Hiroshi Date, Yasushi Fujio, Miki Nagao, Kazuo Takayama, Yoshiaki Okada, SARS-CoV-2 disrupts respiratory vascular barriers by suppressing Claudin-5 expression., *Science advances*, 8, 38, eabo6783, 2022, doi:10.1126/sciadv.abo6783

31 Mei Hashizume, Ayako Takashima, Chikako Ono, Toru Okamoto, Masaharu Iwasaki, Phenothiazines inhibit SARS-CoV-2 cell entry via a blockade of spike protein binding to neuropilin-1, *Antiviral Research*, 209, 105481, 2023, doi:10.1016/j.antiviral.2022.105481

32 Hao Shao, Shuhei Tagawa, Luke Gilbert, Arielle Shkedi, Sara Sannino, Christopher J Guerriero, Zachary J Gale-Day, Zapporah T Young, Jeffrey L Brodsky, Jonathan Weissman, Jason E Gestwicki, Judith Frydman, A campaign targeting a conserved Hsp70 binding site uncovers how subcellular localization is linked to distinct biological activities., *Cell chemical biology*, 29, 8, 1303, 1316, 2022, doi:10.1016/j.chembiol.2022.06.006

33 Michihito Sasaki, Koshiro Tabata, Mai Kishimoto, Yukari Itakura, Hiroko Kobayashi, Takuma Ariizumi, Kentaro Uemura, Shinsuke Toba, Shinji Kusakabe, Yuki Maruyama, Shun Iida, Noriko Nakajima, Tadaki Suzuki, Shinpei Yoshida, Haruaki Nobori, Takao Sanaki, Teruhisa Kato, Takao Shishido, William W Hall, Yasuko Orba, Akihiko Sato, Hirofumi Sawa, S-217622, a SARS-CoV-2 main protease inhibitor, decreases viral load and ameliorates COVID-19 severity in hamsters., *Science translational medicine*, 15, 679, eabq4064, 2022, doi:10.1126/scitranslmed.abq4064

34 Kittiya Intaruck, Yukari Itakura, Mai Kishimoto, Herman M Chambaro, Agus Setiyono, Ekowati Handharyani, Kentaro Uemura, Hayato Harima, Satoshi Taniguchi, Masayuki Saijo, Takashi Kimura, Yasuko Orba, Hirofumi Sawa, Michihito Sasaki, Isolation and characterization of an orthoreovirus from Indonesian fruit bats., *Virology*, 575, 10, 19, 2022, doi:10.1016/j.virol.2022.08.003

35 Shinsuke Toba, Akihiko Sato, Makoto Kawai, Yoshiyuki Taoda, Yuto Unoh, Shinji Kusakabe, Haruaki Nobori, Shota Uehara, Kentaro Uemura, Keiichi Taniguchi, Masanori Kobayashi, Takeshi Noshi, Ryu Yoshida, Akira Naito, Takao Shishido, Junki Maruyama, Slobodan Paessler, Michael J Carr, William W Hall, Kumiko Yoshimatsu, Jiro Arikawa, Keita Matsuno, Yoshihiro Sakoda, Michihito Sasaki, Yasuko Orba, Hirofumi Sawa, Hiroshi Kida, Identification of cap-dependent endonuclease inhibitors with broad-spectrum activity against bunyaviruses., *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, 119, 36, e2206104119, 2022, doi:10.1073/pnas.2206104119

36 Yoshifumi Kusumoto, Kyohei Hayashi, Soichiro Sato, Toru Yamada, Iori Kozono, Zenzaburo Nakata, Naoya Asada, Shungo Mitsuki, Ayahisa Watanabe, Chiaki Wakasa-Morimoto, Kentaro Uemura, Shuhei Arita, Shinobu Miki, Tohru Mizutare, Hidenori Mikamiyama, Highly Potent and Oral Macrocyclic Peptides as a HIV-1 Protease Inhibitor: mRNA Display-Derived Hit-to-Lead Optimization, *ACS Medicinal Chemistry Letters*, 13, 10, 1634, 1641, 2022, doi:10.1021/acsmchemlett.2c00310

37 Koshiro Tabata, Yukari Itakura, Shinsuke Toba, Kentaro Uemura, Mai Kishimoto, Michihito Sasaki, Jessica J Harrison, Akihiko Sato, William W Hall, Roy A Hall, Hirofumi Sawa, Yasuko Orba, Serological characterization of lineage II insect-specific flaviviruses compared with pathogenic mosquito-borne flaviviruses., *Biochemical and biophysical research communications*, 616, 115, 121, 2022, doi:10.1016/j.bbrc.2022.05.080

38 Haruaki Nobori, Keita Fukao, Takayuki Kuroda, Naomi Anan, Ryoichi Tashima, Masaaki Nakashima, Sayuri Noda, Minako Tajiri, Mikinori Torii, Shinsuke Toba, Kentaro Uemura, Takao Sanaki, Takao Shishido, Yuki Tachibana, Teruhisa Kato, Efficacy of ensitrelvir against SARS-CoV-2 in a delayed-treatment mouse model., *The Journal of antimicrobial chemotherapy*, 77, 11, 2984, 2991, 2022, doi:10.1093/jac/dkac257

39 Yuto Unoh, Shota Uehara, Kenji Nakahara, Haruaki Nobori, Yukiko Yamatsu, Shiho Yamamoto, Yuki Maruyama, Yoshiyuki Taoda, Koji Kasamatsu, Takahiro Suto, Kensuke Kouki, Atsufumi Nakahashi, Sho Kawashima, Takao Sanaki, Shinsuke Toba, Kentaro Uemura, Tohru Mizutare, Shigeru Ando, Michihito Sasaki, Yasuko Orba, Hirofumi Sawa, Akihiko Sato, Takafumi Sato, Teruhisa Kato, Yuki Tachibana, Discovery of S-217622, a Noncovalent Oral SARS-CoV-2 3CL Protease Inhibitor Clinical Candidate for Treating COVID-19., *Journal of medicinal chemistry*, 65, 9, 6499, 6512, 2022, doi:10.1021/acs.jmedchem.2c00117

40 Eiichi Kojima, Atsuhiko Iimuro, Mado Nakajima, Hirotaka Kinuta, Naoya Asada, Yusuke Sako, Zenzaburo Nakata, Kentaro Uemura, Shuhei Arita, Shinobu Miki, Chiaki Wakasa-Morimoto, Yuki Tachibana, Pocket-to-Lead: Structure-Based De Novo Design of Novel Non-peptidic HIV-1 Protease Inhibitors Using the Ligand Binding Pocket as a Template., *Journal of medicinal chemistry*, 65, 8, 6157, 6170, 2022, doi:10.1021/acs.jmedchem.1c02217

41 Motoki Nakamura, Kentaro Uemura, Noriko Saito-Tarashima, Akihiko Sato, Yasuko Orba, Hirofumi Sawa, Akira Matsuda, Katsumi Maenaka, Noriaki Minakawa, Synthesis and Antidengue Virus Activity of 5-Ethynylimidazole-4-carboxamide (EICA) Nucleotide Prodrugs, *Chemical and Pharmaceutical Bulletin*, 70, 3, 220, 225, 2022, doi:10.1248/cpb.c21-01038

【人材育成部門】

1 Tomita, Noriko, Saito, Sho, Terada-Hirashima, Junko, Mikami, Ayako, Uemura, Yukari, Kutsuna, Satoshi, . . . Terada, Mari., A Multi-Center, Open-Label, Randomized Controlled Trial to Evaluate the Efficacy of Convalescent Plasma Therapy for Coronavirus Disease 2019: A Trial Protocol (COVIPLA-RCT)., *Life*, 12, 6, 856, 2022

2 Hirofumi Motobayashi, Shougen Sumiyoshi, Kazuaki Aoki, Aoi Yogo, Kentaro Tochtani, Shungo Yamamoto, Tsunehiro Shimizu, Tetsushi Mizuno, Masaharu Tokoro, A case of amebic colitis and liver abscesses that occurred after treatment of coronavirus disease 2019 with dexamethasone., *IDCases*, 31, e01648, 2023

3 Maeki, Takahiro, Tajima, Shigeru, Ando, Naokatsu, Wakimoto, Yuji, Hayakawa, Kayoko, Kutsuna, Satoshi, . . . Lim, Chang-Kweng., Analysis of cross-reactivity among flaviviruses using sera of patients with dengue showed the importance of neutralization tests with paired serum samples for the correct interpretations of serological test results for dengue., *Journal of Infection and Chemotherapy*, 2023

4 Inada, Makoto, Ishikane, Masahiro, Terada, Mari, Matsunaga, Akihiro, Maeda, Kenji, Iwamoto, Noriko, . . . Ishizaka, Yukihito., Antibody responses after two doses of SARS-CoV-2 mRNA-1273 vaccine in an individual with history of COVID-19 re-infection., *International Journal of Infectious Diseases*, 119, 18, 20, 2022

5 Akihiro Shiroshita, Shungo Yamamoto, Keisuke Anan, Hokuto Suzuki, Masafumi Takeshita, Yuki Kataoka, Association Between Empirical Anti-Pseudomonas Antibiotics for Recurrent Lower Respiratory Tract Infections and Mortality: A Retrospective Cohort Study., *International journal of chronic obstructive pulmonary disease*, 17, 2919, 2929, 2022

6 Aya Katasako, Sho Sasaki, Yoshihiko Raita, Shungo Yamamoto, Kentaro Tochtani, Minoru Murakami, Ryo Nishioka, Kiichiro Fujisaki, Association between serum alkaline phosphatase and bacteraemia in haemodialysis outpatients: a multicentre retrospective cross-sectional study., *BMJ open*, 12, 10, e058666, 2022

7 Tanaka, Ippei, Kutsuna, Satoshi, Ohkusu, Misako, Kato, Tomoyuki, Miyashita, Mari, Moriya, Ataru, & Ohkusu, Kiyofumi., Bacillus subtilis variant natto Bacteremia of Gastrointestinal Origin, *Japan. Emerging Infectious Diseases*, 28, 8, 1718, 2022

8 Hiroi, Yukio, Ohtsu, Hiroshi, Uemura, Yukari, Hayakawa, Kayoko, Asai, Yusuke, Kutsuna, Satoshi, . . . Ohmagari, Norio., Cardiovascular complications of hospitalized patients with coronavirus disease 2019 in a Japanese registry in 2020., *Circulation Journal*, 86, 3, 464, 471, 2022

9 Kawashima, Akira, Kutsuna, Satoshi, Shimomura, Akira, Suzuki, Tetsuya, Nakamoto, Takato, Ando, Honami, . . . Ohmagari, Norio., Catheter-related bloodstream infection caused by *Tsukamurella ocularis*: A case report., *Journal of Infection and Chemotherapy*, 28, 3, 434, 436, 2022

10 Nakatani, Natsuki, Miyazaki, Ryoichi, Nagata, Yasutoshi, Nozato, Toshihiro, Ashikaga, Takashi, & Kutsuna, Satoshi., Cervical Spine Osteomyelitis Caused by *Campylobacter jejuni* Without Gastrointestinal Symptoms., *The American Journal of Medicine*, 135, 1, e9, e10, 2022

11 Komaki-Yasuda, Kanako, Kutsuna, Satoshi, Kawaguchi, Miki, Kamei, Mina, Uchihashi, Kinya, Nakamura, Keiji, . . . Kano, Shigeyuki., Clinical performance testing of the automated haematology analyzer XN-31 prototype using whole blood samples from patients with imported malaria in Japan., *Malaria Journal*, 21, 1, 1, 13, 2022

12 Tomidokoro, Daiki, Asai, Yusuke, Hayakawa, Kayoko, Kutsuna, Satoshi, Terada, Mari, Sugiura, Wataru, . . . Hiroi, Yukio., Comparison of the clinical characteristics and outcomes of Japanese patients with COVID-19 treated in primary, secondary, and tertiary care facilities., *Journal of Infection and Chemotherapy*, 29, 3, 302, 308, 2023

13 Suzuki, Tetsuya, Morioka, Shinichiro, Kikuchi, Tatsuya, Sato, Lubna, Nomoto, Hidetoshi, Yamamoto, Kei, . . . Ohmagari, Norio., Case Report: Leptospirosis by Wild Rat Bite in Winter in Tokyo Metropolitan Area, Japan., *The American journal of tropical medicine and hygiene*, 107, 1, 100, 101, 2022

14 Yamamoto, Kei, Asai, Yusuke, Nakatani, Issaku, Hayashi, Kenichi, Nakagawa, Hidenori, Shinohara, Koh, . . . Shimono, Nobuyuki., Characteristics and potential quality indicators for evaluating pre-travel consultations in Japan hospitals: the Japan Pretravel consultation registry (J-PRECOR). *Tropical Diseases, Travel Medicine and Vaccines*, 8, 1, 1, 11, 2022

15 Yoshioka N, Deguchi M, Hagiya H, Kagita M, Tsukamoto H, Takao M, Yoshida H, Hamaguchi S, Maeda I, Hidaka Y, Tomono K., Comparison of extraction-based and elution-based polymerase chain reaction testing, and automated and rapid antigen testing for the diagnosis of severe acute respiratory syndrome coronavirus 2, *J Med Virol.*, 94, 7, 3155, 3159, 2022

16 Nomoto, Hidetoshi, Ishikane, Masahiro, Nakamoto, Takato, Ohta, Masayuki, Morioka, Shinichiro, Yamamoto, Kei, . . . Ohmagari, Norio., Conjunctivitis, the key clinical characteristic of adult rubella in Japan during two large outbreaks, 2012-2013 and 2018-2019 (vol 15, e0231966, 2020)., *PLOS ONE*, 17, 8

17 Kutsuna, Satoshi., COVID-19 clinical picture in the elderly., *Geriatric Medicine*, 95, 101, 2022

18 Kutsuna, Satoshi, Ohbe, Hiroyuki, Matsui, Hiroki, & Yasunaga, Hideo., Delayed Tetracycline Initiation Increases Mortality Risk in Patients With Japanese Spotted Fever: Retrospective Analysis Using a National Inpatient Database., *Paper presented at the Open Forum Infectious Diseases*, 2022

19 Suzuki, Tetsuya, Asai, Yusuke, Ide, Satoshi, Fukuda, Saori, Tanaka, Akihiro, Shimanishi, Yumiko, . . . Sato, Mitsuhiro., Factors associated with high antibody titer following coronavirus disease among 581 convalescent plasma donors: A single-center cross-sectional study in Japan., *Journal of Infection and Chemotherapy*, 28, 2, 206, 210, 2022

20 Nomoto, Hidetoshi, Ishikane, Masahiro, Gu, Yoshiaki, Yamamoto, Ryosuke, Osawa, Ryosuke, Hosokawa, Naoto, . . . Sekiya, Noritaka., Nationwide Descriptive Epidemiological Study of Patients with COVID-19 Evacuated from Wuhan, China to Japan from January to February, 2020., *Japanese Journal of Infectious Diseases*, 76, 1, 20, 26, 2020

21 Saito, Sho, Thao, Pham Thi Ngoc, Ishikane, Masahiro, Xuan, Phan Thi, Kutsuna, Satoshi, Dai, Huynh Quang, . . . Shimada, Yasuyuki., Physical oral care prevents ventilator-associated pneumonia in Vietnam: A prospective interventional study., *Journal of Infection and Chemotherapy*, 28, 12, 1632, 1638, 2022

22 Kawashima, Akira, Kutsuna, Satoshi, Shimomura, Akira, Sato, Lubna, Ando, Honami, Tanikawa, Tsutomu, . . . Ohmagari, Norio., *Streptobacillus notomytis* Bacteremia after Exposure to Rat Feces., *Emerging Infectious Diseases*, 28, 4, 886, 2022

23 Matsushita, Yumi, Yokoyama, Tetsuji, Hayakawa, Kayoko, Matsunaga, Nobuaki, Ohtsu, Hiroshi, Saito, Sho, . . . Kutsuna, Satoshi., We should pay more attention to sex differences to predict the risk of severe COVID-19: men have the same risk of worse prognosis as women more than 10 years older., *Journal of epidemiology*, 33, 1, 38, 44, 2023

24 Okamoto, Kana, Harada, Taku, Kosaka, Shintaro, & Kutsuna, Satoshi., Deprescribing antacids after the diagnosis of *Clostridioides difficile* infection: A single-center observational study., *Journal of Infection and Chemotherapy*, 29, 2, 232, 234, 2023

25	Kutsuna, Satoshi, Ohbe, Hiroyuki, Matsui, Hiroki, & Yasunaga, Hideo., Effectiveness of fluoroquinolone antimicrobials in addition to tetracyclines for Japanese spotted fever: A retrospective analysis using a national inpatient database., <i>International Journal of Infectious Diseases</i> , 123, 70, 75, 2022
26	Morioka, S, Tsuzuki, S, Maruki, T, Terada, M, Miyazato, Y, Kutsuna, S, . . . Sanada, M., Epidemiology of post-COVID conditions beyond 1 year: a cross-sectional study., <i>Public Health</i> , 216, 39, 44, 2023
27	Isaka Y, Yoshiya T, Ono C, Uchiyama A, Hirata H, Hamaguchi S, Kutsuna S, Takabatake Y, Saita R, Yamada T, Takahashi A, Yamato M, Nohara Y, Tsuda S, Anzai I, Kimura T, Takeda Y, Tomono K, Matsuura Y., Establishment and clinical application of SARS-CoV-2 catch column., <i>Clin Exp Nephrol</i> , 7, 1, 9, 2022
28	Ishikane, Masahiro, Unoki-Kubota, Hiroyuki, Moriya, Ataru, Kutsuna, Satoshi, Ando, Honami, Kaburagi, Yasushi, . . . Ohmagari, Norio., Evaluation of the QIAstat-Dx Respiratory SARS-CoV-2 panel, a rapid multiplex PCR method for the diagnosis of COVID-19., <i>Journal of Infection and Chemotherapy</i> , 28, 6, 729, 734, 2022
29	Miyazato, Yusuke, Tsuzuki, Shinya, Morioka, Shinichiro, Terada, Mari, Kutsuna, Satoshi, Saito, Sho, . . . Akashi, Masako., Factors associated with development and persistence of post-COVID conditions: A cross-sectional study., <i>Journal of Infection and Chemotherapy</i> , 28, 9, 1242, 1248, 2022
30	Morioka, Shinichiro, Tan, Ban Hock, Kikuchi, Hiroe, Asai, Yusuke, Suzuki, Tetsuya, Ashida, Shinobu, . . . Tan, Thuan Tong., Factors associated with prolonged psychological distress among nurses and physicians engaged in COVID-19 patient care in Singapore and Japan., <i>Frontiers in Psychiatry</i> , 13, 2022
31	Nomoto, Hidetoshi, Asai, Yusuke, Hayakawa, Kayoko, Matsunaga, Nobuaki, Kutsuna, Satoshi, Kodama, Eiichi N, & Ohmagari, Norio., Impact of the COVID-19 pandemic on racial and ethnic minorities in Japan., <i>Epidemiology & Infection</i> , 150, e202
32	Ando, Naokatsu, Kutsuna, Satoshi, Takaya, Saho, Katanami, Yuichi, & Ohmagari, Norio., Imported African Tick Bite Fever in Japan: A Literature Review and Report of Three Cases., <i>Internal Medicine</i> , 61, 7, 1093, 1098, 2022
33	Hayama, Hiromasa, Ide, Satoshi, Kitami, Yui, Hara, Hisao, Kutsuna, Satoshi, & Hiroi, Yukio., Interleukin-6 is upregulated and may be associated with myocardial injury in some patients who have recovered from COVID-19., <i>Global health & medicine</i> , 4, 1, 61, 63, 2022
34	Ueno, Mikako, Iwata-Yoshikawa, Naoko, Matsunaga, Akihiro, Okamura, Tadashi, Saito, Sho, Ashida, Shinobu, . . . Yaoita, Yuu., Isolation of human monoclonal antibodies with neutralizing activity to a broad spectrum of SARS-CoV-2 viruses including the Omicron variants., <i>Antiviral Research</i> , 201, 105297, 2022
35	Tsuchiya, Kiyoto, Maeda, Kenji, Matsuda, Kouki, Takamatsu, Yuki, Kinoshita, Noriko, Kutsuna, Satoshi, . . . Oka, Shinichi., Neutralization activity of IgG antibody in COVID-19-convalescent plasma against SARS-CoV-2 variants., <i>Scientific Reports</i> , 13, 1, 1263, 2023
36	Nakagami H, Hayashi H, Sun J, Yanagida Y, Otera T, Nakagami F, Hamaguchi S, Yoshida H, Okuno H, Yoshida S, Nakamaru R, Yokoyama S, Fujimoto T, Hongyo K, Akeda Y, Morishita R, Tomono K, Rakugi H., Phase I Study to Assess the Safety and Immunogenicity of an Intradermal COVID-19 DNA Vaccine Administered Using a Pyro-Drive Jet Injector in Healthy Adults, <i>Vaccines (Basel)</i> , 10, 9, 1427, 2022

37	Inada, Makoto, Togano, Tomiteru, Terada, Mari, Shiratori, Katsuyuki, Tsuzuki, Shinya, Takamatsu, Yuki, . . . Kutsuna, Satoshi., Preserved SARS-CoV-2 neutralizing IgG activity of in-house manufactured COVID-19 convalescent plasma., <i>Transfusion and Apheresis Science</i> , 103638, 2022
38	Inoue, Kenji, Kobayashi, Seiichi, Sato, Keigo, Kanno, Hitoshi, Kantou, Rina, Naganuma, Yuka, . . . Yanai, Masaru., Regional antimicrobial stewardship program in a provincial medical zone in Japan: A multifaceted approach., <i>Japanese Journal of Infectious Diseases</i> , 75, 4, 347, 354, 2022
39	Aoi Yogo, Shougen Sumiyoshi, Kazuaki Aoki, Hirofumi Motobayashi, Kentaro Tochtani, Shungo Yamamoto, Tsunehiro Shimizu, Report of HKU-1 coronavirus nosocomial cluster in a city hospital in Japan during the coronavirus disease 2019 (COVID-19) pandemic., <i>Antimicrobial stewardship & healthcare epidemiology</i> , 3, 1, e18, 2023
40	Noguchi T, Tachibana K, Inoue T, Sakai T, Tsujikawa K, Fujio Y, Yamagishi Y, Hamaguchi S, Kutsuna S, Kondoh M., Safety evaluation of MA-T after ingestion in mice., <i>Toxicology</i> , 477, 153254, 2022
41	Kutsuna, Satoshi, Saito, Sho, Takamatsu, Yuki, Terada, Mari, Togano, Tomiteru, Kinoshita, Noriko, . . . Matsubayashi, Keiji., Safety of convalescent plasma therapy for COVID-19 patients and analysis of viral kinetics: a single-center, open-label, single-arm, interventional study in Japan., <i>GHM Open</i> , 2, 1, 38, 43, 2022
42	Matsushita, Yumi, Yokoyama, Tetsuji, Hayakawa, Kayoko, Matsunaga, Nobuaki, Ohtsu, Hiroshi, Saito, Sho, . . . Kutsuna, Satoshi., Smoking and severe illness in hospitalized COVID-19 patients in Japan., <i>International Journal of Epidemiology</i> , 51, 4, 1078, 1087, 2022
43	Kutsuna, Satoshi, Ohbe, Hiroyuki, Matsui, Hiroki, & Yasunaga, Hideo., Steroid pulse therapy for severe fever with thrombocytopenia syndrome patients may not improve prognosis: Retrospective analysis with overlap weighting using a national inpatient database., <i>Journal of Infection and Chemotherapy</i> , 2023
44	Takahata, Hanako, Onishi, Kazunari, Nomoto, Hidetoshi, Iwamoto, Noriko, Hayashi, Kuniyoshi, Hori, Narumi, . . . Ohmagari, Norio., Surveillance and risk assessment of health screening for vaccine-preventable diseases among international students in Japan: A cross-sectional study in 2020., <i>Human Vaccines & Immunotherapeutics</i> , 18, 6, 2136914, 2022
45	Kazuaki Aoki, Shungo Yamamoto, Kentaro Tochtani, Transient Large-vessel Vasculitis after Covid-19 mRNA Vaccination., <i>Internal medicine (Tokyo, Japan)</i> , 61, 13, 2083, 2084, 2022
46	Aoi Yogo, Shungo Yamamoto, Shougen Sumiyoshi, Nobuki Iwamoto, Kazuaki Aoki, Hirofumi Motobayashi, Kentaro Tochtani, Tsunehiro Shimizu, Takaya Murashima, Nobuyuki Nishikawa, Takehiko Segawa, Two cases of pyelonephritis with bacteremia by Staphylococcus epidermidis in male patients with nephrolithiasis: Case reports and a literature review., <i>Journal of infection and chemotherapy</i> , 28, 8, 1189, 1192, 2022
47	佐田 竜一, 当院における COVID-19入院患者診療の実態報告 (会議録), <i>天理医学紀要</i> , 25, 1~2, 133, 2022
48	山本 剛, 臨床と微生物 Pneumocystis jirovecii, 近代出版, 3, 2022

[企画室等]

1	Natsuki Shichinohe, Daisuke Kobayashi, Ayaka Izumi, Kazuya Hatanaka, Rio Fujita, Taroh Kinoshita, Norimitsu Inoue, Naoya Hamaue, Keiji Wada, Yoshiko Murakami, Sequential hydrolysis of FAD by ecto-5' nucleotidase CD73 and alkaline phosphatase is required for uptake of vitamin B2 into cells., <i>The Journal of biological chemistry</i> , 298, 12, 102640, 2022
2	Tetsuya Hirata, Jing Yang, Seita Tomida, Yuko Tokoro, Taroh Kinoshita, Morihisa Fujita, Yasuhiko Kizuka, ER entry pathway and glycosylation of GPI-anchored proteins are determined by N-terminal signal sequence and C-terminal GPI-attachment sequence., <i>The Journal of biological chemistry</i> , 298, 10, 102444, 2022
3	Smrithi Salian, Xin-Yu Guo, Yoshiko Murakami, Taroh Kinoshita, Parneet Kaur, Anju Shukla, Katta M Girisha, Morihisa Fujita, Philippe M Campeau, C18orf32 loss-of-function is associated with a neurodevelopmental disorder with hypotonia and contractures., <i>Human genetics</i> , 141, 8, 1423, 1429, 2022
4	Mizuki Ishida, Yuta Maki, Akinori Ninomiya, Yoko Takada, Philippe Campeau, Taroh Kinoshita, Yoshiko Murakami, Ethanolamine-phosphate on the second mannose is a preferential bridge for some GPI-anchored proteins., <i>EMBO reports</i> , 23, 7, e54352, 2022
5	Ryoko Kuwayama, Keiichiro Suzuki, Jun Nakamura, Emi Aizawa, Yoshichika Yoshioka, Masahito Ikawa, Shin Nabatame, Ken-ichi Inoue, Yoshiari Shimmyo, Keiichi Ozono, Taroh Kinoshita, Yoshiko Murakami, Establishment of mouse model of inherited PIGO deficiency and therapeutic potential of AAV-based gene therapy., <i>Nature communications</i> , 13, 1, 3107, 3107, 2022

6	Yicheng Wang, Anant K Menon, Yuta Maki, Yi-Shi Liu, Yugo Iwasaki, Morihisa Fujita, Paula A Guerrero, Daniel Varó'n Silva, Peter H Seeberger, Yoshiko Murakami, Taroh Kinoshita, Genome-wide CRISPR screen reveals CLPTM1L as a lipid scramblase required for efficient glycosylphosphatidylinositol biosynthesis., <i>Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America</i> , 119, 14, e2115083119, 2022
7	Fujii S, Ishibashi T, Kokura M, Fujimoto T, Matsumoto S, Shidara S, Kurppa KJ, Pape J, Caton J, Morgan PR, Heikinheimo K, Kikuchi A, Jimi E, Kiyoshima T., RAF1-MEK/ERK pathway-dependent ARL4C expression promotes ameloblastoma cell proliferation and osteoclast formation, <i>J. Pathol.</i> , 256, 1, 119, 133, 2022
8	Iguchi K, Sada R, Matsumoto S, Kimura H, Zen Y, Akita M, Gon H, Fukumoto T, Kikuchi A., The DKK1-CKAP4 signal axis promotes hepatocellular carcinoma aggressiveness., <i>Cancer Sci.</i> doi: 10.1111/cas.15743., 2023
9	Nagoya A, Sada R, Kimura H, Yamamoto H, Morishita K, Miyoshi E, Morii E, Shintani Y, and Kikuchi A., CKAP4 is a potential exosomal biomarker and a therapeutic target for lung cancer., <i>Trans. Lung Cancer Res.</i> 2023, doi: 10.21037/tlcr-22-571

プレプリント

[科学情報・公共政策部門]

1	高久 玲音、田原 健吾、北爪 匡、田淵 貴大、大竹 文雄、平均的な外出のコロナ感染リスクは限定的—私権制限やめ平時の体制へ移行を、 <i>JCER DISCUSSION PAPER</i> , No.156, 2022
2	北村 周平, コロナ関連3政策の効果検証, <i>Osaka University CiDER Policy Discussion Paper</i> , PDP001, 2023
3	Hiroki Kato, Shusaku Sasaki, Fumio Ohtake, Mailing Vouchers: A Regression Discontinuity Analysis on Rubella Antibody Testing and Vaccination, <i>Osaka University CiDER Discussion Paper</i> , DP004, 2022
4	Hiroki Kato, Shusaku Sasaki, Fumio Ohtake, Adding Nudge-based Reminders to Monetary Incentives for Promoting Rubella Antibody Testing and Vaccination, <i>Osaka University CiDER Discussion Paper</i> , DP003, 2022
5	Shinsuke Asakawa, Fumio Ohtake, Impact of COVID-19 School Closures on the Cognitive and Non-cognitive Skills of Elementary School Students, <i>RIETI Discussion Paper Series</i> , 22-E-075, 2022
6	Shusaku Sasaki, Hirofumi Kurokawa, Vaccination and Discrimination: Experimental Evidence under the COVID-19 Pandemic, <i>Osaka University CiDER Discussion Paper</i> , DP001, 2022
7	佐々木 周作, 黒川 博文, 新型コロナウイルス・ワクチンの接種者と未接種者による独裁者ゲーム実験, 国立研究開発法人科学技術振興機構, <i>Jxiv Preprint</i> , 76, 1, 2022.5
8	佐々木 周作, 中山 一世, 齋藤 智也, 大竹 文雄, 新型コロナウイルス・ワクチン接種の「意向・行動の不一致」: 意向の把握方法の工夫で一一致率は高められるか?, <i>Osaka University CiDER Policy Discussion Paper</i> , PDP002, 2023
9	Mao YAGIHASHI, Kei HIRAI, Asako MIURA, COVID-19 Vaccine Acceptance among Parents in Japan, <i>Osaka University CiDER Discussion Paper</i> , DP002, 2022

10	Masaya M. Saito, Kotoe Katayama, Akira Naruse, Peiyang Ruan, Michio Murakami, Tomoaki Okuda, Tetsuo Ysutaka, Wataru Naito, Masaharu Tsubokura, Seiya Imoto, Effects of inbound attendees of a mass gathering event on the COVID-19 epidemic using individual-based simulations, 2022.8, <i>medRxiv</i> , doi: https://doi.org/10.1101/2022.08.31.22279428 .
11	Michio Murakami, Hitoshi Sato, Tomoko Irie, Masashi Kamo, Wataru Naito, Tetsuo Yasutaka, Seiya Imoto, Sensitivity of rapid antigen tests for COVID-19 during the Omicron variant outbreak, 2022.6, <i>medRxiv</i> , doi: 10.1101/2022.06.13.22276325.
12	Ryo Iwamoto, Kiyoshi Yamaguchi, Chisato Arakawa, Hiroki Ando, Eiji Haramoto, Ken-ichi Setsukinai, Kotoe Katayama, Takuya Yamagishi, Sumire Sorano, Michio Murakami, Shigeru Kyuwa, Hiroyuki Kobayashi, Satoshi Okabe, Seiya Imoto, Masaaki Kitajima, The detectability and removal efficiency of SARS-CoV-2 in a large-scale septic tank of a COVID-19 quarantine facility in Japan, 2022.5, <i>SSRN</i> , http://ssrn.com/abstract=4110028
13	Michio Murakami, Shuhei Nomura, Annual prevalence of non-communicable diseases and identification of vulnerable populations following the Fukushima disaster and COVID-19 pandemic, 2022.5, <i>medRxiv</i> , doi: 10.1101/2022.05.18.22275293.
14	Shuhei Nomura, Akifumi Eguchi, Daisuke Yoneoka, Michio Murakami, Cyrus Ghaznavi, Stuart Gilmour, Satoshi Kaneko, Takayuki Kawashima, Hiroyuki Kunishima, Wataru Naito, Haruka Sakamoto, Keiko Maruyama-Sakurai, Arata Takahashi, Yoshihiro Takayama, Yuta Tanoue, Tetsuo Yasutaka, Yoshiko Yamamoto, Hiroaki Miyata, Characterising reasons for reversals of COVID-19 vaccination hesitancy among Japanese people: one-year follow-up survey, 2022.4, <i>SSRN</i> , https://ssrn.com/abstract=4083735

15 Moe Kawashima, Toyooki Sawano, Michio Murakami, Nobuaki Moriyama, Yuna Uchi, Kenmei Kitazawa, Saori Nonaka, Naomi Ito, Hiroaki Saito, Toshiaki Abe, Mamoru Sakakibara, Kazuko Yagiuchi, Mako Otsuki, Arinobu Hori, Akihiko Ozaki, Chika Yamamoto, Tianchen Zhao, Taiga Uchiyama, Tomoyoshi Oikawa, Shinichi Niwa, Masaharu Tsubokura: Association between the deaths indirectly caused by the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident (disaster-related deaths) and pre-disaster long-term care certificated level; a retrospective observational analysis, 2023.3. SSRN, <https://ssrn.com/abstract=4378009>

16 Michio Murakami, Kyoko Ono, Yoshitake Takebayashi, Masaharu Tsubokura, Shuhei Nomura: Comparing the risks of environmental carcinogenic chemicals in Japan using the loss of happy life expectancy indicator, 2023.3. medRxiv. doi: 10.1101/2023.02.27.23286547.

17 保高 徹生, 藤田 司, 内藤 航, 大西 正輝, 村上 道夫, 井元 清哉, 奥田 知明: 卒業式や入学式等における新型コロナウイルスの感染リスク評価, 2023.3. Jxiv. doi: 10.51094/jxiv.342.

18 Ide K. Comment on "How COVID-19 Affected the Journal Impact Factor of High Impact Medical Journals: Bibliometric Analysis"., 2022.12, JMIR Preprints.

[人材育成部門]

1 Hirofumi Miyake, Ryuichi Minoda Sada, Yukio Tsugihashi, Kazuhiro Hatta. Single-centre, cross-sectional study on the factors and reasons for non-vaccination among patients with rheumatoid arthritis, Oxdord academic, 2023 Jan 25, Modern Rheumatology

2 Hirofumi Miyake, Ryuichi Minoda Sada, Yukio Tsugihashi, Kazuhiro Hatta, Factors and Reasons for Non-vaccination among Patients with Systemic Lupus Erythematosus: A Single-centre, Cross-sectional Study, the Japanese Society of Internal Medicine, 2022 Dec 28, Internal Medicine

国際会議

[科学情報・公共政策部門]

1 Shusaku Sasaki. Vaccination and Discrimination: Experimental Evidence under the COVID-19 Pandemic, Association of Behavioral Economics and Finance 16th Conference, 2022.12

2 Yasuhiko Murakami, Levinas and a World without Crevices -- Child Support in Poor Areas, LEVINAS IN KAUNAS (Societe internationale de la Recherche Levinassienne), 2022.7.7

3 Yasuhiko Murakami, Levinas et le monde sans failles : l'exemple du soutien aux enfants des quartiers pauvres., COLLOQUE DE CERISY. LEVINAS ET MERLEAU-PONTY, LE CORPS ET LE MONDE, 2022.7.9

4 Yasuhiko Murakami, Recherche qualitative phénoménologique des « young carers » - une étude de la phénoménologie du réel, 3e colloque de psychopathologie phénoménologique, 2022.9.22

5 Kei Hirai, Segmentation of the general public according to their health belief and literacy about radiation, The 7th International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science, 2023.2.20

6 Elli Sugita. Menstrual Wellbeing by/in Social Design: Co-creating the "MeW Dispenser" to provide free sanitary products in Japan, Sustainability Research & Innovation Congress 2022 "Co-creating Future Sanitation with Local Communities", 2022.6.20

7 Elli Sugita, Global MHM Movement and Menstrual Education Discourse, Diversifying Menstrual Hygiene Management Education in Uganda, 2022.9.2

8 Elli Sugita, Walls Standing in the Way of Menstrual Equity: A Case Study from Japan and its implications for Japan and Africa, Sexuality in Contemporary Africa: Tradition, Education and Practices (TUFiSCO-ILCAA International Symposium), 2023.1.29

9 Yoichi Ikeda, ppK⁺ and ppK⁻: theoretical and experimental overview, International meeting on Alice Femtoscopy 2022, 2022(8/31-9/2)

10 A. Goto, A. Lloyd Williams, S. Okakbe, M. Murakami, M. Machida, C. Koriyama, K. E. Nollet, Going beyond radiation anxiety and country borders: applying health literacy in the field after the Fukushima nuclear accident, ICRP2021+1, 2022.11

[感染症・生体防御研究部門]

1 James Wing, Regulatory T-cells are central hubs for age-, sex- and severity-associated cellular networks during COVID-19, 2nd joint Osaka University - University College London International Symposium, 2022.5

2 James Wing, A sex biased imbalance of T-follicular regulatory (Tfr) cells, T-peripheral helper (Tph) cells and extrafollicular B-cells correlates with antibody responses in COVID-19 patients, The 20th Awaji International Forum on Infection and Immunity, 2022.9

3 Shuhei Taguwa, Hao Shao, Rahmi Deanty, Chikako Ono, Jason Gestwicki, Yoshiaru Matsuura. A campaign targeting a conserved Hsp70 binding site uncovers how subcellular localization is linked to distinct biological activities, HCV 2022, 2022.7

4 Shuhei Taguwa, Hao Shao, Rahmi Deanty, Chikako Ono, Jason Gestwicki, Yoshiaru Matsuura. A campaign targeting a conserved Hsp70 binding site uncovers subcellular localization is linked to distinct biological activities, American society of virology 2022, 2022.7

5 Shinji Kusakabe, Shinsuke Toba, Masaaki Izawa, Yuki Maruyama, Kentaro Uemura, Akihiko Sato, Takao Shishido, Michihito Sasaki, Yasuko orba, Hirofumi Sawa, Cyclophosphamide treatment leads to lethal SARS-CoV-2 infection in mice through neutrophil-dominant immune dysregulation, American society of virology 2022, 2022.7

6 Yoshiharu Matsuura, Mitigation and Preparedness for Acute Hepatitis of Unknown Aetiology (AHUA), The 97th Airlangga Webinar Conference Series 1st Clinical Microbiology and Infectious Diseases Updates, 2022.5

7 Keiji Itaka, mRNA as a new drug modality., International Symposium on Microbiology and Immunology: The 12th International Symposium of IFRc, 2023.2

8 Keiji Itaka, mRNA medicines for treatment of various diseases, TIDES Asia 2023, 2023.3

[企画室等]

1 Matasumoto S, Harada A, Kikuchi A., GREB1 drives HNF4a-dependent oncogenic transcription and tumor growth in Wnt signal-activated hepatocellular carcinoma., EMBO Workshop Wnt2022, 2022.11

2 Harada A, Harada T, Yasumizu Y, Kikuchi A, Wnt5a regulates cellular state of specific subtype of fibroblast and accelerates tumor progression., EMBO Workshop Wnt2022, 2022.11

3 Kikuchi A (Organizer), Celebration on 40th anniversary of Wnt research, EMBO Workshop Wnt2022, 2022.11

国内学会

[科学情報・公共政策部門]

1 佐々木 周作, Vaccination and Discrimination: Experimental Evidence under the COVID-19 Pandemic, 日本経済学会・2022年秋季大会, 2022.1

2 佐々木 周作, How Opt-in Works?: A Field Experiment on Financial Incentives for Physical Activity, 医療経済学会・第17回研究大会, 2022.9

3 平井 啓, 加藤 舞, 八木橋 真央, 山村 麻予, 三浦 麻子, 新型コロナウイルス感染症のヘルスリテラシーとワクチン3回目接種経験・意向との関連, 第29回日本行動医学会学術総会, 2022.121

4 村山 綾, 三浦 麻子, 北村 英哉, 新型コロナウイルス感染禍とシステム正当化, 日本社会心理学会第63回大会, 2022.9

5 平石 界, 三浦 麻子, 中西 大輔, Andrea Ortolani, 山縣 芽生, 三船 恒裕, 李 楊, Covid-19パンデミック下での行動免疫と内外集団への態度 日本、中国、米国、英国、伊国での3年間の Web 調査から, 日本社会心理学会第63回大会, 2022.9

6 山縣 芽生, 寺口 司, 三浦 麻子, 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大の脅威に伴う感染予防行動と外国人への排斥的態度の変化(3) 2020年1月から2022年3月の18波パネル調査に基づく検討, 日本社会心理学会第63回大会, 2022.9

7 森 津太子, 進藤 聡彦, 高橋 秀明, 向田 久美子, 三浦 麻子, コロナ禍の心理学教育に関する調査, 日本心理学会第86回大会, 2022.9

8 平井 啓, 山村 麻予, 加藤 舞, 八木橋 真央, 三浦 麻子, 新型コロナウイルス感染症のヘルスリテラシーとワクチン接種意向との関連, 日本心理学会第86回大会, 2022.9

9 橋見 孝, 西川 一二, 三浦 麻子, 2021年衆院選における熟慮的・直観的投票行動, 日本心理学会第86回大会, 2022.9

10 佐々木 緩乃, 杉田 映理, 友川 幸, 行動変容の視点を取り入れた手洗い啓発に関するESD教材の開発, 長野体育学会第57回大会, 2022年3月(昨年度報告以降)

11 杉田 映理, 小塩 若菜, 小笠原 理恵, 三浦 遥, 熊野 海音, 原 聡美, 小林 真実, 山本ベバリーアン, 山中浩司, 学校保健から見た学校トイレ内における生理用品無償提供の意味とは—アクションリサーチからの考察—, 日本学校保健学会第68回学術大会, 2022.11

12 小笠原 理恵, 杉田 映理, 渋谷 文子, 小塩 若菜, Bhimsen Devkota, Kethsana Kanyasan, Anouthay Souvanhdouane, Sudha Ghimire, Kongsy Chounlamany, Monekham Davankham, 三宅 公洋, 國土 将平, 友川 幸, 日本型保健教育の途上国での応用可能性とその課題: 教員養成機関における包括的性教育に関する教材開発, 国際保健医療学会第37回学術大会, 2022.11

13 佐々木 緩乃, 杉田 映理, 友川 幸, 上野 真理恵, Bhimsen Devkota, Kethsana Kanyasan, Bhimsen Devkota, Souknyaly Thoumma, Sithane Soukhavong, Chanthala Xaphakdy, 三宅 公洋, 國土 将平, 日本型の保健教育の途上国での応用可能性と課題: 教員養成機関における手洗い啓発活動を企画する教材の開発, 国際保健医療学会第37回学術大会, 2022.11

14 八木橋 真央, 大滝 涼子, 佐久間 篤, 村上 道夫, 新型コロナウイルス感染症流行下における心理支援 - A Scoping Review, 第41回日本社会精神医学会ポスター発表, 神戸, 2023.03.16-17.

15 池田 陽一, Hadron interactions with strange quarks from lattice QCD, 東北大学 GP-PU セミナー(大学院講義・英語), 2022.11

16 佐々木 健志, 物理点格子QCDによるストレンジネスS=-2のバリオン間相互作用, 「高岳で加速する素粒子・原子核・宇宙・惑星」シンポジウム, 2022.12

17 森越 彩楓, 丹羽 了, 鷹見 峻希, 重中 秀介, 大西 正輝, 伊藤 貴之, 村上 道夫, 保高 徹生, イベント会場における歩行者情報を考慮した感染リスク評価手法, 第85回情報処理学会全国大会, 2023.3

18 八木橋 真央, 大滝 涼子, 佐久間 篤, 平井 啓, 村上 道夫, 新型コロナウイルス感染症流行下における心理支援の実態と試み, 第41回日本社会精神医学会, 2023.3

19 安藤 宏紀, 村上 道夫, 岩本 遼, 岡部 聡, 北島 正章, 下水中 SARS-CoV-2の高感度検出技術と数理モデルを組み合わせた感染動向の早期把握, 第57回日本水環境学会年会(2022年度), 2023.3

20 森越 彩楓, 丹羽 了, 鷹見 峻希, 重中 秀介, 大西 正輝, 伊藤 貴之, 村上 道夫, 保高 徹生, 歩行者シミュレーションを用いたイベント会場での感染リスク評価, 第35回日本リスク学会年次大会, 2022.11

21 齋藤 宏章, 小野 恭子, 村上 道夫, 坪倉 正治, 東日本大震災後の主要疾患による損失余命の変化: 南相馬市、相馬市における縦断的解析から福島県全体の地域別解析, 第35回日本リスク学会年次大会, 2022.11

22 大森 一徹, 尾崎 章彦, 齋藤 宏章, 金田 侑大, 澤野 豊明, 西川 佳孝, 村上 道夫, 坪倉 正治, 平井 啓, 大平 広道, 東日本大震災と福島第一原発事故後の福島県南相馬市における乳がん検診受診率の長期推移: 後方視的観察研究, 第19回福島乳癌研究会, 2022.1

23 保高 徹生, 高田 モモ, 大沼 進, 村上 道夫, 県外最終処分に関する社会受容性と合意形成プロセスに関する課題と研究, 第11回環境放射線除染学会研究発表会, 2022.8

24 村上 道夫, 尾崎 章彦, 小野 恭子, 野村 周平, 竹林 由武, 坪倉 正治, 損失幸福余命を用いた福島災害後の放射線被ばく, 糖尿病, 心理的苦痛のリスク比較, 環境科学学会2022年年会, 2022.9

25 北島 正章, 村上 道夫, 門屋 俊祐, 安藤 宏紀, 山口 貴世志, 岩本 遼, 黒板 智博, 岡部 聡, 片山浩之, 井元 清哉, 東京オリンピック・パラリンピック選手村における COVID-19下水疫学調査の実装, 第25回日本水環境学会シンポジウム, 2022.9

26 北島 正章, 村上 道夫, 岩本 遼, 門屋 俊祐, 安藤 宏紀, 黒板 智博, 片山 浩之, 井元 清哉, 東京オリンピック・パラリンピック選手村における下水からの SARS-CoV-2の検出と報告感染者数との関連, 日本ウイルス学会北海道支部夏季シンポジウム, 2022.7

27 村上 道夫, 科学的データに基づいたコロナ禍における大規模集会開催のあり方, 第70回日本化学療法学会総会, 2022.6

28 井出 和希, 薬学領域における「Predatory Journal」の現状: 書誌データベースを用いた探索的分析, 日本薬学会第143年会., 2022.3

29 井出 和希, 書き留める行為の意味と価値観, 分野横断プラットフォームWS支援事業 大総会., 2023.2

30	井出 和希, 学術誌のオープンアクセス化と課題: 書誌データベースを活用した探索的分析, 第43回日本臨床薬理学会学術集会, 2022.12
31	小泉 志保, 井出 和希, 岡田 浩, Carl Becker, 當山 まゆみ, 西川 佳孝, 高橋 由光, 中山 健夫, 日本医学雑誌の投稿規定における研究公正の記述: ICMJE Recommendations の記載項目を含めた評価, 第2回日本メディカルコミュニケーション学会学術集会(ヘルスコミュニケーションウィーク2022合同開催), 2022.10
32	井出 和希, 学術出版の多様化と社会における情報の取り扱い—新型コロナウイルス感染症にまつわる 実例から考える—, 第45回日本分子生物学会年会(研究倫理ランチョンセミナー), 2022.11

【 感染症・生体防御研究部門 】

1	Jonas Søndergaard, Janyerkye Tulyeu, David Priest, Shimon Sakaguchi, James Wing, Single cell suppression profiling of human regulatory T cells, 第51回日本免疫学会学術集会 (Poster presentation), 2022.12
2	David Priest, Janyerkye Tulyeu, Jonas Søndergaard, Yuki Togami, Yumi Mitsuyama, Takeshi Ebihara, Hisatake Matsumoto, Hiroshi Ogura, James Wing, Deep immune correlates of COVID-19 disease progression and outcome, 第51回日本免疫学会学術集会 (Poster presentation), 2022.12
3	伊勢 渉, 長寿命プラズマ細胞の分化と生存の制御, 第7回日本骨免疫学会 冬期学術集会, 2023.3
4	森 大輝, Composition of the UBASH3A signalosome emphasizes its negative regulatory function in TCR signaling, 第51回日本免疫学会学術集会, 2022.12
5	小池拓矢, Genetic tracing of plasma cells reveals cellular dynamism during entry to long-lived compartment, 第51回日本免疫学会学術集会, 2022.12
6	上村 健太郎, 登 治謙, 佐藤 彰彦, 鳥羽 晋輔, 日下部 伸治, 佐々木 道仁, 田畑 耕史郎, 大場 靖子, 澤 洋文, 松浦 善治, 松田 彰, 前仲 勝実, プラス鎖 RNA ウィルスに対して広域的に抗ウイルス活性を示すヌクレオシドアナログの探索, 日本薬学会第143年会, 2023.3
7	岸本 麻衣, 鳥羽 晋輔, 上村 健太郎, 丸山 優樹, 日下部 伸治, 佐藤 彰彦, 大場 靖子, 澤 洋文, 佐々木 道仁, SARS-CoV-2非構造タンパク質によって規定される COVID-19重症化の分子機構, 第45回日本分子生物学会年会, 2022.12
8	佐々木 道仁, 田畑 耕史郎, 岸本 麻衣, 板倉 友香里, 小林 広子, 有泉 拓馬, 上村 健太郎, 鳥羽 晋輔, 日下部 伸治, 丸山 優樹, 飯田 俊, 中島 典子, 鈴木 忠樹, 吉田 晋平, 登 治謙, 佐名木 孝央, 加藤 輝久, 穴戸 貴雄, William W. Hall, 大場 靖子, 佐藤 彰彦, 澤 洋文, SARS-CoV-2感染ハムスターにおける COVID-19経口治療薬 Ensitelvir の抗ウイルス効果, 第45回日本分子生物学会年会, 2022.12
9	田嶽 修平, Rahmi Dianty, 安齋 樹, 金井 裕太, 成山 満寿, 稲葉 ひかる, 渡邊 登喜子, 小林 剛, 菊地 憲次, 堀田 国元, 吉川 敏一, 松浦 善治, Hypochlorous acid water disintegrates various pathogenic virus particles via protein aggregation., 第45回 日本分子生物学会, 2022.11
10	稲葉 ひかる, 成山 満寿, Rahmi Dianty, 上村 健太郎, 小野 慎子, 田嶽 修平, 松浦 善治, The significance of the chaperone network during the SFTSV lifecycle/ 重症熱性血小板減少症候群ウイルス感染に關する宿主シャペロン群の意義, 第45回日本分子生物学会, 2022.11
11	小野 慎子, 上村 健太郎, 田嶽 修平, 森 寛行, 小比賀 聡, 松浦 善治, Suppression of viral replication by the RNA silencing targeting to the stem-loop structures in the 5'UTR of SARS-CoV-2, 第69回日本ウイルス学会学術集会, 2022.11
12	Rahmi Dianty, Hikaru Inaba, Kenji Kikuchi, Kunimoto Hotta, Toshikazu Yoshikawa, Kentaro Uemura, Hiroyuki Mori, Saya Nakagomi, Chikako Ono, Shuhei Tagawa, and Yoshiharu Matsuura, Elucidating the mechanism of HClO as a broad-spectrum antiviral agent, 第69回日本ウイルス学会学術集会, 2022.11
13	成山 満寿, 稲葉 ひかる, Rahmi Dianty, 上村 健太郎, 森 寛行, 小野 慎子, 田嶽 修平, 松浦 善治, 新型コロナウイルス感染を支持する新規肺がん由来細胞の樹立とその応用, 第69回日本ウイルス学会学術集会, 2022.11

33	井出 和希, 研究の伝え方、伝わり方—学術出版の変遷から考える—, 聖路加国際大学 FDSO 研修会, 2022.8
34	井出 和希, オープンアクセス型学術誌の進展により顕在化する「Predatory Journal」問題—実態、動向、判断の観点—, NISTEP 講演会, 2022.8
35	井出 和希, 学術誌のオープンアクセス化の現状: 書誌データベースを活用した記述的分析, 第24回日本医薬品情報学会総会・学術大会, 2022.7
36	井出 和希, 学術論文の今とこれからを考える, オープンセミナー(分子科学研究所), 2022.5

14	上村 健太郎, 登 治謙, 佐藤 彰彦, 鳥羽 晋輔, 日下部 伸治, 佐々木 道仁, 田畑 耕史郎, 大場 靖子, 澤 洋文, 松浦 善治, 松田 彰, 前仲 勝実, プラス鎖 RNA ウィルスに対して広域的に抗ウイルス活性を示すヌクレオシドアナログの探索, 第69回日本ウイルス学会学術集会, 2022.11
15	佐藤 彰彦, 上村 健太郎, 鳥羽 晋輔, 日下部 伸治, 丸山 優樹, 穴戸 貴雄, 佐々木 道仁, 大場 靖子, 澤 洋文, コロナウイルスを用いた効率の良い薬剤 escape ウィルスの分離法の開発, 第69回日本ウイルス学会学術集会, 2022.11
16	佐々木 道仁, 田畑 耕史郎, 岸本 麻衣, 板倉 友香里, 小林 広子, 有泉 拓馬, 上村 健太郎, 鳥羽 晋輔, 日下部 伸治, 丸山 優樹, 飯田 俊, 中島 典子, 鈴木 忠樹, 吉田 晋平, 登 治謙, 佐名木 孝央, 加藤 輝久, 穴戸 貴雄, William W. Hall, 大場 靖子, 佐藤 彰彦, 澤 洋文, SARS-CoV-2感染ハムスターにおける COVID-19経口治療薬 S-217622の抗ウイルス効果, 第69回日本ウイルス学会学術集会, 2022.11
17	松浦 善治, 新型コロナウイルスと感染症対策の動向, 北海道大学獣医学部同窓会関東支部総会, 2022.1
18	田嶽 修平, Rahmi Dianty, 安齋 樹, 金井 裕太, 成山 満寿, 稲葉 ひかる, 渡邊 登喜子, 小林 剛, 菊地 憲次, 堀田 国元, 吉川 敏一, 松浦 善治, 次亜塩素酸水の抗ウイルス作用機序の解明, 日本機能水学会, 2022.10
19	小野 慎子, 新型コロナウイルスの進化と変異株, 第94回 日本遺伝学会公開市民講座「次々と現れる新型コロナウイルス変異株の進化遺伝学」, 2022.9
20	松浦 善治, ウィルス-人体相互作用ネットワークの理解と制御, 第165回日本獣医学学会学術集会シンポジウム「ヒトと微生物の共生: 第1部微生物との共生」, 2022.9
21	松浦 善治, ウィルスと生きる, 2022年度 機器・分析技術研究会, 2022.9
22	松浦 善治, 次亜塩素酸水の抗ウイルス作用機序の解明, 2022年度 機器・分析技術研究会, 2022.9
23	松浦 善治, 特別講演1「新型コロナウイルスの性状とその制御法」, 静岡県大学研究連携シンポジウム, 2022.8
24	松浦 善治, 特別講演「Defeating the HCV pandemic」Michael Houghton」オーガナイザー, 第58回日本肝臓学会総会, 2022.6
25	松浦 善治, 生物安全実践講習会基盤コース, (公財)ルイ・バストゥール医学研究センター・機能水財団 共同公益事業「生物安全実践講習会」, 2022.6
26	位高 啓史, mRNA 創薬のサイエンス, 日経バイオテク・プロフェッショナルセミナー「mRNA 医薬、次世代の創薬技術を展望する」, 2022.9.27
27	位高 啓史, 新しい創薬モダリティとしての mRNA の可能性, 第9回 Osaka Lung Cancer Cutting Edg, 2022.10.6
28	位高 啓史, mRNA 創薬のサイエンス: 医学・薬学・工学を横断して, 日本解剖学会第78回九州支部学術集会, 2022.10.29
29	位高 啓史, 合成 mRNA を用いた細胞選別システム: 細胞内タンパク質を標的とする機能制御, 第44回日本バイオマテリアル学会大会, 2022.11.22
30	位高 啓史, mRNA 医薬・ワクチンの可能性について, 第26回日本ワクチン学会学術集会, 2022.11.27
31	位高 啓史, いよいよ本格化する mRNA 創薬, ロシュウェビナー「mRNA ワクチンおよび医薬品の現状と今後の展望」, 2022.12.1

32	位高 啓史, mRNA 創薬の現状と未来, 第51回日本免疫学会学術集会, 2022.12.8
33	位高 啓史, mRNA 創薬の現状と今後の課題, 第19回医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラム, 2023.1.17
34	位高 啓史, mRNA 創薬について, 同仁化学研究所 研究学術セミナー, 2023.1.30

【 人材育成部門 】

1	黒田 英介, 新規肺炎球菌ワクチンの研究, 日本薬学会第20回生物化学若手研究者セミナー, 2022.10
2	佐田 竜一, 【うつ病患者診療・徹底討論! 精神科医とプライマリ・ケア医の本音トークで共通理解と架け橋を作る】プライマリ・ケア医のうつ病診療には精神科医のサポートが必要だ(会議録), 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2022.6
3	山本 剛, 微生物検査における診療録の活用方法, 2022年度大阪府臨床検査技師会 微生物検査研修会, 2022.5
4	山本 剛, 基礎から学ぶ微生物検査, 2022年度兵庫県臨床検査技師会 微生物検査研修会, 2022.7
5	山本 剛, 耐性菌検査 Up to Dade 腸内細菌目細菌と結核, 令和4年度 感染症関連四学会合同事業研修会, 2022.8
6	山本 剛, 臨床から学ぶ微生物検査, 2022年度兵庫県臨床検査技師会 微生物検査研修会, 2022.9
7	山本 剛, 「ベースアップ! これは押さえておこう細菌検査」ここがポイント! 臨床検査における塗抹検査の考え方, 令和4年度 日臨技中部圏支部学会 第28回臨床微生物部門研修会, 2022.10
8	山本 剛, 臨床微生物学, 感染管理認定看護師のためのキャリアテベロップメント2022年 HAICS, 2022.10
9	山本 剛, 微生物の基礎知識と最近の話題, 令和4年度 第2回日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師講習会, 2022.11

【 企画室等 】

1	菊池 章, 松本 真司, 新澤 康英, 佐田 遼太, 原田 昭和, GREB1 を介する新規がんシグナル経路は分子標的となる, 第81回 日本癌学会学術総会, 2022.9
2	原田 昭和, 菊池 章, Wnt5a はがん微小環境において線維芽細胞のサブタイプを制御することで腫瘍増殖を促進する, 第81回 日本癌学会学術総会, 2022.9
3	新澤 康英, 松本 真司, 佐田 遼太, 原田 昭和, 種村 篤, 二村 圭祐, 伊川 正人, 曾我 朋義, 菊池 章, 悪性黒色腫における MITF 依存的な GREB1 アイソフォーム4の発現は、ヒリミジン合成を介して細胞増殖を促進する, 第81回 日本癌学会学術総会, 2022.9
4	名越 章裕, 佐田 遼太, 木村 公一, 山本 英樹, 新谷 康, 菊池 章, 肺がんにおける DKK1-CKAP4シグナルと抗 CKAP4抗体の有用性, 第81回 日本癌学会学術総会, 2022.9
5	菊池 章, 松本 真司, 新澤 康英, 原田 昭和, ホルモン非依存性悪性腫瘍における GREB1の発現制御機構, 第45回 日本分子生物学会年会, 2022.11

総説・著書

【 科学情報・公共政策部門 】

1	Shinsuke Asakawa, Fumio Ohtake, A disaster for children: Effects of COVID-19 school closure on primary school students' cognitive and non-cognitive skills in maths, VoxEU, 2022.10.
---	--

35	位高 啓史, mRNA 創薬の新しい展開, 第52 回日本心脈管作動物質学会学術集会, 2023.2.10
36	位高 啓史, mRNA 創薬の新展開, 第7回 生活習慣病とがんの代謝栄養メカニズム研究会, 2023.3.4

10	山本 剛, 院内感染関連微生物とその検査法および国内外の疫学, 令和4年度厚生労働省院内感染対策事業講習会, 2022.11
11	山本 剛, COVID-19 Up date -臨床検査技師の立場から-, 令和4年度日臨技近畿支部医学検査学会(第61回), 2022.12
12	山本 剛, グラム染色を感染症診療支援につかう秘策を教えます, 令和4年度 日臨技北日本支部学会 微生物部門研修会, 2022.12
13	山本 剛, 福岡(フォーチュンビル)まで突っ走れ, 2022年度福岡県臨床検査技師会 臨床微生物部門研修会, 2023.1
14	山本 剛, コロナ禍の耐性菌の変化 ICN が知っておきたい SARS-CoV-2検査の復習とビットフォール, 令和4年度日本感染管理ネットワーク中国支部研修会, 2023.1
15	山本 剛, 非結核性抗酸菌検査におけるモヤモヤを解決! 曖昧さを明らかにしよう~前処理はいつも必要か?~, 第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 2023.2
16	山本 剛, 微生物検査の写真を上手に撮影するコツ教えます 顕微鏡検査写真撮影のコツ説明します, 第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 2023.2
17	山本 剛, 実際に病棟で活躍している検査技師による実例紹介, 第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 2023.2

6	佐田 遼太, 木村 公一, 高田 直季, 山本 英樹, 菊池 章, 藤がん・食道扁平上皮がんにおける DKK1とFOXO1のポジティブフィードバック発現制御を介した腫瘍増殖促進メカニズムの解析, 第45回 日本分子生物学会年会, 2022.11
7	原田 武志, 原田 昭和, 香山 尚子, 佐藤 朗, 菊池 章, AOM/DSS 大腸がんマウスモデルにおいて, Wnt5a は線維芽細胞サブタイプを制御する, 第45回 日本分子生物学会年会, 2022年11月30日-12月2日
8	松本 真司, 原田 昭和, 瀬田 みなみ, 権 英寿, 福本 巧, 菊池 章, GREB1による HNF4α を介した Wnt シグナル活性化型肝細胞がんの増殖制御機構, 第45回 日本分子生物学会年会, 2022.11
9	山本 英樹, 佐田 遼太, 菊池 章, 新規 DKK1 受容体 CKPA4 の細胞内輸送制御, 第95回 日本生化学会大会, 2022.11
10	原田 昭 and, 松本 真司, 菊池 章, GREB1 を軸とした小児固形がん発症シグナルの解明, 第95回 日本生化学会大会, 2022.11

2	大竹 文雄, 社会を見る眼 (85) オンライン会議は創造的な発想を阻害する?, 産政研フォーラム, 134, 25, 2022.6
---	--

3 大竹 文雄, 私がまん延防止等重点措置延長に反対した理由: 社会経済活動より感染対策を重視して私たちが失ったもの, 中央公論, 136, 5, 102, 2022.5

4 Okudaira, Hiroko, Takizawa, Miho, Ohtake, Fumio, Kotaro Tsuru, How do Firms Respond to an Increase in Minimum Wage? Direct Evidence on Firm's Internal Adjustments (tentative), mimeo, mimeo

5 北村 周平, 民主主義の経済学, 日経BP, 358, 2022

6 大竹 文雄, 内山 融, 小林 庸平, EBPM エビデンスに基づく政策形成の導入と実践, 日経BP 日本経済新聞出版, はじめに、第1章、第14章、終わりに、2022

7 大竹 文雄, 行動経済学の処方箋: 働き方から日常生活の悩みまで, 中央公論新社, xii, 236p, 2022

8 日本財政学会, 野口 晴子, 牧野 光朗, 大竹 文雄, 森田 稔, 佐藤 主光, 武田 公子, コロナ禍における政府支出のあり方と日本の財政, 有斐閣, シンポジウム コロナ禍における財政支出のあり方と日本の財政, 2022

9 大竹 文雄, 平井 啓, 実践医療現場の行動経済学: すれ違いの解消法, 東洋経済新報社, xii, 270, 19p, 2022

10 佐々木 周作, 自治体職員のためのナッジ入門: どうすれば望ましい行動を後押しできるか?, 公職研, 150, i-v, 解説, 2022

11 佐々木 周作, 社会の「困った」に寄り添う行動経済学 実践編・第08回 休暇取得の日数を増やすには?, 株式会社ウェッジ, Wedge (ウェッジ), 35, 1, 46, 2022.12

12 佐々木 周作, ヒトの食行動を行動経済学で読み解く, 医歯薬出版株式会社, 月刊デンタルハイジーン, 42, 12, 1350, 2022.12

13 佐々木 周作, 社会の「困った」に寄り添う行動経済学 実践編・第07回 CO2の排出量を下げるには?, 株式会社ウェッジ, Wedge (ウェッジ), 34, 12, 44, 2022.11

14 佐々木 周作, 社会の「困った」に寄り添う行動経済学 実践編・第06回 男性の育休取得率を上げるには?, 株式会社ウェッジ, Wedge (ウェッジ), 34, 11, 42, 2022.10

15 佐々木 周作, 視点争点 学者が斬る: ワクチン接種券の「郵送」は効果的, 毎日新聞出版, 週刊エコノミスト, 100, 37, 38, 2022.9

16 佐々木 周作, 社会の「困った」に寄り添う行動経済学 実践編・第05回 タクシーの違法客待ちを減らすには?, 株式会社ウェッジ, Wedge (ウェッジ), 34, 10, 44, 2022.9

17 佐々木 周作, 社会の「困った」に寄り添う行動経済学 実践編・第04回 健康寿命を延ばすには?, 株式会社ウェッジ, Wedge (ウェッジ), 34, 9, 70, 2022.8

18 佐々木 周作, 視点争点 学者が斬る: せっかちな高齢者ほど運転免許返納, 毎日新聞出版, 週刊エコノミスト, 100, 32, 40, 2022.8

19 佐々木 周作, 社会の「困った」に寄り添う行動経済学 実践編・第03回 投票率を上げるには?, 株式会社ウェッジ, Wedge (ウェッジ), 34, 8, 56, 2022.8

20 佐々木 周作, 視点争点 学者が斬る: 投票率上げる仕掛け「ナッジ」とは?, 毎日新聞出版, 週刊エコノミスト, 100, 27, 44, 2022.7

21 佐々木 周作, 社会の「困った」に寄り添う行動経済学 実践編・第02回 要支援者の確認書返送率を上げるには?, 株式会社ウェッジ, Wedge (ウェッジ), 34, 7, 48, 2022.6

22 佐々木 周作, 視点争点 学者が斬る: ワクチン接種者の「身内びいき」, 毎日新聞出版, 週刊エコノミスト, 100, 22, 38, 2022.5

23 佐々木 周作, 社会の「困った」に寄り添う行動経済学 実践編・第01回 納税の口座振替利用率を上げるには?, 株式会社ウェッジ, Wedge (ウェッジ), 34, 6, 52, 2022.5

24 佐々木 周作, 視点争点 学者が斬る: ワクチンの「自治体ガチャ」を防ぐには, 毎日新聞出版, 週刊エコノミスト, 100, 17, 42, 2022.4

25 佐々木 周作, 社会の「困った」に寄り添う行動経済学 第14回: ナッジの効果が小さくなって困った, 株式会社ウェッジ, Wedge (ウェッジ), 34, 5, 61, 2022.4

26 三浦 麻子, 社会心理を計算社会科学で読み解く, 経済セミナー 2022年12・2023年1月号 通巻 729号 (日本評論社), 5, 40-44, 2022.11

27 村上 靖彦, 「ヤングケアラー」とは誰か 家族を“気づかう”子どもたちの孤立, 朝日新聞出版, 346, 346, 2022.8

28 十川 幸司 (著), 藤山 直樹 (著), 精神分析のゆくり—臨床知と人文知の関, 金剛出版, 234, 22, 203-204, 2022.11

29 平井 啓, 行動経済学の観点からみた精神科診療における意思決定, 精神科, 41(4), 467-472.

30 平井 啓, 損失回避と精神科領域における受診・受療行動, 精神科治療学 37(4), 375-380., 375-380, 2022

31 大竹 文雄・平井 啓 (編著), 実践 医療現場の行動経済学 すれ違いの解消法., 東洋経済新報社, 2022.5

32 佐藤 真一 (編著), 心理老年学と臨床死生学, ミネルヴァ書房, 201-217, 2022.2

33 杉田 映理, 西尾 彰泰, 小林 潤, 実践 グローバルヘルス—現場における実践力向上をめざして—, 杏林書院, 223, 5, 176-180, 2022.4

34 Sugita, Elli, The Sanitation Triangle: An Interdisciplinary Framework for Global Sanitation, Springer, 264, 24, 65-88, 2022.3

35 杉田 映理・新本 万里子 (編著), 月経の人類学—女子生徒の「生理」と開発支援, 世界思想社, 302, 302, 2022.6

36 杉田 映理, 石鹸による手洗い推進—国際的動向と国際学校保健コンソーシアムへの期待, 小児内科, 55 (1), 95-98., 4, 95-98, 2023.1

37 池田 陽一, 佐々木 健志, 中野 貴志, 新型コロナウイルス感染流行ダイナミクスの理解と施策の評価, 応用物理学会, 2023

38 Sudeepa Abeysinghe, Claire Leppold, Akihiko Ozaki, Alison Lloyd Williams (Ed): (Michio Murakami: Chapter 7. Prioritizing health risks after the 3.11 disaster: The application of wellbeing indicators, pp.60-74), Health, Wellbeing and Community Recovery in Fukushima, Routledge Studies in Hazards, Disaster Risk and Climate Change, Routledge, 60-74, 2022

39 Kenji Kamiya, Hitoshi Ohto, Masaharu Maeda (Michio Murakami, Makiko Orita, and Naoya Sekiya: Chapter 14. Radiation risk perception after the Fukushima disaster, pp.247-263), Health effects of the Fukushima nuclear disaster, Elsevier, 247-263, 2022

40 Michio Murakami[†], Takashi Nagai[‡], Michiaki Kai[‡] These authors contributed equally to this work and shared co-first authorship., Ethical and social perspectives of risk assessment, management, and communication in radiological protection and chemical safety, Japanese Journal of Risk Analysis, 32, 2, 101-116, 2023

41 村上 道夫, 竹林 由武, トピックモデルを用いたリスク分野の俯瞰とリスク学事典との関係, リスク学研究, 31, 4, 305-312, 2022

42 インタビュアー 笹川 みちる, インタビュイー 村上道夫, 第1回 安全の拠りどころはどう決まる? みずからリスクを考える, 東京財団政策研究所 未知みちる水のインタビュー, R-2022-019, Available online 1 July 2022. <https://www.tkfd.or.jp/research/detail.php?id=4015>, 2022

43 Michio Murakami, Kenkichi Fujii, Wataru Naito, Masashi Kamo, Masaaki Kitajima, Tetsuo Yasutaka, Seiya Imoto: COVID-19 infection risk assessment and management at the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games: A scoping review, Journal of Infection and Public Health, 2023

44 井出 和希; 出口 康夫, 大庭 弘継 編, 軍事研究を哲学する—科学技術とデュアルユース—, 先端生命科学と情報技術の進展, 昭和堂, 2022

45 井出 和希, 第14回: 曖昧な情報と社会と薬剤師〜よりみちを振り返る〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 74, 2, 163 (323), 2023.2

46 井出 和希, 第13回: 新しい技術と私たちの生活〜「心地よい」導入と薬剤師の役割〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 74, 1, 150 (150), 2023.1

47 井出 和希, 第12回: 審査を経ないプレプリントと社会の関わり〜あの治療薬にまつわる混乱にも影響を及ぼしていた!〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 73, 13, 164 (3146), 2022.12

48 井出 和希, 第11回: 専門家による審査を受けていない研究成果?〜コロナ禍で活用が進んだ「プレプリント」とは〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 73, 12, 100 (2938), 2022.11

49 井出 和希, 第10回: そもそも「情報」はどのような過程を経て、世の中に出てくるの?〜コロナ禍の実例も踏まえて基本を押さえる〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 73, 11, 162 (2808), 2022.1

50 井出 和希, 第9回: 「ウイルス対策製品」のエビデンスって?〜論文から読み解いてみる〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 73, 10, 158 (2612), 2022.9

51 井出 和希, 第8回: 「ウイルス対策製品」って実際どうなの?〜行政が動いた事例から考える〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 73, 9, 120 (2414), 2022.8

[感染症・生体防御研究部門]

1 Dennis Adeegbe, Joseph Barbi, James Wing, Regulatory T lymphocytes in cancer immunity, Frontiers in Immunology, Frontiers in Immunology, 13, 2022

2 位高 啓史, 新規ワクチン・治療薬モダリティとしての mRNA, 臨床とウイルス, 136, 50(4):161-165, 2022.10

52 井出 和希, 第7回: 4回目接種、対象者はどのように決まった?〜今分かっていることを整理する〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 73, 8, 202 (2288), 2022.7

53 井出 和希, 第6回: 3回目? 4回目?〜新型コロナウイルスの追加接種について、今分かっていることは?〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 73, 7, 138 (2048), 2022.6

54 井出 和希, 第5回: 治療薬にまつわる企業発信の情報〜中立性、その後の報道をどう考える?〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 73, 6, 152 (1902), 2022.5

55 井出 和希, 第4回: ワクチン接種証明書アプリ〜世に出るまでの議論や社会に対する影響は?〜 (連載 薬剤師の知って得りテラシー), 薬局, 73, 5, 145 (1711), 2022.4

3 位高 啓史, 新規創薬・ワクチンモダリティとしての mRNA, 別冊・医学のあゆみ ワクチン設計のサイエンス (医歯薬出版), 72-76, 2022.10

4 位高 啓史, mRNA 医薬概論 (mRNA 医薬とは), 核酸医薬・mRNA 医薬の製造分析の基礎と基盤技術開発 (CMC リサーチ), 157-162, 2023.2

[人材育成部門]

1 佐田 竜一 (編), 不明熱のカルテ, 南山堂, 152ページ, 2023.3

2 山本 剛, 臨床と微生物 Pneumocystis jirovecii, 近代出版, 3, 2022.9

3 山本 舜悟, 【かぜ症状 しっかり見極め、きちんと対応!】「かぜ?」と思ったら必ず押さえておきたい基本事項, 羊土社, レジデントノート, 24, 13, 2194, 2022

4 山本 舜悟, 風邪と新型コロナとインフルエンザ, 中外医学社, J-IDEO, 7, 1, 4, 2023

5 佐田 竜一, 木村 武司, 長野 広之, ゲストライブ Improvisation (第19回) なぜ僕らは現場で「教育」するのか? “どうする!?” サロン” 始めます (座談会), 総合診療, 32, 10, 1167, 2022

6 佐田 竜一, 【日常診療に潜む臨床検査のビットフォールを回避せよ】 糞便検査・穿刺液検査 (Case 21.) 発熱・腹痛と嘔吐・下痢だったら感染性腸炎じゃないの? (解説), Medicina, 59, 8, 1304, 2022

7 鋪野 紀好, 佐田 竜一, 三澤 美和, 【日常診療に潜む臨床検査のビットフォールを回避せよ】 臨床検査でのエラーを回避するために (座談会), Medicina, 59, 8, 1206, 2022

[企画室等]

1 Colley, K. J., A. Varki, R. S. Haltiwanger and T. Kinoshita. Cellular organization of glycosylation. p43-51. In Essentials of Glycobiology 4th ed. Varki, A., Cummings, R.D., Esko, J.D., Stanley, P., Hart, G.W., Aebi, M., Darvill, A., Kinoshita, T., Packer, N.J., Prestegard, J., Schnaar, R., Seeberger, P. (eds.), Cold Spring Harbor Laboratory Press: Cold Spring Harbor, NY. 2022.

2 Schnaar, R. L., R. Sandhoff, M. Tiemeyer and T. Kinoshita. Glycosphingolipids. p129-139. In Essentials of Glycobiology 4th ed. Varki, A., Cummings, R.D., Esko, J.D., Stanley, P., Hart, G.W., Aebi, M., Darvill, A., Kinoshita, T., Packer, N.J., Prestegard, J., Schnaar, R., Seeberger, P. (eds.), Cold Spring Harbor Laboratory Press: Cold Spring Harbor, NY. 2022.

3 Komath, S. S., M. Fujita, G. W. Hart, M. A. J. Ferguson and T. Kinoshita. Glycosylphosphatidylinositol anchors. p141-154. In Essentials of Glycobiology 4th ed. Varki, A., Cummings, R.D., Esko, J.D., Stanley, P., Hart, G.W., Aebi, M., Darvill, A., Kinoshita, T., Packer, N.J., Prestegard, J., Schnaar, R., Seeberger, P. (eds.), Cold Spring Harbor Laboratory Press: Cold Spring Harbor, NY. 2022.

4 Freeze, H. H., R. Steet, T. Suzuki, T. Kinoshita and R. L. Schnaar. Genetic disorders of glycan degradation. p583-598. In Essentials of Glycobiology 4th ed. Varki, A., Cummings, R.D., Esko, J.D., Stanley, P., Hart, G.W., Aebi, M., Darvill, A., Kinoshita, T., Packer, N.J., Prestegard, J., Schnaar, R., Seeberger, P. (eds.), Cold Spring Harbor Laboratory Press: Cold Spring Harbor, NY. 2022.

5 Lefeber, D. J. H. H. Freeze, R. Steet and T. Kinoshita. Congenital disorders of glycosylation. p599-614. In Essentials of Glycobiology 4th ed. Varki, A., Cummings, R.D., Esko, J.D., Stanley, P., Hart, G.W., Aebi, M., Darvill, A., Kinoshita, T., Packer, N.J., Prestegard, J., Schnaar, R., Seeberger, P. (eds.), Cold Spring Harbor Laboratory Press: Cold Spring Harbor, NY. 2022.

6 Sackstein, R., K. M. Hoffmeister, S. R. Stowell, T. Kinoshita, A. Varki, and H. H. Freeze. Glycans in acquired human diseases. p615-629. In Essentials of Glycobiology 4th ed. Varki, A., Cummings, R.D., Esko, J.D., Stanley, P., Hart, G.W., Aebi, M., Darvill, A., Kinoshita, T., Packer, N.J., Prestegard, J., Schnaar, R., Seeberger, P. (eds.), Cold Spring Harbor Laboratory Press: Cold Spring Harbor, NY. 2022.

7 菊池 章, 転んでもただでは起きない〜失敗から学ぶ〜, 日本生化学会, 生化学, 94, 5, 645, 2022

8 Kikuchi A, Matsumoto S, Sada R., Dickkopf signaling, beyond Wnt-mediated biology, Semin Cell Dev Biol, 125, 55, 2022

9 Nagley P, Svasti J, Kikuchi A., Reflections on the 50-year history of the Federation of Asian and Oceanian Biochemists and Molecular Biologists (FAOBMB), IUBMB Life, 74, 12, 1126, 2022

10 Kikuchi A, Chang Z, Gleeson PA., A special issue of IUBMB Life celebrating the 50th anniversary of FAOBMB, IUBMB Life, 74, 12, 1124, 2022

11 Kikuchi A, Takagi J, Takada S, Ishitani T, Minami Y, Wnt 2022. Genss to Cells, doi: 10.1111/gtc.13014, 2023

受賞

受賞者名	受賞名
大竹 文雄	PEP 政策起業家プラットフォーム ジャーナリズム大賞オビニオン部門賞
楠見 孝、西川 一二、三浦 麻子	日本心理学会2022年度学術大会特別優秀発表賞
村上 道夫	公益社団法人日本プロサッカーリーグ 功労賞
村上 道夫	一般社団法人日本野球機構「NPB 特別功労賞」
井出 和希	8th Fine Art Photography Awards (Conceptual), Professional Nominee
井出 和希	70 Verified Peer Review (Last 12 Months, Top 1% in the World: Web of Science)
森 大輝	日本免疫学会 2022 年若手免疫学研究支援事業受賞者
位高 啓史	第44回日本バイオマテリアル学会大会 ハイライト発表
佐田 竜一	E- コンサル AWARD 2021 総合内科部門、特別賞「最多オビニオン賞」
佐田 竜一	E- コンサル AWARD 2022 年間総合最多コンサル部門、総合内科部門、感染症内科部門、腎臓内科部門

メディア掲載状況

新聞	TV	WEB	その他
84件	52件	193件	15件

社会貢献 (公的機関における主な委員等)

氏名	機関名	委員名
大竹 文雄	新型インフルエンザ等対策室	新型インフルエンザ等対策推進会議委員
大竹 文雄	広島県	広島県「データを活用した働き盛り世代の生活習慣改善に係る検討会」委員
大竹 文雄	文部科学省初等中等教育局	中央教育審議会臨時委員
大竹 文雄	広島県	アドバイザー (Green Sea 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム ワーキンググループでのアドバイザー)
大竹 文雄	大阪府	大阪府住生活審議会委員
大竹 文雄	国立教育政策研究所	国立教育政策研究所評議員
大竹 文雄	厚生労働省職業安定局	雇用政策研究会構成員
大竹 文雄	尼崎市	学びと育ち研究機関所長 (特別職非常勤職員)
大竹 文雄	内閣官房行政改革推進本部事務局	EBPM 有識者
大竹 文雄	内閣府大臣官房企画調整課	税制調査会特別委員
大竹 文雄	環境省地球環境局	
中野 貴志	大阪府	新型コロナウイルス対策本部専門家会議オブザーバー
中野 貴志	文部科学省研究振興局	科学技術・学術審議会・学術分科会 臨時委員
中野 貴志	文部科学省研究振興局	科学技術・学術審議会・学術分科会 研究費部会 臨時委員
中野 貴志	文部科学省研究振興局	科学技術・学術審議会・学術分科会 研究環境基盤部会 臨時委員
中野 貴志	文部科学省研究振興局	科学技術・学術審議会・学術分科会 研究環境基盤部会・学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会 専門委員
中野 貴志	文部科学省研究振興局	国際リニアコライダー (ILC) に関する有識者会議委員
竹田 潔	内閣府	日本学術会議・連携会員
忽那 賢志	大阪府	新型コロナウイルス対策本部会議専門家会議委員
忽那 賢志	厚生労働省	新型コロナウイルス感染症 診療の手引き編集委員
忽那 賢志	厚生労働省	新型コロナウイルス感染症 診療の手引き別冊罹患後症状のマネジメント編集委員

外部資金 (CiDER 管理)

[科学情報・公共政策部門]

代表者	課題名	出資機関	金額
北村 周平	気候と発展	日本学術振興会 (科研費 若手研究)	¥1,040,000
北村 周平 (分担)	不動産市場とマクロ経済: 大規模マイクロデータを用いた解明	日本学術振興会 (科研費 基盤研究 A)	¥650,000
北村 周平 (分担)	GPS データを用いた観光需要と観光外部性の研究	日本学術振興会 (科研費 基盤研究 B)	¥130,000
佐々木 周作	不確実な感染症政策に対する協力基盤の構築	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ	¥15,600,000
佐々木 周作 (分担)	予防・健康づくりサービスの選択に資する多面的価値評価に関する研究	日本医療研究開発機構 (予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業 ヘルスケア社会実装基盤整備事業)	¥2,600,000
佐々木 周作 (分担)	行動経済学の政策応用—医療、防災、防犯、労働、教育—	日本学術振興会 (科研費 基盤研究 S)	¥1,950,000
佐々木 周作 (分担)	公共部門における非財務指標の有用性	日本学術振興会 (科研費 基盤研究 B)	¥260,000
佐々木 周作 (分担)	行動データとヘルスデータに基づくセグメンテーション・ナッジの開発と実装	日本学術振興会 (科研費 基盤研究 B)	¥390,000
八木橋 真央	心的トラウマ有する TBI 患者に対する心理的回復スキル向上プログラムの有効性の検証	日本学術振興会 (科研費 若手研究)	¥1,560,000
八木橋 真央	泉大津市リビングラボ推進事業	泉大津市 (泉大津市リビングラボ推進事業)	¥1,000,000
池田 陽一	第一原理計算と深層学習によるハドロン間相互作用の研究	日本学術振興会 (科研費 基盤研究 C)	¥1,040,000
池田 陽一	第一原理計算で明らかにするチャームハドロン相互作用	理化学研究所 計算科学研究センター「富岳」一般課題: R04年度公募 (B 期)	¥0
村上 道夫 (分担)	県外最終処分・周辺地域の将来デザイン利用に向けた社会受容性評価と合意形成フレームワークに関する研究	産業技術総合研究所 (環境研究総合推進費)	¥6,497,556
村上 道夫	幸福余命の算出と環境及び災害関連健康リスク評価への適用	日本学術振興会 (科研費 基盤研究 B)	¥1,300,000
村上 道夫 (分担)	水系における薬剤耐性菌による環境リスク評価	日本学術振興会 (科研費 基盤研究 B)	¥455,000
村上 道夫 (分担)	災害多発アジア3カ国における学童のヘルスリテラシー向上: クリエイティブヘルス介入	日本学術振興会 (科研費 国際強化 B)	¥130,000
村上 道夫 (分担)	ヘルスリテラシースキルの次世代への伝達メカニズムの可視化	日本学術振興会 (科研費 基盤研究 C)	¥0

[感染症・生体防御研究部門]

代表者	課題名	出資機関	金額
伊勢 涉	プラズマ細胞の長期生存と免疫調節機能を支える分子基盤の解明	日本学術振興会 (科研費 基盤研究 B)	¥5,980,000
伊勢 涉	変異ウイルスに対応可能な液性免疫応答の誘導機構とヒト免疫システムの研究への助成	武田科学振興財団	¥30,000,000
伊勢 涉	プラズマ細胞の移動と生存を制御する新しいメカニズム	先進医薬研究振興財団	¥1,000,000
伊勢 涉	プラズマ細胞の長期生存ニッチへの移動と定着を支える新たな分子メカニズム	第一三共生命科学研究振興財団	¥2,000,000
小池 拓矢	記憶 B 細胞の生存ニッチに重要な因子・細胞の同定	日本学術振興会 (科研費 若手研究)	¥1,300,000
小池 拓矢	抗体産生細胞の長寿化機構の解明	日本学術振興会 (科研費 特別研究員奨励費)	¥1,560,000
森 大輝	T 細胞補助刺激シグナルによる記憶細胞分化機構の分子基盤の解明	日本学術振興会 (科研費 研究スタート支援)	¥1,430,000
森 大輝	補助刺激シグナル下流で働く PI3K 経路を制御する分子の同定と記憶細胞分化への役割の解明	持田記念医学薬学振興財団	¥3,000,000
森 大輝	濾胞性ヘルパー T 細胞による胚中心維持機構の解明研究への助成	アステラス病態代謝研究会	¥2,000,000
森 大輝	2022年度『血液医学 分野助成』血液医学分野若手研究者助成金	先進医薬研究振興財団	¥1,000,000

代表者	課題名	出資機関	金額
森 大輝	濾胞性ヘルパーT細胞の記憶細胞分化の分子基盤の解明	上原記念生命科学財団	¥2,000,000
松浦 善治	世界モデルとなる自律成長型人材・技術を育む総合健康産業都市拠点	科学技術振興機構 研究成果展開事業 共創の場形成支援（共創の場形成支援プログラム）	¥0
松浦 善治（分担）	光コムの医光融合研究に立脚した新興・再興ウイルスの超高度感度・迅速検出	日本学術振興会（科研費 基盤研究 A）	¥3,445,000
松浦 善治	ウイルス多様性と病原性における細胞外小胞の役割の解明とその応用	日本学術振興会（外国人特別研究員 調査研究費）	¥840,000
小野 慎子	肝発がん等を考慮した C 型肝炎治療後の病態及び経過に関する研究	日本医療研究開発機構（肝炎等克服緊急対策研究事業）	¥2,600,000
小野 慎子（分担）	C型肝炎ウイルス排除後の病態と予後を規定する因子に関する研究	日本医療研究開発機構（肝炎等克服緊急対策研究事業）	¥1,300,000
小野 慎子（分担）	革新的な組換え SARS-CoV-2を用いた新規感染手法（P2感染モデル、In vivo Imaging、汎用的マウスモデル）の確立と応用研究	日本医療研究開発機構（新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業）	¥4,550,000
小野 慎子	SARS-CoV-2増殖におけるマイクロRNAの機能解析	日本学術振興会（科研費 基盤研究 C）	¥1,300,000
小野 慎子（分担）	高速リパースジェネティクス系を駆使した新興再興ウイルス研究の推進	日本学術振興会（科研費 基盤研究 B）	¥390,000
田嶽 修平	ウイルスプロテオスタシスから観る宿主蛋白質品質管理機構とその応用	日本学術振興会（科研費 基盤研究 B）	¥6,110,000
田嶽 修平	類縁ウイルスによる多様な宿主因子依存性を診るシステムの開発	日本学術振興会（科研費 研究スタート支援）	¥650,000
田嶽 修平（分担）	ゲノムワイドスクリーニングによる SFTSV の増殖制御宿主因子の同定	日本医療研究開発機構（新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業）	¥23,400,000

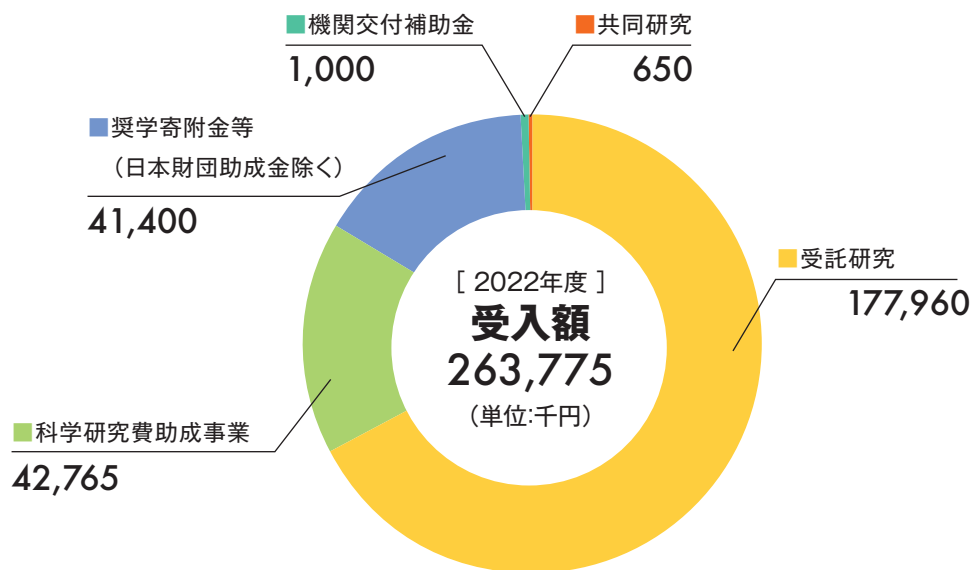
【 企画室等 】

代表者	課題名	出資機関	金額
菊池 章	抗 CKAP4抗体を用いた新規がん治療法開発	日本医療研究開発機構（橋渡し研究プログラム）	¥65,000,000
菊池 章	GREB1 による悪性腫瘍発症機構の解明にもとづく新規抗がん剤の研究開発	日本医療研究開発機構（次世代がん医療加速化研究事業）	¥32,900,000
菊池 章	Wnt シグナル応答性の新規組織幹・前駆細胞の同定と機能解析	日本学術振興会（科研費 基盤研究 A）	¥8,190,000
菊池 章	炎症を背景とした腫瘍形成における線維芽細胞リモデリングの解析	日本学術振興会（科研費 挑戦的研究（萌芽））	¥2,600,000
菊池 章	Mechanistic Studies of CKAP4 and DKN-01 in Cancer	Leap Therapeutics	¥5,713,539
菊池 章	癌領域における新規創薬標的分子に関する研究	中外製薬	¥650,000
細川 吉弥	2022年度 成人病の病因・病態の解明に関する研究助成（TMFC）	日本応用酵素協会	¥400,000

外部資金（他部局管理）

代表者	課題名	出資機関	金額
大竹 文雄	行動経済学の政策応用—医療、防災、防犯、労働、教育—	日本学術振興会（科研費 基盤研究 S）	¥38,610,000
大竹 文雄（分担）	風しん第 5 期定期接種の対策期間延長における風しん予防接種促進に関する研究	厚生労働省（科研費）	¥55,588,000
大竹 文雄（分担）	骨髄バンクドナーの提供体制強化と若年ドナーの確保・リテンションへ向けた適切な介入方法の確立のための研究	厚生労働省（科研費）	¥650,000
大竹 文雄（分担）	信頼・応報性・利他性の通時および個人間変動に関する国際比較可能な個人追跡実験研究	日本学術振興会（科研費 挑戦的研究開拓）	¥650,000
大竹 文雄（分担）	女性の競争参加に関するオキシトシン投与実験	日本学術振興会（科研費 挑戦的研究萌芽）	¥1,105,000
三浦 麻子	社会的態度の個人差を説明する価値観としての「常民性」概念の探究	日本学術振興会（科研費 基盤研究 B）	¥3,120,000
村上 靖彦	〈社会的排除〉と〈言葉の喪失〉はどのように連結しているのか？	日本学術振興会（科研費 基盤研究 C）	¥910,000
平井 啓	メンタルヘルスケア受診行動の適正化のための心理教育プログラムの開発と有効性の検証	日本学術振興会（科研費 基盤研究 B）	¥4,290,000
平井 啓	放射線に対する恐怖・不安により生じる行動のメカニズムと心理学・行動経済学的制御に関する研究	環境省（令和 3 年度放射線健康管理・健康不安対策事業）	¥6,913,185
杉田 映理	現代日本の文脈に即した月経に関する教育の在り方の検討	日本学術振興会（科研費 基盤研究 B）	¥4,160,000
James Wing	Multi-omics dissection of T-cells in autoimmunity and the tonsillar environment（Wing James）	大阪大学免疫学フロンティア研究センター	¥7,000,000
James Wing	新型コロナウイルス感染症の日本人患者における単細胞プロテオーム解析（Wing James）	武田財団	¥3,000,000
James Wing	Dynamic analysis of human Tregs by newly-developed single cell platform（Wing James）	中外製薬	¥2,000,000
James Wing（分担）	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 大阪府シナジーキャンパス（大阪大学ワクチン開発拠点）	日本医療研究開発機構（ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業）	¥9,000,000
James Wing	Machine learning optimized FACS of complex human cellular populations	大阪大学免疫学フロンティア研究センター	¥1,500,000
伊勢 渉（分担）	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 大阪府シナジーキャンパス（大阪大学ワクチン開発拠点）	日本医療研究開発機構（ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業）	¥5,000,000
位高 啓史（分担）	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 大阪府シナジーキャンパス（大阪大学ワクチン開発拠点）	日本医療研究開発機構（ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業）	¥19,500,000
和田 聖哉	診断支援の判断根拠に応用可能な医学知識データベース自動構築システムの開発	日本学術振興会（科研費 基盤研究 C）	¥2,363,492

外部資金受入額 (CiDER 管理)



収入・支出 (CiDER 管理)

